

旭川市博物館
研究報告 第3号
1997

目 次

- 北海道低地における石灰岩地帯の植物 I
～上川管内占冠村石灰岩地帯の植物相～ 堀江 健二・野坂 志朗 1
- 北海道のツチガエル *Rana rugosa* (Ranidae, Amphibia) は
native か? immigrant か? - 札幌地区及び羽幌地区を例にして
..... 斎藤 和範・有田 智彦 11
- 旭川市周辺におけるツチガエル *Rana rugosa* の分布
..... 出羽 寛・斎藤和範・南 尚貴 19
- 春光台公園でみられたカキラン、ヤマトキソウ、
モウセンゴケの植生環境について 鈴木 紘一・塩田 悅・盛 久良 25
- 現代社会における博物館施設の意義 斎藤 優 31
- 旭川採集アイヌ語動詞語彙集III 魚井 一由 41
- 教育普及活動に関するアンケート(結果) 向井 正幸・岡本 達哉 71

旭川市博物館研究報告第3号 正誤表

頁	列	行	誤	正
23	左	7	Nshioka . M	Nishioka M.,
23	左	13	Nshioka. M, H. Hanada	Nishioka M., H. Hanada,
23	左	16	Lad.	Lab.
26		2	*木木層	*木本層
47	左	5	展開	天界
56	右	35	rish(引き抜く。振りかざす) tek (軽微 態)	rish(①引き摶む②振りかざす) tek (状 態)
56	右	36	のちよつと摶む	①引き摶む
56	右	37	私を摶んだ	私を引き摶んだ
58	右	17	暖まる	暖める
58	左	15	kir (回る) u (他動詞化語尾)	kru (上下左右の向きを変える)
66	右	12-13	集まる	集める

Title	北海道低地における石灰岩地帯の植物 I ～上川管内占冠村石灰岩地帯の植物相
Authour(s)	堀江 健二 野坂 志朗
Citation	旭川市博物館研究報告,3号,pp1-10
Issue Date	1997-3-31
URL	http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hakubutsukagaku/museum/tvosa/kenkyu/hak03/1-10.pdf

北海道低地における石灰岩地帯の植物 I

～上川管内占冠村石灰岩地帯の植物相～

The limestone flora of lowland areas in Hokkaido, Japan I
A list of plants in Shimekappu Prov. Kamikawa

堀 江 健 二¹⁾・野 坂 志 朗²⁾
Kenji Horie Shiro Nosaka

1) 北海道旭川西高等学校

2) 元愛知教育大学

Abstract

This paper deals with the lowland (lower than ca. 500m alt.) limestone flora of Hokkaido. The characteristic of limestone flora is known by including many special plants to be called 'limestone plants'. In this chapter, the limestone florula in Shimekappu was described.

156 species of vascular plants were recorded from the limestone area in Shimekappu. These belong to 119 genera and 63 families.

The note-worthy plants are as follows : *Lastrea robertiana* var. *longula*, *Camptosorus sibiricus*, *Berberis amurensis* var. *japonica*, *Euphorbia sieboldiana* var. *montana*, *Mitella nuda*, *Angelica acutiloba* var. *iwatensis*, *Cortusa matthioli* var. *yedoensis*, *Cynanchum inamoenum* etc.

1. はじめに

石灰岩は、蛇紋岩(超塩基性岩)と同様にその特異な化学組成のため、植物の生育・分布に大きな影響を与え、岩上に特異な植物相を呈していることは既知の通りである。

石灰岩はCaの含有量が多く、アルカリ性を示す。そのため植物の生育にとって不都合な土壤となっていると考えられている。

北海道における石灰岩地の植物相等の研究は、高山帯については、渡邊定元(大平山・1956)や渡邊定元・佐藤謙(蛭山・1971)、稻垣貫一・豊国秀夫(蛭山・1971)によって報告されているが、低地(標高500m以下)については、清水建美(目梨泊、岩屋及び上磯、1962)の報告の他には、ほとんど

調査報告がなされていない。

北海道の低地(標高500m以下)の石灰岩地は規模は小さいが、その植物相については、以後調査結果を順次報告していきたいと考えている。

本報告は、1981年より行ってきた上川管内占冠村石灰岩地帯の植物相の調査資料を整理したものである。

2. 地質・地形

本地域は、上川管内占冠村双珠別の東側を流れる双珠別川の支流フンベツ沢川沿いに分布する石灰岩地である。石灰岩の介在する地層は、中生代白亜紀のエゾ層群に属し、砂岩を主体としている。石灰岩の露頭は幅約20m、高さ約30mの大きさで

フンベツ沢川に面しており、その周囲は石灰岩礫地の斜面となり、標高は約390mである。

3. 調査結果

1) 植物相の構成

本報告でリストアップした植物は、石灰岩植物相を強く特徴づける石灰岩壁と石灰岩礫地に生育する植物を対象とした。高等植物相の構成は、63科119属156種である。

学名は、主として大井次三郎(1973)に準拠した。

2) 特記すべき植物

(1) イワウサギシダ

Lastrea robertiana var. *longula*

石灰岩壁、岩礫地に産する。石灰岩との結びつきがかなり強く、石灰岩植物とされている。北海道では蛇紋岩地にも生育するが、それ以外の岩質地では極く稀で、特殊岩地に分布が偏在しているシダ植物である。

(2) クモノスシダ

Camptosorus sibiricus

石灰岩壁の陰湿な日陰に産する。本種も石灰岩

植物の一つに数えられている。北海道では、砂岩などの堆積岩や変成岩にも稀産する。

(3) ヒロハノヘビノボラズ

Berberis amurensis var. *japonica*

石灰岩峰の頂上部に産する。本種は超塩基性岩特生植物(蛇紋岩特生植物)で、北海道では、蛇紋岩地に比較的多く見られるが、石灰岩地にも偏在的に分布する。

(4) ヒメナツトウダイ

Euphorbia sieboldiana var. *montana*

石灰岩礫地に産する。本種は超塩基性岩特生植物に数えられるが、石灰岩地にも分布生育する。

(5) マルバチャルメルソウ

Mitella nuda

石灰岩礫地にコケ植物と混生する。北海道での分布生育地は少なく稀産植物の一つである。石灰岩地では、蛭山の高山帯に産するが、低地での分布は極めて稀である。

(6) ミヤマトウキ

Angelica acutiloba var. *iwatensis*

石灰岩壁に産する。葉が1~2cmと細い。本石灰岩地の占冠村に隣接する、穂別町低地の蛇紋岩地に生育するホソバトウキ(*A. acutiloba* var. *lanceolata*)に近い形態を示す。

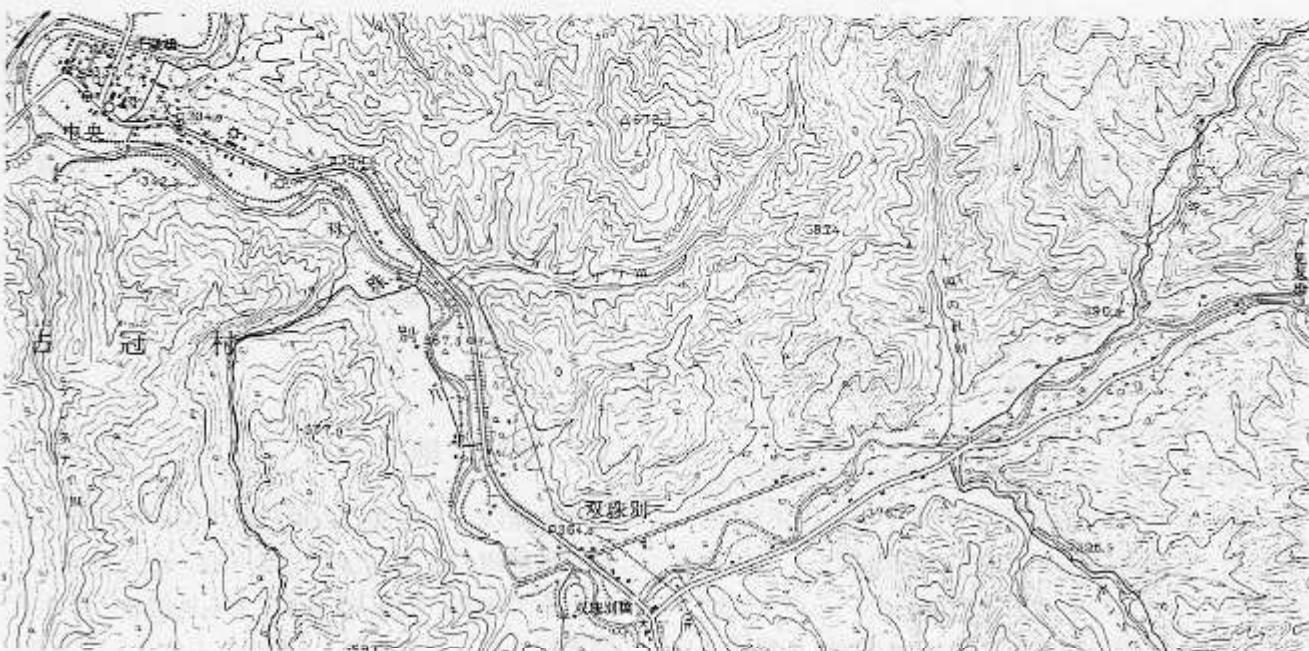


図1 調査地 (国土地理院5万分の1地形図「日高」の一部使用)

(7) サクラソウモドキ

Cortusa matthioli var. *yedoensis*

石灰岩壁の陰湿な日陰に産する。本種は石灰岩植物で、大平山や蛭山の高山帯にも産するが、低地での分布は特定されている。

(8) エゾノクサタチバナ

Cynanchum inamoenum

石灰岩壁、岩礫地に稀産する。北海道での分布生育地は少なく稀産植物である。石灰岩地では大平山と蛭山にも産するが、いずれも個体数は少ない。

その他、エゾノヒメクラマゴケ、カラクサシダ、オウレンシダ、ツルデンダ、エゾオトギリ、エゾシモツケ、チャボカラマツ、アイヌタチツボスミレ、カワミドリ、オオサクラソウ等の分布も貴重である。

3) 植物相の概要

石灰岩壁上には、木本類ではヒロハノヘビノボラズ、エゾシモツケ、エゾノシロバナシモツケ、エゾスグリ、エゾムラサキツツジ等の灌木に、ツタウルシ、ゴトウヅル等のつる性木本が見られる。

草本類ではエゾオトギリ、ミヤマトウキ、チャボカラマツ、キリンソウ、アイヌタチツボスミレ、

ヤマハナソウ、ホソバヒカゲスゲ、エゾノクサタチバナ、カワミドリ、エゾムカシヨモギ等が、日陰にはダイモンジソウ、サクラソウモドキ、マルバチャルメルソウが張り付いている。

シダ類ではエゾノヒメクラマゴケ、イワデンダ、ツルデンダ、イワウサギシダ、クモノスシダ、コタニワタリ、オウレンシダ、ミヤマノキシノブ等を産する。

岩峰周囲の石灰岩礫地では、木本類のシウリザクラ、ミズキ、シラカンバ、ハクウンボク、アオダモ、ニガキ等の高木と低木のミツバウツギ、オオツリバナ、低木状の樹高 2 m 程度のイタヤカエデ、ハウチワカエデ等が混生する。

草本類ではショウジョウスゲ、ニリンソウ、ヒメイチゲ、エゾトリカブト、ヤブニンジン、ヒメナツトウダイ、ルイヨウボタン、ナンブソウ、コキンバイ、オクエゾサイシン、オオサクラソウ、ハエドクソウ、ホソバノツルリンドウ、チシマアザミ、ヨブスマソウ、オオヨモギ、クルマユリ、ユキザサ、クルマバツクバネソウ等が生育する。

シダ類ではオシダ、ホソイノデ、シラネワラビ、ナライシダ、イスガソクソク、ミヤマワラビ、ジュウモンジシダ、イワガネゼンマイ、クジャクシダ、カラクサシダ、ホソバトウゲシバ等が見られる。

高等植物目録

PTERIDOPHYTA シダ植物

Lycopodiaceae ヒカゲノカズラ科

- 1.
- Lycopodium obscurum*
- Linn.

マンネンスギ

岩礫地

- 2.
- Lycopodium serratum*
- Thunberg

ホソバトウゲシバ

岩礫地

Selaginellaceae イワヒバ科

- 3.
- Selaginella helvetica*
- Link

エゾノヒメクラマゴケ

稀産・岩壁

Pteridaceae ワラビ科

- 4.
- Adiantum pedatum*
- Linn.

クジャクシダ

岩礫地

- 5.
- Coniogramme fraxinea*
- Diels
-
- var.
- intermedia*
- C. Chr.

イワガネゼンマイ

岩礫地

- 6.
- Dennstaedtia wilfordii*
- Koidz.

オウレンシダ

岩壁

- 7.
- Pleurosoriopsis makinoi*
- Fomin

カラクサシダ

稀産・岩礫地

Aspidiaceae オシダ科

- 8.
- Arachniodes mutica*
- Ohwi

シノブカグマ

稀産・岩礫地

- 9.
- Athyrium pycnosorum*
- H. Chr.

ミヤマシケシダ

岩礫地

- 10.
- Athyrium vidalii*
- Nakai

ヤマイヌワラビ

岩礫地

65. <i>Pseudostellaria sylvatica</i> Pax		エゾエンゴサク	岩礫地
クシロワチガイソウ	稀産・岩礫地		
<i>Cercidiphyllaceae</i> カツラ科		Cruciferae アブラナ科	
66. <i>Cercidiphyllum japonicum</i> Sieb. et Zucc.		80. <i>Cardamine leucantha</i> O. E. Schulz	
カツラ	岩礫地	コンロンソウ	岩礫地
<i>Ranunculaceae</i> キンポウゲ科		<i>Crassulaceae</i> ベンケイソウ科	
67. <i>Aconitum yesoense</i> Nakai		81. <i>Sedum kamtschaticum</i> Fischer	
エゾトリカブト	岩礫地	キリンソウ	岩壁
68. <i>Actaea asiatica</i> Hara		<i>Saxifragaceae</i> ユキノシタ科	
ルイヨウショウマ	岩礫地	82. <i>Chrysosplenium flagelliferum</i> Fr. Schm.	
69. <i>Anemone debilis</i> Fischer		ツルネコノメソウ	岩礫地
ヒメイチゲ	岩礫地	83. <i>Chrysosplenium ramosum</i> Maxim.	
70. <i>Anemone flaccida</i> Fr. Schm.		マルバネコノメソウ	稀産・岩礫地
ニリンソウ	岩礫地	84. <i>Hydrangea macrophylla</i> Ser.	
71. <i>Clematis ochotensis</i> Poir.		var. <i>megacarpa</i> Ohwi	
ミヤマハンショウヅル	岩壁	エゾアジサイ	岩礫地
72. <i>Thalictrum aquilegifolium</i> Linn.		85. <i>Hydrangea paniculata</i> Siebold	
カラマツソウ	岩壁・岩礫地	ノリウツギ	岩礫地
73. <i>Thalictrum foetidum</i> Linn.		86. <i>Hydrangea petiolaris</i> Sieb. et Zucc.	
var. <i>glabrescens</i> Takeda		ゴトウヅル	岩壁・岩礫地
チャボカラマツ	岩壁	87. <i>Mitella nuda</i> Linn.	
74. <i>Thalictrum minus</i> Linn.		マルバチャルメルソウ	稀産・岩礫地
var. <i>hypoleucum</i> Miq.		88. <i>Ribes latifolium</i> Jancz.	
アキカラマツ	岩壁・岩礫地	エゾスグリ	岩壁・岩礫地
<i>Berberidaceae</i> メギ科		89. <i>Saxifraga fortunei</i> Hook. fil.	
75. <i>Achlys japonica</i> Maxim.		var. <i>incisolobata</i> Nakai	
ナンブソウ	稀産・岩礫地	ダイモンジソウ	岩壁
76. <i>Berberis amurensis</i> Rupr.		90. <i>Saxifraga sachalinensis</i> Fr. Schm.	
var. <i>japonica</i> Rehd.		ヤマハナソウ	岩壁
ヒロハノヘビノボラズ	稀産・岩壁	91. <i>Tiarella polyphylla</i> D. Don	
77. <i>Caulophyllum robustum</i> Maxim.		ズダヤクシュ	岩礫地
ルイヨウボタン	岩礫地	92. <i>Viburnum opulus</i> Linn.	
<i>Magnoliaceae</i> モクレン科		var. <i>calvescens</i> Hara	
78. <i>Schisandra chinensis</i> Baill.		カンボク	岩礫地
チョウセンゴミシ	岩礫地	<i>Rosaceae</i> バラ科	
<i>Papaveraceae</i> ケシ科		93. <i>Aruncus dioicus</i> Fern.	
79. <i>Corydalis ambigua</i> Cham. et Schlecht.		var. <i>kamtschaticus</i> Hara	
		ヤマブキショウマ	岩壁・岩礫地
		94. <i>Filipendula kamtschatica</i> Maxim.	

11. <i>Dryopteris austriaca</i> Woynar シラネワラビ	岩礫地	Pinaceae マツ科 26. <i>Abies sachalinensis</i> Masters トドマツ	岩壁・岩礫地
12. <i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai オシダ	岩礫地	27. <i>Picea jezoensis</i> Carr. エゾマツ	岩壁・岩礫地
13. <i>Lastrea phegopteris</i> Bory ミヤマワラビ	岩礫地		
14. <i>Lastrea robertiana</i> Newm. var. <i>longula</i> Ohwi イワウサギシダ	岩壁・岩礫地	SPERMATOPHYTA 種子植物 ANGIOSPERMAE 被子植物 Monocotyledoneae 单子葉植物	
15. <i>Matteuccia orientalis</i> Trev. イスガシソク	岩礫地	Gramineae イネ科 28. <i>Agropyron yezoense</i> Honda エゾカモジグサ	岩礫地
16. <i>Polystichum braunii</i> Fée ホソイノデ	岩礫地	29. <i>Calamagrostis hakonensis</i> Franch. et Savat. ヒメノガリヤス	岩壁・岩礫地
17. <i>Polystichum craspedosorum</i> Diels ツルデンダ	岩壁	30. <i>Melica nutans</i> Linn. コメガヤ	岩壁・岩礫地
18. <i>Polystichum tripterion</i> Presl ジュウモンジシダ	岩礫地	31. <i>Sasa senanensis</i> Rehd. クマイザサ	岩礫地
19. <i>Rumohra miquelianiana</i> Ching ナライシダ	岩礫地		
20. <i>Woodsia polystichoides</i> Eaton イワデンダ	岩壁	Cyperaceae カヤツリグサ科 32. <i>Carex blepharicarpa</i> Franch. ショウジョウスゲ	岩壁・岩礫地
Aspleniaceae チャセンシダ科		33. <i>Carex breviculmis</i> R. Br. アオスゲ	岩礫地
21. <i>Asplenium scolopendrium</i> Linn. コタニワタリ	岩壁・岩礫地	34. <i>Carex foliosissima</i> Fr. Schm. オクノカンスゲ	岩礫地
22. <i>Camptosorus sibiricus</i> Rupr. クモノスシダ	稀産・岩壁	35. <i>Carex humilis</i> Leyss. var. <i>nana</i> Ohwi ホソバヒカゲスゲ	岩壁
Polypodiaceae ウラボシ科		36. <i>Carex lanceolata</i> Boott ヒカゲスゲ	岩壁
23. <i>Pleopeltis ussuriensis</i> Regel et Maack var. <i>distans</i> Okuyama ミヤマノキシノブ	稀産・岩壁	37. <i>Carex pilosa</i> Scop. サッポロスゲ	岩礫地
24. <i>Polypodium fauriei</i> H. Chr. オシャグンデンダ	稀産・岩礫地		
SPERMATOPHYTA 種子植物 GYMNOSPERMAE 裸子植物		Juncaceae イグサ科 38. <i>Luzula plumosa</i> E. Meyer var. <i>macrocarpa</i> Ohwi ヌカボシソウ	岩礫地
Taxaceae イチイ科		Liliaceae ユリ科 39. <i>Allium victorialis</i> Linn.	
25. <i>Taxus cuspidata</i> Sieb. et Zucc. イチイ	岩壁・岩礫地		

var. <i>platyphyllum</i> Makino ギヨウジャニンニク	岩礫地	Betulaceae カバノキ科 53. <i>Betula maximowicziana</i> Regel ウダイカシバ 岩壁・岩礫地
40. <i>Lilium medeoloides</i> A. Gray グルマユリ	岩礫地	54. <i>Betula platyphylla</i> Sukatchev var. <i>japonica</i> Hara シラカシバ 岩壁・岩礫地
41. <i>Maianthemum dilatatum</i> Nels. et Macbr. マイヅルソウ	岩礫地	55. <i>Carpinus cordata</i> Blume サワシバ 岩壁・岩礫地
42. <i>Paris verticillata</i> M. v. Bieb. グルマバツクバネソウ	岩礫地	
43. <i>Polygonatum odoratum</i> Druce var. <i>maximowiczii</i> Koidz. オオアマドコロ	岩礫地	Fagaceae ブナ科 56. <i>Quercus mongolica</i> Fischer var. <i>grosseserrata</i> Rehd. et Wils. ミズナラ 岩礫地
44. <i>Smilacina japonica</i> A. Gray ユキザサ	岩礫地	
45. <i>Trillium smallii</i> Maxim. エンレイソウ	岩礫地	Ulmaceae ニレ科 57. <i>Ulmus davidiana</i> Planch. var. <i>japonica</i> Nakai ハルニレ 岩礫地
46. <i>Trillium tschonoskii</i> Maxim. シロバナエンレイソウ	岩礫地	58. <i>Ulmus laciniata</i> Mayr オヒヨウ 岩礫地
Orchidaceae ラン科		Moraceae クワ科 59. <i>Morus bombycina</i> Koidz. ヤマグワ 岩礫地
47. <i>Gymnadenia camtschatica</i> Miyabe et Kudo ノビネチドリ	岩礫地	
48. <i>Liparis krameri</i> Franch. et Savat. ジガバチソウ	稀産・岩礫地	Urticaceae イラクサ科 60. <i>Boehmeria tricuspidata</i> Makino アカソ 岩礫地
SPERMATOPHYTA 種子植物		61. <i>Laportea bulbifera</i> Weddell ムカゴイラクサ 岩礫地
ANGIOSPERMAE 被子植物		62. <i>Urtica platyphylla</i> Weddell エゾイラクサ 岩礫地
Dicotyledoneae 双子葉植物		Aristolochiaceae ウマノスズクサ科 63. <i>Asarum heterotropoides</i> Fr. Schm. オクエゾサイシン 岩礫地
Choripetalae 離弁花類		
Chloranthaceae センリョウ科		Polygonaceae タデ科 64. <i>Polygonum sachalinense</i> Fr. Schm. オオイタドリ 岩礫地
49. <i>Chloranthus japonicus</i> Sieb. ヒトリシズカ	岩礫地	
50. <i>Chloranthus serratus</i> Roem. et Schult. フタリシズカ	岩礫地	Caryophyllaceae ナデシコ科
Salicaceae ヤナギ科		
51. <i>Salix hultenii</i> Floderus var. <i>angustifolia</i> Kimura エゾノバッコヤナギ	岩壁・岩礫地	
52. <i>Salix sachalinensis</i> Fr. Schm. オノエヤナギ	岩礫地	

光俊・奥野敏雄(1971)

: 富良野西岳植物誌および蛭山の特記すべき植物
: 北海道教育大学紀要(第21巻、第2号)[英文]

渡邊 定元・佐藤 謙(1987)

: 大平山自然環境保全地域及び周辺地域の維管
束植物相

: 環境庁自然保護局

Shiro NOSAKA and Kenji HORIE

: Synoptic sketch of the serpentine flora of
lowland areas in Hokkaido, Japan

: (I). The Bulletin of Aichi University of
Education Vol. XLII (1993)

: (II). The Bulletin of Aichi University of
Education Vol. XLIII (1994)



写真1. *Campitosorus sibiricus* クモノシダ



写真2. *Mitella nuda* マルバチャルメルソウ

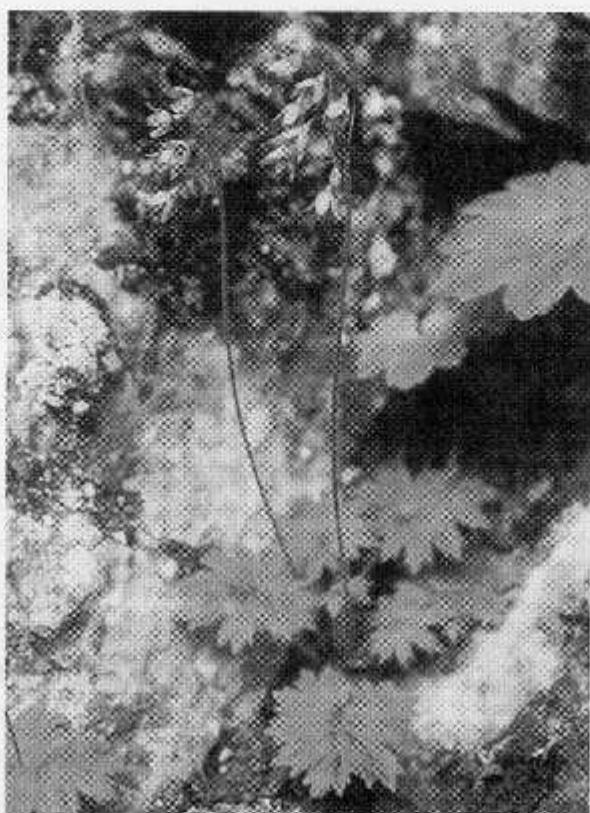


写真3. *Cortusa matthioli* var. *yedoensis* サクラソウモドキ

オニシモツケ	岩礫地	Anacardiaceae ウルシ科
95. <i>Prunus ssiori</i> Fr. Schm.		106. <i>Rhus ambigua</i> Lavallée
シウリザクラ	岩礫地	ツタウルシ
96. <i>Rubus idaeus</i> Linn.		岩壁・岩礫地
var. <i>aculeatissimus</i> Regel et Tiling		Celastraceae ニシキギ科
エゾイチゴ	岩礫地	107. <i>Euonymus planipes</i> Koehne
97. <i>Spiraea media</i> Schmidt		オオツリバナ
var. <i>sericea</i> Regel		岩礫地
エゾシモツケ	岩壁	Staphyleaceae ミツバウツギ科
98. <i>Spiraea miyabei</i> Koidz.	岩壁	108. <i>Staphylea bumalda</i> Dc.
エゾノシロバナシモツケ		ミツバウツギ
99. <i>Waldsteinia ternata</i> Fritsch		岩礫地
コキンバイ	岩壁・岩礫地	Aceraceae カエデ科
Leguminosae マメ科		109. <i>Acer japonicum</i> Thunb.
100. <i>Amphicarpaea edgeworthii</i> Benth.		ハウチワカエデ
var. <i>japonica</i> Oliver		岩礫地
ヤブマメ	岩礫地	110. <i>Acer mono</i> Maxim.
Oxalidaceae カタバミ科		イタヤカエデ
101. <i>Oxalis acetosella</i> Linn.		岩礫地
コミヤマカタバミ	岩礫地	111. <i>Acer palmatum</i> Thunb.
Rutaceae ミカン科		var. <i>matsumurae</i> Makino
102. <i>Skimmia japonica</i> Thunb.		ヤマモミジ
var. <i>intermedia</i> Komatsu		岩礫地
forma <i>repens</i> Hara		112. <i>Acer ukurunduense</i> Trautv. et Mey.
ツルシキミ	岩礫地	オガラバナ
Euphorbiaceae トウダイグサ科		稀産・岩礫地
103. <i>Euphorbia sieboldiana</i> Morr. et Decne.		Vitaceae ブドウ科
var. <i>montana</i> Tatew.		113. <i>Vitis coignetiae</i> Pulliat
ヒメナツトウダイ	稀産・岩礫地	ヤマブドウ
Simaroubaceae ニガキ科		岩礫地
104. <i>Picrasma quassioides</i> Benn.		Tiliaceae シナノキ科
ニガキ	岩礫地	114. <i>Tilia japonica</i> Simonkai
Buxaceae ツケ科		シナノキ
105. <i>Pachysandra terminalis</i> Sieb. et Zucc.		岩礫地
フッキソウ	岩礫地	Actinidiaceae マタタビ科
Guttiferae オトギリソウ科		115. <i>Actinidia kolomikta</i> Maxim.
117. <i>Hypericum yezoense</i> Maxim.		ミヤママタタビ
エゾオトギリ		岩礫地
Violaceae スミレ科		116. <i>Actinidia polygama</i> Maxim.
		マタタビ
		岩礫地

118. <i>Viola sacchalinensis</i> H. Boiss.		128. <i>Pyrola japonica</i> Klenze	
アイヌタチツボスミレ	稀産・岩壁	イチヤクソウ	岩礫地
119. <i>Viola selkirkii</i> Pursh		129. <i>Pyrola secunda</i> Linn.	
ミヤマスミレ	岩礫地	コイチヤクソウ	岩礫地
var. <i>variegata</i> Nakai		130. <i>Monotropastrum globosum</i> H. Andr.	
フイリミヤマスミレ	岩礫地	ギンリョウソウ	稀産・岩礫地
Alangiaceae ウリノキ科		Ericaceae ツツジ科	
120. <i>Alangium platanifolium</i> Harms		131. <i>Rhododendron dauricum</i> Linn.	
var. <i>trilobum</i> Ohwi		エゾムラサキツツジ	稀産・岩壁
ウリノキ	岩礫地	132. <i>Vaccinium hirtum</i> Thunb.	
Onagraceae アカバナ科		ウスノキ	岩壁・岩礫地
121. <i>Circaeа alpina</i> Linn.		Primulaceae サクラソウ科	
ミヤマタニタデ	岩礫地	133. <i>Cortusa matthioli</i> Linn.	
Araliaceae ウコギ科		var. <i>yezoensis</i> Hara	
122. <i>Aralia elata</i> Seemann		サクラソウモドキ	稀産・岩壁
タラノキ	岩礫地	134. <i>Primula jesoana</i> Miq.	
123. <i>Kalopanax pictus</i> Nakai		オオサクラソウ	岩礫地
ハリギリ	岩礫地	Symplocaceae ハイノキ科	
Umbelliferae セリ科		135. <i>Ilex rugosa</i> Fr. Schm.	
124. <i>Angelica acutiloba</i> Kitagawa		ツルツケ	岩礫地
var. <i>iwatensis</i> Hikino	稀産・岩壁	Styracaceae エゴノキ科	
ミヤマトウキ		136. <i>Styrax obassia</i> Sieb. et Zucc.	
125. <i>Osmorhiza aristata</i> Makino et Yabe		ハクウンボク	岩礫地
ヤブニンジン	岩礫地	Oleaceae モクセイ科	
Cornaceae ミズキ科		137. <i>Fraxinus lanuginosa</i> Koidz.	
126. <i>Cornus canadensis</i> Linn.		アオダモ	岩礫地
ゴゼンタチバナ	稀産・岩礫地	138. <i>Fraxinus mandshurica</i> Rupr.	
127. <i>Cornus controversa</i> Hemsley		var. <i>japonica</i> Maxim.	
ミズキ	岩礫地	ヤチダモ	岩礫地
SPERMATOPHYTA 種子植物		139. <i>Syringa reticulata</i> Hara	
ANGIOSPERMAE 被子植物		ハシドイ	岩礫地
Dicotyledoneae 双子葉植物		Gentianaceae リンドウ科	
Gamopetalae 合弁花類		140. <i>Pterygocalyx volubilis</i> Maxim.	
Pyrolaceae イチヤクソウ科		ホソバノツルリンドウ	稀産・岩礫地
Asclepiadaceae ガガイモ科			

141. <i>Cynanchum caudatum</i> Maxim.		オククルマムグラ	岩礫地
イケマ	岩礫地		
142. <i>Cynanchum inamoenum</i> Loes.		Compositae キク科	
エゾノクサタチバナ	稀産・岩壁	149. <i>Anaphalis margaritacea</i> Benth. et Hook. fil. var. <i>angustior</i> Nakai	
Labiatae シソ科		ヤマハハコ	岩礫地
143. <i>Scutellaria pekinensis</i> Maxim. var. <i>ussuriensis</i> Hand.-Mazz.		150. <i>Artemisia montana</i> Pamp.	
エゾタツナミソウ	岩礫地	オオヨモギ	岩礫地
144. <i>Agastache rugosa</i> O. Kuntze		151. <i>Cacalia hastata</i> Linn. var. <i>orientalis</i> Ohwi	
カリミドリ	稀産・岩壁	ヨブスマソウ	岩礫地
Phrymaceae ハエドクソウ科		152. <i>Cirsium kamtschaticum</i> Ledeb.	
145. <i>Phryma leptostachya</i> Linn. var. <i>asiatica</i> Hara		チシマアザミ	岩礫地
ハエドクソウ	岩礫地	153. <i>Cirsium pectinellum</i> A. Gray	
Rubiaceae アカネ科		エゾノサワアザミ	岩礫地
146. <i>Asperula odorata</i> Linn.		154. <i>Erigeron acris</i> Linn.	
クルマバソウ	岩礫地	エゾムカシヨモギ	稀産・岩礫地
147. <i>Galium kamtschaticum</i> Steller		155. <i>Eupatorium chinense</i> Linn. var. <i>sachalinense</i> Kitam.	
エゾノヨツバムグラ	岩礫地	ヨツバヒヨドリ	岩礫地
148. <i>Galium trifloriforme</i> Komar.		156. <i>Solidago virga-aurea</i> Linn. var. <i>leiocarpa</i> Miq.	
		コガネギク	岩礫地

4. おわりに

本報告において、北海道・上川管内占冠村石灰岩地帯から63科119属156種を記録し、立地と所産状況との関係を整理した。

本報告をまとめるにあたり、土壤分析等でご指導をいただいている水野直治・酪農学園大学教授に感謝申し上げる。また、現地に同行し調査協力をしていただいた山口若生氏・元札幌営林支局、三浦勝幸氏・日本山岳会にお礼申し上げる。

5. 参考文献

渡邊 定元(1956)

: 後志國大平山石灰岩地帯の高山植物

: 植物分類、地理(Vol. XVI, No. 6)

清水 建美(1958)

: 岩手縣下閉伊郡の石灰岩地帯より得た特記すべき植物

: 1. 植物分類、地理(Vol. XVII, No. 3)

: 2. 植物分類、地理(Vol. XVII, No. 4)

: 3. 植物分類、地理(Vol. XVII, No. 5)

Tatemi SHIMIZU

: Studies on the limestone flora of Japan and Taiwan

: part I. Journ. Fac. of Textile Science and Technolgy, Shishu University No.30(1962)

: part II. Journ. Fac. of Textile Science and Technolgy, Shishu University No.36(1963)

渡邊 定元・佐藤 謙(1971)

: 北海道・空知・駿河の石灰岩地帯の植物相

: (一). 北陸の植物(Vol. XIX, No. 1 ~ 2)

: (二). 北陸の植物(Vol. XIX, No. 3)

稻垣貴一・豊国秀夫・桑原憲一・小北敏明・山田

Title	北海道のツチガエル <i>Rana rugosa</i> (Ranidae,Amphibia)は nativeか? immigrantか? ~札幌地区及び羽幌地区を例として
Authour(s)	斎藤 和範 有田 智彦
Citation	旭川市博物館研究報告,3号,pp11-17
Issue Date	1997-3-31
URL	http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hakubutsukagaku/museum/tvosa/kenkyu/hak03/11-17.pdf

現在ほとんど水が溜まっていない。

厚別川水系

滝野地区

G. 厚別川滝野橋そばの湧き水の沼（白井
1989、北海道新聞1986年9月13日朝刊）

新聞紙面では金古沢となっているが実際
は厚別川

ツチガエルの分布状況を見ると、最も個体数の多かった常盤地区から真駒内川沿いに上流下流へと分布域が広がっており、常盤地区を離れるにつれて個体数が減少し生息が確認されない地点が増加した。特に、生息可能な環境が残されている藤野地区、白川地区、簾舞地区、及び個体数の多い常盤地区より尾根を一本隔てただけの精進川沿いの駒岡地区でも分布は確認されなかった。

今回採集されたり過去に報告があった場所は、釣堀、公園の池、個人の池など多かったが、聞き取り調査をするにつれ次のようなことが判明した。

1. 採集地点1の美術館前の池は、1986年に札幌芸術の森が完成する以前、中野という人(既に亡くなってしまい家族の方も別の場所に移り住んでいる)がコイを養魚していたこと。また現在美術館裏手にある沼は、養殖を行っていた当時より存在していたこと、また沼と美術館前の池は、湧き水によって維持されていること。現在工芸館前の池は、畑であったところを池に造成し、地下水を汲上げて利用していたが、現在は真駒内川から水を引いていること。現在いるコイは2・3年前に豊平区有明地区の(有)藍鱗から購入したものであること。

2. 採集地点3釣堀の経営者の話によると、この釣堀は25年ほど前から営業しており、営業当時から8年位前までは、秋田県八郎潟(大潟村?)で転作奨励の補助金によって養殖されていたコイを毎年春に800kgほど購入していたという。コイは養殖業者が自分の車で八郎潟からアオヤマ園まで運び入れたということであった。秋田の業者が廃業したためそれ以後、今まで恵庭市柏木にある㈱西水産よ

りコイを仕入れていると言う。㈱西水産によれば、現在コイは茨城県出島村の霞ヶ浦から仕入れていると言っていた。さらに、釣堀の水は湧き水によって維持され、真駒内川に流れ込み、また同釣堀には近くの子供達がよくカエルを取りにやってくると言うことである。

3. 採集地点5は、別荘の所有者によると5・6年ぐらい前に作った池であり湧き水を引いていること。現在池にいる魚とハスは、林道の奥にあった養魚場(地点C)(経営者不明~89年頃まで池が存在、1989年版の札幌市住宅地図参照)よりもったということである。水は小滝の沢に流れ込んでいる。

4. 採集地7の池の場所で、1976年版の札幌市住宅地図によればゴルフ場となる以前1969~1976年頃まで養殖漁業生産組合常盤事業所(えぞ山女魚養殖生産組合?)が営業していたこと。

5. 採集地9は現在住んでいる人によれば、20年位前に釣堀であった場所を購入したことであり、1976年版の札幌市住宅地図によれば小鳥の村栗園管理事務所が存在したこと。池の水は湧き水で維持されオカバシ川の支流に流れ込んでいる。

など、現在ツチガエルが生息している場所は、何らかの形では釣堀や養魚場と関係している所が多く、それらの各地点は河川でつながっている場合多かった。

(2) その他市内及び近郊の分布地

その他市内で報告があるものとしては、中央区中島公園内の池(地点H)(北海道新聞1995年7月21日朝刊)がある。また札幌市さけ科学館の高山氏・小原氏によれば豊平川幌平橋・同東橋付近(地点I・J)で1989年頃より見かけ1996年8月には採集し、現在同館にて展示している個体はそのときのものという。さらに小原氏は1995年秋に道々真駒内支笏湖線滝野橋付近の厚別川(地点K)でも目撲したということであった。

近郊の報告例では、千石・吉岡(1991)の夕張郡由仁町古山溜め池(地点L)がある。由仁町役場農

政課の浜道氏によれば同溜め池は1905年に落成した古い貯水池で、過去にコイやフナなどの生物を放した実績はないと言うことである。たくぎん総合研究所の富川氏と酒井氏によれば、1985年7月末に夕張郡長沼町ハイジ牧場(養鯉場あり)上流の沢(地点M)で採集したという(国立科学博物館上野俊一博士同定)。標本は同博物館にあるということである。この地点は古山溜め池から尾根を越えた西側に位置し、溜め池源流部とは500mほどしか離れていない。

(3) 羽幌地区

ツチガエルの声が確認された地点(○)及び採集地点(●)を図3に示した。現在ツチガエルの分布は、最初に報告があった地点(A)(北海道新聞1986年10月2日朝刊)など、山地の縁辺部の溜め池や公園の池及び羽幌川旧河川(地図上では羽幌川、現在羽幌川は切り替えられており、羽幌原野から朝日地区を通り市街地北側から日本海へと流れ込んでいる)近くの谷地で採集され、さらに、それらをつなぐ用水路や河川でも確認された。最初に報告があった地点(A)は、羽幌公園(スポーツ公園)内の池で1971年に人工的に造成されたもので、コイなどが飼育されている。また地点Bは報告があった前年(1985年6月)に自然観察会で目撃された場所で、谷地になっており付近には古くからの溜め池が数ヶ所存在する(北海道新聞1986年10月2日朝刊)。

4. 考 察

北海道両生爬虫類研究所の中林氏によれば、北海道においてツチガエルが目撃されるようになったのは、1970年代に入ってからであり、現在札幌市さけ科学館がある付近にあった池で目撃したが、本来北海道に生息しないはずなので、移入であろうと考えたとのことである。1980年代に入り、1985年札幌市南区藤の沢(阿部 1994)・夕張郡長沼町(富川氏・酒井氏私信)、1986年に札幌市滝野・常盤(北

海道新聞1986年9月13日朝刊、白井 1991)・苦前郡羽幌町(同1986年10月2日朝刊)と発見されるようになった。1990年代にはいると、1990年に上川郡当麻町(出羽 1991)、1993年に雨竜郡秩父別町・滝川市江部乙(北海道開発局石狩川開発建設部 1994)など北海道の6地域で散発的にツチガエルの採集報告がされた。

八田・橋本(1910)は、北海道の両生類・爬虫類を研究し、カエル類はニホンアマガエルとエゾアカガエルの2種しか分布せずと述べている。また岡田(1930)は日本産蛙総説の中でツチガエルについてふれ北海道には生息せずといっている。北海道におけるツチガエルの報告の多くは1980年代になってからであるが、前田・松井(1989)でも北海道西南部に生息するものは人為分布としている。しかし、竹中(1993)はツチガエルは自然分布であり、今まで見つからなかったのは調査が不十分であったものと結論付けている。だが竹中(1993)が引用した杵淵(1978)は聞き取りのみで実際にはツチガエルを採集していない。また、北海道大学農学部の阿部教授によれば、札幌近郊は多くの生物学者が頻繁に調査に入っており、自然分布である



図3 羽幌町の分布

ならば今まで見つからなかったはずがないと言うことである。北海道の分布地も局地的であり(出羽他 1997投稿中)、自然分布であるならばもっとほかの地域から記録があってもよいと思われるが報告としては上がって来ない。札幌及び羽幌の両地域でも、分布は局所的でその分布地の多くがお互いに河川や水路でつながっており、生息密度が高い環境と同様な環境でも生息地とつながっていない場所ではほとんど見つからないことが判っている。また生息地どうしが河川等でつながっていない場合でも、隣接する生息地と源流部が最大500mほどしかはなれていない場合が多い。旭川周辺においても同様な傾向がみられ(出羽他 1997投稿中)、自然分布と考えるなら生息出来る環境が周辺にありながら、この地域だけに生息が集中している理由を説明しなければならず、今回の調査結果からでは人為分布と考えるほうが説明がつく。

また、白井(1989)では自然状態で繁殖していることから自然分布と述べているが、移入後生存可能な環境があり繁殖を繰り返していることも考えることが出来るため、自然繁殖という理由のみで自然分布を決定付けることは出来ない。

Nishioka et al.(1993・1994)では全国各地のツチガエル個体群の酵素・血清蛋白の電気泳動パターン及び性染色体の性決定様式を分析した結果、札幌の個体群は東北の集団と類似性が高いことを指摘し自然分布の可能性が高いと述べている。また厳密に言えば染色体の一部に東北集団と多少の違いも見られることから、人為分布としても年代的に古い時期に移入したものであろうと述べている。類推の域を出ないが、札幌のツチガエルの個体群が秋田県八郎潟より移入したと考えるなら、東北の集団と類似性が高くとも人為分布を否定する理由にはならない。仮に複数の地域からツチガエルが移入しているとするなら、既に札幌の個体群に遺伝的に搅乱が起きてしまい、東北の個体群と遺伝的違いが生まれた可能性も否定出来ない。

今回の調査では、自然分布か人為分布かを決める決定的証拠を示すことが出来なかった。しかしながら状況証拠を見る限り、札幌地区では1970年

代頃から常盤地区に水生生物の導入に付随して複数の地域から移入したものが定着し繁殖を繰り返し、さらに真駒内川・豊平川を通じてまたコイやハスなどの水生動植物の人為的移動や子供達の採集・放流によって分布が拡大し、現在の状態になったのではないか。羽幌地区においても同様に、公園の池に導入されたコイなどに付隨して移入したものが、用水路や河川を伝って分布を広げ、溜め池や池等で繁殖を繰り返しさらに分布を拡大している可能性が高い。北海道の分布状態が散発的なことからも(出羽他 1997投稿中)、何らかの人為的移動によって新たな生息地が生じていると考えたほうが説明がつきやすい。直接ツチガエルを導入するつもりではなくとも、他の水生生物の導入に伴って混在した種の移動が起きることは、多くの帰化動植物の例を出すまでもなく起きてきたことから(阿部 1994)、ツチガエルもその一例であろう。今後この問題を考える上で、導入された可能性の高い地域の個体群と、札幌市内各地域の個体群及び旭川・羽幌等の他個体群の遺伝的集団構造や類縁関係を解析することによって、北海道のツチガエルの分布要因に最終的な決着をもたらすであろう。

謝 辞

本文を終わるに当たって、過去の情報を提供して下さった、北海道両生爬虫類研究所の中林氏、札幌市さけ科学館の高山氏・小原氏、たくぎん総合研究所環境調査部の酒井氏・宮川氏ならびに札幌医科大学生物学講座の森谷助教授には心より感謝申し上げる。また過去に採集された標本の提供、及び様々なご教示をいただいた北海道立理科教育センターの青山先生、道立石狩南高等学校の白井校長、旭川大学の出羽助教授ならびに北海道大学農学部の阿部教授にはここに厚く感謝申し上げる。聞き取り調査に当たって、郷土史に関する情報を提供して下さった札幌市資料館文化資料室の文野氏、養殖業に関する情報を提供して下さった札幌市経済局農産課の皆様及び北海道庁水産部の佐藤氏、芸術の森に関する情報を提供して下さった、札幌芸術の森の中村氏及び札幌市企画調整局都市計画課の小田垣氏、ゴルフ場についての情報を提供していただいた

環境保全部指導課の鈴木氏また、古山溜め池に関する情報を提供して下さった由仁町役場農政課の浜道氏、国内の養魚場に関する情報を提供していただいたハイジ牧場の皆様、ならびに羽幌町役場社会教育課及び教育委員会の皆様にはこの紙面を借りて感謝申し上げる。最後に、聞き取り及び閑内の調査を快くご承諾下さい、さらに今後の研究の手掛かりともなる情報をもたらして下さった、常盤レジャーパークアオヤマ園の皆様にもお礼申し上げる。

文 献

- 阿部 永 1994, 北海道における帰化動物, 北海道の自然と生物 9, 1-9.
- 岡田彌一郎 1930, 日本産蛙總説, 岩波書店, 東京, PP234, Pls29.
- 杵淵謙二郎 1978, 北海道の両生類を求めて, 両生爬虫類愛好会誌, 3, 17-18.
- 札幌市住宅地図1976年版
- 札幌市住宅地図1989年版
- 斎藤和範・武市博人・南 尚貴 北海道におけるアズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* の新分布地, 旭川市博物館研究報告, 2, 21-23.
- 白井 騒 1989, 北海道に生息するカエル類, 北海道立理科教育センター研究紀要, 1, 47-50.
- 千石正一・吉岡景昭 1991, 北海道中央部からのツチガエルの新記録 HERPTILE NOTES, 18(3), 39.
- 竹中 践 1993, 第3章 爬虫類両生類相とその分布, 生態学から見た北海道, 東・阿部・辻井, (編)北海道大学図書寺行会, 札幌, PP373, 198-208.
- 竹中 践 1993 b, 北海道・広島町におけるトノサマガエルの生息状況, 爬虫両生類学雑誌, 15(2), 84.
- 出羽 寛 1991, 旭川の動・植物, 脊椎動物(鳥類を除く), 83-131, 自然保護調査報告書総集編 旭川市 298pp.
- 出羽 寛・斎藤和範・南 尚貴 1997投稿中, 旭川周辺におけるツチガエル *Rana rugosa* の分布, 旭川市博物館研究報告, 3.
- Nishioka, M., Y. Kodama, M. Sumida and M. Ryuzaki 1993, Systematic evolution of *Rana rugosa* distributed in Japan elucidated by electrophoresis. Sci. Rep. Lab. Amphibian Bio., Hiroshima Univ. 12, 83-131.
- Nishioka, M., H. Hanada, I. Miura and M. Ryuzaki. 1994, Four kinds of sex chromosomes in *Rana rugosa*. Sci. Rep. Lab. Amphibian Bio., Hiroshima Univ. 13, 1-34.
- 八田三郎・橋本潤三郎 1910, 北海道における両生類および爬虫類, 動物學雑誌, 22, 559.
- 北海道開発局石狩川開発建設部・助建設維持管理センター 1993, 平成4年度実施, 溪流環境調査業務報告書
- 北海道開発局石狩川開発建設部・助建設維持管理センター 1994, 平成5年度実施 石狩川改修工事の内 石狩川水系環境調査業務 水と森の溪流づくり調査報告書
- 北海道開発局石狩川開発建設部 1994, 平成5年度石狩川水系(石狩川下流)両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書
- 北海道新聞1986年9月13日朝刊
- 北海道新聞1986年10月2日朝刊
- 北海道新聞1995年7月21日朝刊
- 前田憲男・松井正文 1989, 日本カエル図鑑, 文一総合出版, 東京, PP206, 96-99
- 読売新聞1988年7月4日夕刊

北海道のツチガエル *Rana rugosa* (Ranidae, Amphibia) は native か? immigrant か?

—札幌地区及び羽幌地区を例にして—

How was *Rana rugosa* (Ranidae, Amphibia) distributed in Hokkaido
; the cases of Sapporo and Haboro areas.

斎藤和範¹⁾・有田智彦²⁾

1) 北海道大学大学院地球環境科学研究科

2) 羽幌町役場

1. はじめに

最近元来北海道に生息しなかったはずの生物が、道内のあちこちで見かけるようになって来ている(阿部 1994)。明治以来、我々は人間活動に有用な様々な動植物を北海道に持ち込んできた。しかしながら最近見かけられる帰化動物は、それらの有用動植物として持ち込まれたものとは別に、由来や導入時期が不明なまま生息してしまっているものが多い。人間活動が活発になるに連れて、人為的な動植物の持ち込みが増えていることは事実である。特に最近ではペットの野生化が全国各地で問題となっており、北海道においてもカブトムシ、アメリカザリガニ、ミドリガメを始め、アライグマでは実際に被害が起きた例もある。また、有用動植物の導入によって、それに混在していたセイヨウタンボポ、チャバネゴキブリ、アメリカシロヒトリと言った種なども定着している。しかしこれらの帰化動物は人間に對して害を与える以上に、元来生息している動植物に大きな害を与えてきたことは、比較的見過ごされて来たきらいがある。

両生類も帰化動物の例外ではなく、かつて北海道の在来のカエル類はニホンアマガエルとエゾア

カガエルの2種しか生息しないといわれてきた(八田・橋本 1910)。しかし最近では何らかの要因によって新たに4種増え、現在北海道には6種の生息が確認されている(斎藤他 1996、竹中 1993a、1993b)。最近その中の1種であるツチガエル *Rana rugosa* が、人為分布ではなく自然分布の可能性があるという報告がある(白井 1991、竹中 1993a)。だが、在来種ではなく近年移入されそれが分布定着しているという報告もある(阿部 1994)。今回は札幌近郊及び羽幌町のツチガエルの分布について調査する機会を得、自然分布よりも人為分布で説明するほうが今の所の可能性が高いと思われる所以ここに報告する。

2. 調査及び調査方法

調査は、過去にこのカエルが発見されていた札幌市南区常盤地区を中心に、湯の沢地区、滝野地区、藤野地区、藤の沢地区、穴の沢地区、簾舞地区、白川地区、石山地区、駒岡地区及び真駒内地区で1996年7月~10月にかけて行われた。札幌近郊及び羽幌町の生息地については、過去の調査報告及び聞き取りで行った。札幌地区及びその近郊の調査は斎藤が、羽幌地区の調査は有田が担当し

た。ツチガエルの成体・幼生の採集は、これらの地域の溜め池、公園及び個人の庭先の池、河川、釣堀、沼において行い、採集が出来ない場合でも成体の目視・鳴き声によって確認した。採集した個体は研究室へ持ち帰りホルマリンにて固定後、70%エチルアルコールで置換し、採集年月日・採集地を記録し標本とした。今回採集された標本は、過去に採集された標本とともに北大植物園内にある博物館に寄贈予定である。その他生息地に関する情報、例えば調査地の池の由来及び池の中にいる飼育されている生物の由来等は、可能な限り聞き取りによって調査した。

3. 結 果

(1) 札幌地区

ツチガエルを調査した地点(○)及び発見地点(●)、ならびに過去の調査によって標本もしくは報告があった地点(▲)を図1及び2に示した。調

査した地点中、今回生息が確認されたのは常盤地区で8地点、藤の沢地区で1地点であった。その中でも非常に個体数が多い地点は、小滝の沢及び鳥居沢川を含む真駒内川水系沿いの湯の沢・常盤地区であった。

今回分布が確認された地点及び採集年月日を次に示す。

真駒内川水系

常盤地区

1. 札幌芸術の森 工芸館及び美術館前の池
(1996.7.20採集)

2. 芸術高専前の真駒内川(1996.10.13採集)

3. 常盤レジャーパークアオヤマ園の釣堀
(1996.10.22採集)

4. 常盤2区バス停前の個人の池
(1996.7.20採集)

5. 小滝の沢川林道途中にある個人の別荘の池
(1996.7.20、10.10採集)

湯の沢地区

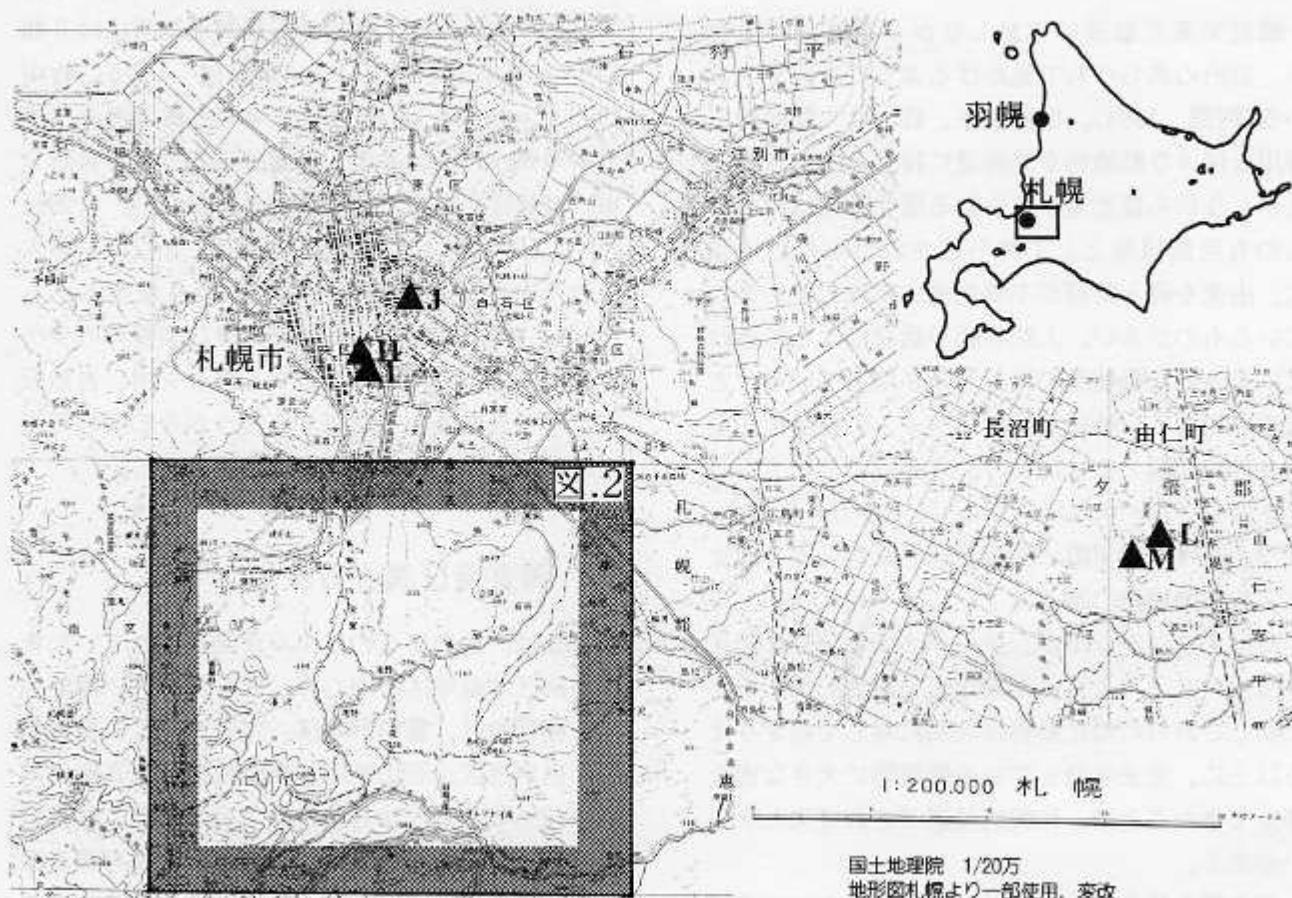


図1 札幌市内及び近郊の分布

6. 鳥居沢川林道入り口にあるフェンス内の個人の池 (1996.10.13採集)
7. 常盤ゴルフ場裏手にある池 (1996.10.13採集)
8. 離農地跡にある小さな沼 (1996.10.13採集)
- オカバルシ川水系
藤の沢地区
9. ゆうとう造園の池 (1996.10.12採集)
- 過去に報告及び標本が採集された地点を次に示す。
- 真駒内川水系
常盤地区
- A. 札幌芸術の森の池
(白井馨氏1986.9.27、1987.6.30,7.24採集)
採集地1と同じ
- B. 常盤の池(白井 1989)
- 採集地6と同じ
- C. 小滝の沢川林道奥にある養魚場跡
(読売新聞1988年7月4日夕刊)
Nishioka et al.(1993・1994)に使用された個体の採集地。(森谷私信)
- 穴の川水系
穴の沢地区
- D. 穴の川第1砂防ダム(平成4年度施行,
渓流環境調査業務報告書, 北海道開発建設部・財建設維持管理センター, 1993)
- E. 穴の川エルム橋近くの個人の池(平成5
年度施行, 石狩川改修工事の内, 石狩川水
系環境調査業務, 水と森の渓流づくり調査
報告書, 北海道開発建設部・財建設維持管
理センター, 1994)
- オカバルシ川水系
藤の沢地区
- F. 小鳥の村六つが池(阿部 1994)

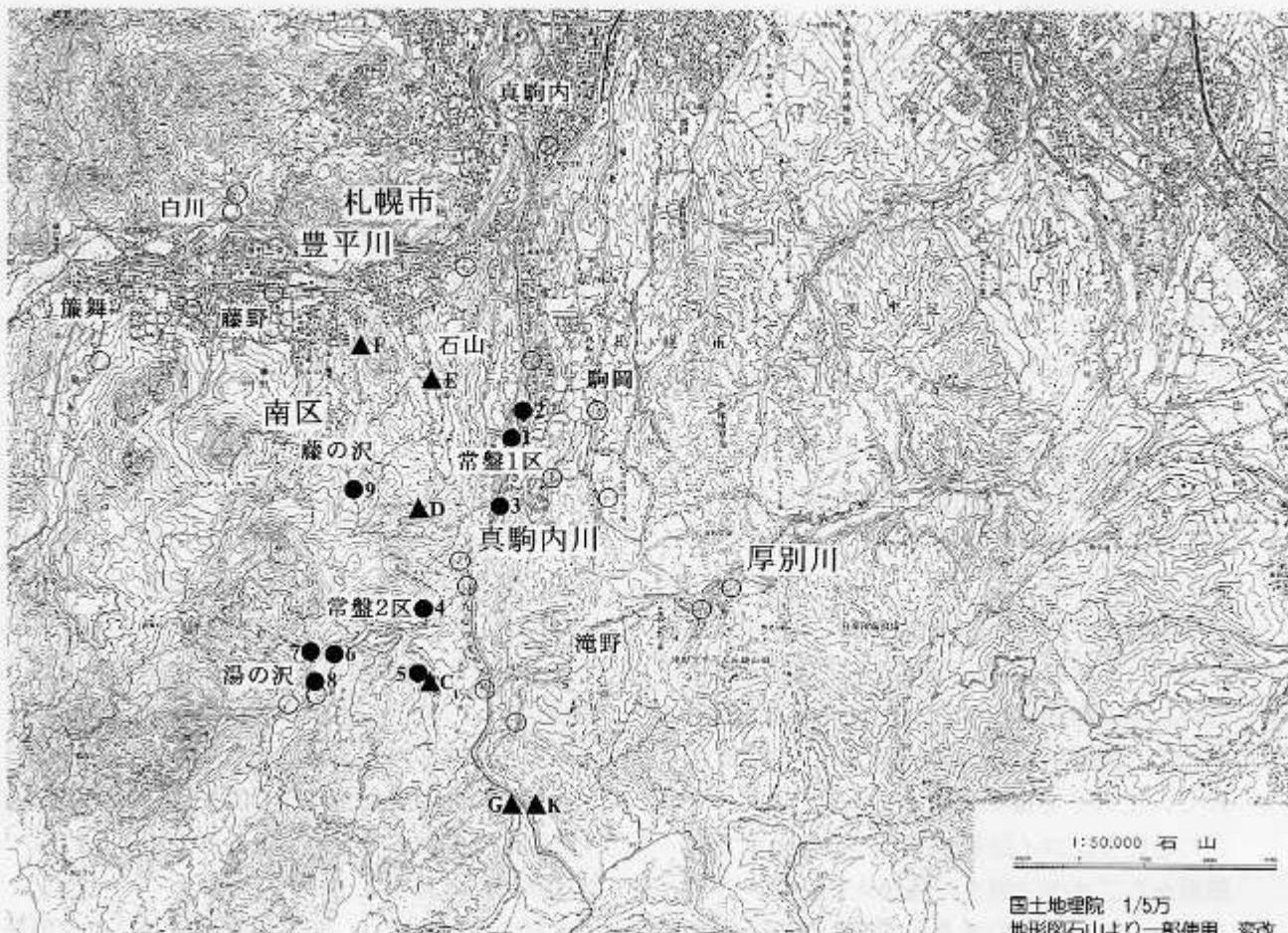


図2 札幌市常盤地区の分布

Title	旭川市周辺におけるツチガエル <i>Rana rugosa</i> の分布
Authour(s)	出羽 寛, 斎藤 和範, 南 尚貴
Citation	旭川市博物館研究報告,3号,pp19–23
Issue Date	1997-3-31
URL	http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hakubutsukagaku/museum/tvosa/kenkyu/hak03/19-23.pdf

旭川市周辺におけるツチガエル *Rana rugosa* の分布

Distribution of wrinkled frog (*Rana rugosa*) in Asahikawa area, Hokkaido

出羽 寛¹⁾・斎藤和範²⁾・南 尚貴³⁾

1) 旭川大学経済学部

2) 北海道大学大学院地球環境科学研究所

3) 旭川市博物館

1 はじめに

現在、北海道には6種類の無尾両生類、ニホンアマガエル *Hyla japonica*、エゾアカガエル *Rana pectoralis*、ツチガエル *Rana rugosa*、アズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus*、トノサマガエル *Rana nigromaculata*、ウシガエル *Rana catesbeiana* の生息が確認されている(竹中 1993a、1993b)。

このうち、もともと北海道に自然分布していたのはニホンアマガエルとエゾアカガエルの2種類と考えられていた(前田・松井 1989)。他の4種類のうち、函館周辺のウシガエル(白井 1989)、旭川のアズマヒキガエル(斎藤他 1996)、札幌郡広島町のトノサマガエル(竹中 1993b)の3種類は、戦後または最近になって人為的に移入されたものであることが確認されている。また、函館周辺のアズマヒキガエルも明治時代に移入された可能性が高い(岡田 1930、門崎 1981)。

ツチガエルの北海道での発見も比較的新しく、1970年代になってからと考えられており(阿部 1994)、函館周辺に生息する個体群も移入種と考えられていた(前田・松井 1989)。

しかし、最近になって、札幌市滝野、真駒内、藤野(白井 1989、阿部 1994、北海道新聞 1986年9月13日朝刊、1995年7月21日朝刊、読売新聞 1988年7月4日夕刊)、夕張郡由仁町(千石・吉岡

1991)、留萌管内羽幌町(白井 1989、北海道新聞 1986年10月2日朝刊)、上川管内当麻町(出羽 1991)、空知管内滝川市江部乙・秩父別町(北海道開発局石狩川開発建設部 1994)と相次いでツチガエルの新しい生息地が確認されている。その結果、道内での生息確認地域は函館周辺も含め、現在6ないし7地域になった事、それぞれの生息地では比較的多数の成体と繁殖が確認されていることから、この種は移入種ではなく自然分布の可能性が高いという報告がある(白井 1989、竹中 1993a、松井 1996)。

また、Nishioka et al.(1993、1994)は札幌、旭川の個体群も含め、全国各地のツチガエル個体群の類縁関係を14種類の酵素と血清蛋白の電気泳動パターンから分析、さらに性染色体の同定と性決定様式の分析を行った。その結果、日本のツチガエルは4つのサブグループに分けられ、札幌、旭川の個体群は東北集団と類似性が高いこと、しかし、厳密には性染色体の一部に東北集団とは違がある事を報告している。この性染色体の違いが北海道固有のものだとすると、移入種だとしても相当古い時代のものと考えられるが、今後東北集団の中から同じパターンの性染色体を持つ個体群が発見される可能性も残されている。

旭川周辺では筆者の一人出羽が1990年に当麻町親子山の落葉広葉樹林内で発見したが(出羽 1991)、それ以前にも1985年頃から当麻ダム周辺

で発見されていた(当時当麻町緑郷小学校教員稻村昌弘氏、旭山動物園園長小管正夫氏の私信)。

今回、筆者らは当麻町を中心に旭川市周辺でのツチガエルの分布調査を行い、比較的狭い範囲に分布が限定されていることが確認されたのでここに報告する。

実際の調査にあたっては、旭川大学経済学部1996年度出羽ゼミナールの学生に協力して頂いた。また、旭山動物園園長の小管正夫氏、当時緑郷小学校教員の稻村昌弘氏には当麻町での過去の情報を提供して頂いた。旭川医科大学の上口勇次郎氏には、論文の御教示を頂いた。ここに厚くお礼申し上げる。

2 調査範囲と調査方法

調査範囲は主な生息地と考えられた当麻町を中心に、旭川市全域、愛別町、鷹栖町、比布町それと上川町、和寒町、東川町の一部である。



写真1 成体(当麻町)1995.6

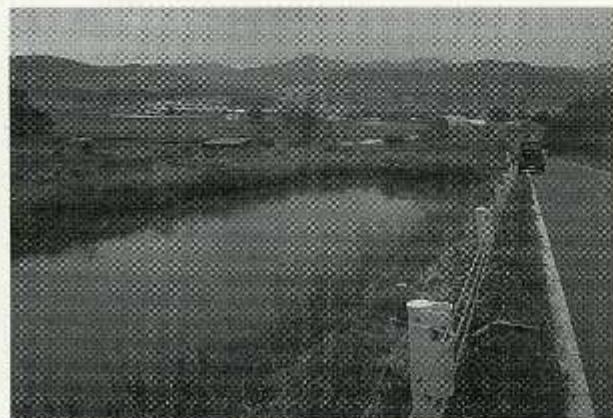


写真2 生息地のため池(当麻町)1996.7

調査した環境は各地域に散在するため池を中心に、貯水池、個人の庭や公園の池、水田の側溝、小川、沢等である。調査期間は1996年6月から9月である。

ツチガエルの生息の確認は成体の目撃と成体、幼生の捕獲によった。ツチガエルは通常ため池等の水際の陸上に上がっていて、アマガエルやエゾアカガエルと違い、人が近づくと敏捷に水に飛び込んで逃げる事が多い。従って、静かに水際を歩いて成体を確認する事に努めた上で、三角網で捕獲した。また特徴ある鳴き声も生息の確認に利用した。

生息状況の記録は、1—2匹から数匹しか発見できなかった池と10数匹から数10匹目撃した池とを区別して行った。

3 結果と考察

図1に、旭川市周辺における分布を示す。



写真3 卵塊(当麻町)1992.6



写真4 幼生(当麻町)1996.6

ため池・貯水池101箇所、個人の庭・公園の池19箇所、水田等の側溝13箇所、小川・沢6箇所の合計で139箇所で調査を行った。その結果、ため池25箇所、個人の庭・公園の池6箇所、水田等の側溝3箇所の合計34箇所でツチガエルの生息が確認された。さらに、その内13箇所のため池で幼生が、3箇所で卵塊が確認されたことから繁殖していることも確認された。

しかし、図1から明らかなように、旭川地方に広く分布しているのではなく、当麻町を中心とした、愛別町、旭川市の一帯を含む丘陵地帯にのみ分布が限定されているようである。この地域以外では、今のところ全く発見されていない。旭川市の桜岡から米原にかけての地域、神居、神居古潭地域等は、当麻町の生息地と同じような、ため池が散在する丘陵地であるが、ここでも全く発見できなかった。また、当麻町の丘陵地帯でも開けた

環境に生息し、山間部にかかる樹林地の中のため池や低地の水田では発見できなかった。ただし、ため池の近くの水田の側溝では3箇所で発見されている。また、前述した旭山動物園の小管氏によると、当麻ダム下の流れのゆるい川で発見したとのことである。

分布域の南端は旭川市東桜岡付近で、ここでは生息が確認できた池とできなかった池があった。また、北端の愛別町でも、当麻町と隣接する地域には普通に生息しているが、石狩川の北側では2カ所でのみ、少数の個体が発見されただけであった。

生息数の状況を見ると、当麻町の伊香牛から屏風山付近にかけて生息数が多く、分布域の周辺、特に愛別町の北側で少ないものと思われる。(図1)。

以上のことからすると、ニホンアマガエルは低



図1 旭川地方でのツチガエルの分布

地の水田地帯を中心に分布、エゾアカガエルは山間部を中心に低地まで分布しているが、ツチガエルは両者の中間の丘陵地帯がすみ場所で、低地の水田や山間部ではほとんど発見されないものと思われる。ただし、札幌で分布調査を行った筆者の一人斎藤によると、生息地の大半が池や沼であることは同じであるが、生息環境は丘陵地からより山間部に入り込んでいる点が旭川周辺での分布とやや違っている(斎藤他 投稿中)。

一方、図2に示したように、道内での発見位置は道南と道西部の石狩川流域の比較的広い範囲に広がっていて、今後、これらの地域周辺では新しい発見地域が増える可能性が高いと思われる。

のことから前述したように、竹中(1993a)は北海道のツチガエルは自然分布であり、夏繁殖であるためこれまで発見されずらかったのではないかとしている。

しかし、今回の旭川市周辺での分布状況からすると、むしろ人為的に持ち込まれたとする方が説明しやすい。すなわち、もし自然分布であるとすると、過去には旭川地方に広く分布していたものが何らかの原因で絶滅し当麻町周辺にのみ残存したか、または当麻町周辺と他の地域とで生息環境に違いがなければ現状の分布を説明しづらい。しかし、現状ではそのいずれの原因も考えずらく、むしろ人為的に当麻町に持ち込まれ、この地域で分布を広げつつあると考えた方が説明しやすい。



図2 道内でのツチガエル生息地点

札幌市においても、南部(滝野、真駒内、藤野)の丘陵からやや山間部の一帯に分布が限られていること、羽幌町でも比較的狭い範囲に分布が局限されているようである(斎藤他 投稿中)。

従って、図2では一見、道西部一帯に広く分布しているように見えるが、発見地点が散在しているだけで、各発見地域では分布域が局限されていて、そこから分布を広げつつあるのではないかと思われる。阿部(1994)は北海道の帰化動物の現状と問題点の分析の中で、北海道の両生類は古くから注目されていたにもかかわらず、これまで発見されていなかったことなどから、ツチガエルは人為的な移入に違いないとしている。ツチガエルは鳴き声、体色、形態的にも特徴があり、かつ生息地によっては相当高密度で生息していることから、見逃してきたということはやはり考えられない。

疋田(1982)は日本列島の両生・爬虫類の地理的分布について分析する中で、ツチガエル等数種類の両生・爬虫類は最終氷河期の進行と共に大陸で南下し、朝鮮半島・沿海州付近と中国東北部の2カ所に分断して分布するようになり、このとき形成された陸橋を通じて朝鮮半島から日本に侵入し、後氷期になってから北へ分布を広げたという考えを提案している。しかし、疋田は道内にツチガエルが生息していることにはふれず、この種の分布北限は青森までとしている。この考えに基づき北海道のツチガエルが自然分布だとすれば、朝鮮半島から進入したツチガエルが日本列島を北進し北海道に侵入するには津軽海峡が陸橋化していかなければならないことになる。しかし、最近の報告では最終氷河期には津軽海峡も対馬海峡も完全には陸橋化していなかったと考えられるようになってきている(小野 1990、小野・五十嵐 1991)。従って、日本列島への侵入自体も最終氷河期よりさらに古い時代にさかのぼる可能性がある。

自然分布か人為的移入かについては難しい問題であり、いずれにしろ今のところ明確な根拠はない。今後、全道的な分布、各地域での分布状況とその変化を調査するとともに、持ち込まれた歴史的事実の可能性、本州のツチガエルとの形態、生活史、遺伝的距離等について比較調査が必要である。

4 参考文献

- 阿部 永 1994, 北海道の自然相, 北海道の帰化動物, 北海道の自然と生物, 9: 1-9
- 小野有五 1990, 北の陸橋, 第四紀研究, 29: 183-192.
- 小野有五・五十嵐八枝子 1991, 北海道の自然史, 北大図書刊行会, 219pp, 札幌
- 岡田彌一郎 1930, 日本産蛙總説, 岩波書店, 234 pp, 東京
- 門崎充昭 1981, 動物相の現状—哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類(野幌丘陵とその周辺の自然と歴史), 北海道開拓記念館研究報告, 6: 20-38.
- 斎藤和範・武市博人・南 尚貴 1996, 北海道におけるアズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* の新分布地, 旭川市博物館研究報告, 2: 21-23.
- 白井 鑿 1989, 北海道に生息するカエル類, 北海道理科教育センター研究紀要, 1: 47-50.
- 千石正一・吉岡景昭 1991, 北海道中央部からのツチガエルの新記録, 爬虫両生類雑記, 18(3): 39.
- 竹中 践 1993 a, 爬虫類・両生類相とその分布, 生態学から見た北海道(東正剛・阿部永・辻井達一編), 198-208, 北海道大学図書刊行会, 373pp, 札幌.
- 1993 b, 北海道・広島町におけるトノサマガエルの生息状況, 爬虫両生類学雑誌, 15(2): 84.
- 出羽 寛 1991, 旭川の動・植物, 脊椎動物(鳥類を除く), 83-131, 自然保護調査報告書総集編 旭川市 298pp.
- Nishioka, M., Y. Kodama, M. Sumida and M. Ryuzaki 1993 Systematic evolution of *Rana rugosa* distributed in Japan elucidated by electrophoresis. Sci. Rep. Lab. Amphibian Biol., Hiroshima Univ. 12: 83-131.
- Nishioka, M., H. Hnada, I. Miura and M. Ryuzaki 1994 Four kinds of sex chromosomes in *Rana rugosa*. Sci. Rep. Lab. Amphibian Bio., Hiroshima Univ. 13: 1-34.
- 疋田 努 1982, 日本とその周辺地域における両生爬虫類相, 哺乳類科学, 43-44: 87-98.
- 北海道開発局石狩川開発建設部 1994, 平成5年度, 石狩川水系(石狩川下流)両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書
- 前田憲男・松井正文 1989, 日本カエル図鑑, 文一総合出版, 206pp, 東京.
- 松井正文 1996, 両生類の進化, 東大出版会, 255 pp, 東京.

Summary

During the period June to September 1996, a survey on the distribution of the wrinkled frog, *Rana rugosa* was conducted in the Asahikawa area. The survey was made up of 139 sites consisting of reservoirs, garden ponds, streams and rice-field ditches. From 34 of these sites a large number of frogs, young frogs and tadpoles were gathered.

The local distribution of this species was found to be restricted to an area concentrated around the hills of the town of Touma. Furthermore not a single specimen was collected from any of the other areas around Asahikawa that where surveyed, even when a habitat similar to that found in Touma existed. On the basis of these findings, we speculate that it is possible the original population of *Rana rugosa* frogs were artificially introduced into the area and have been extending the range of their habitat ever since.

Title	春光台公園で見られたカキラン, ヤマトキソウ, モウセンゴケの植生環境について
Authour(s)	鈴木 紘一, 塩田 悅, 盛 久良
Citation	旭川市博物館研究報告,3号,pp25-30
Issue Date	1997-3-31
URL	http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hakubutsukagaku/museum/tvosa/kenkyu/hak03/p25-30.pdf

春光台公園でみられたカキラン、ヤマトキソウ、 モウセンゴケの植生環境について

鈴木 紘一¹⁾・塩田 悠²⁾・盛 久良³⁾

1) 旭川市博物館

2) 旭川市立知新小学校

3) 旭川市大町1条9丁目

1. はじめに

環境庁の国立・国定公園特別地域内指定植物一覧の中では、カキランは希少種に指定され、同じくヤマトキソウやモウセンゴケも極端な生育立地条件地に生育する種に指定されているように、数も少なくこれまで旭川市内の生育確認の報告は

されていなかった。

今回、春光台公園内のスキー場という特異な環境で貴重なこの3種が確認され、植生調査をしたので報告する。

現地調査にご協力いただいた武部孝治氏(旭川市永山町4丁目)ならびに佐藤由雄氏(旭川市神楽6条2丁目)に厚くお礼申し上げる。



調査個所位置図

群落組成調査表

※木木層・草本層の高さは優占種。

調査地番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
低木層の高さ(~2m) cm	60	35	35	12	27	100	102	43	35	0
草本層の高さ cm	17	60	25	25	20	130	105	25	30	60
低木層の植被率 %	33	10	6	6	3	32	26	5	2	0
草本層の植被率 %	71	69	93	90	47	98	75	89	96	60
出現種数	11	12	10	8	7	10	10	9	10	6
ヤマナラシ	1・1									
ネコヤナギ	1・1									
低木エゾノバッコヤナギ		1・2			1・2	2・3				
エゾノカワヤナギ			1・1							
オノエヤナギ	1・2			1・2						
シラカンバ	+									
木ノリウツギ							1・1	+		
ナワシロイチゴ						1・1				
エゾヤマハギ	2・3	1・1				3・3	3・3	1・2		
ヒカゲノカズラ		+・2								
スギナ	2・3	1・1	1・1					1・2	+・2	
ワラビ						1・1	+・2			
オトギリソウ									+	
モウセンゴケ	+	4・5	4・4	1・2				3・3	2・2	4・4
ムラサキツメクサ							2・2			
クサレダマ									2・2	
ヘラオオバコ						+	+			
草ヒヨドリバナ						+				
ヨツバヒヨドリ	1・1				3・3					
ヤナギタンボボ						+		+・2		
ハナニガナ		1・1	1・2	+・2				+・2		1・2
アキタブキ		1・1					3・3			
ユウゼンギク	4・5	2・2			2・3		+	4・4	2・3	
ブタナ						+		+		
イ			3・3	3・3	1・1					
コウガイゼキショウ			+・2	1・2				+・2		1・2
コスカグサ			+	+	+					
木カモガヤ							1・1			
スキ	1・2	2・3				2・2	3・3		+・2	+・2
ヨシ			1・2	1・2	1・2					
ショウジョウスゲ	3・4	1・2				1・1		1・3	3・4	
アズマナルコ								2・2		3・3
ゴウソ			+・2	+・2						
アブラガヤ			2・2							
カキラン	1・2	+				1・1			1・1	
ヤマトキソウ		1・2			+・2					

調査地(方形区)番号／①, ⑥—カキランの群生していた個所、②—カキランとヤマトキソウが混生していた個所、③, ④, ⑧, ⑩—モウセンゴケが群生していた個所、⑤—モウセンゴケとヤマトキソウの混生していた個所、⑦—カキラン、ヤマトキソウ、モウセンゴケの混生しないと判断した個所、⑨—カキランとモウセンゴケの群生していた個所

2. 調査地の概要

春光台公園は旭川市の北西部に位置し面積52.4haの総合公園として市民の憩いの場として広く活用されている。この公園の樹林の大部分はカシワ、シラカンバ、ドロノキ、ミズナラ、ヤマナラシなどで形成されている。この公園の一角には地域の子供たちのためのスキー場が明治末期頃に造られ今も利用されている。このスキー場は毎年秋にはスキーの支障にならない程度の草刈りを行っており、上木にあたる高中木層がないので春光台公園の樹林地とは違った景観を呈している。このスキー場は面積約0.7ha、東向きで平均斜度は18°となっている。

3. 調査方法

スキー場となっている区域内に1m×1mの方

形区を10個所設定した。設定はカキラン、ヤマトキソウ、モウセンゴケがそれぞれ群生している方形区を6個所、カキランとヤマトキソウ、モウセンゴケとヤマトキソウ、カキランとモウセンゴケが混生している方形区を3個所、カキラン、モウセンゴケ、ヤマトキソウの入らない方形区を1個所とした。

調査区域内では3ヶ所で涌水をして沢となっていたのでこの3ヶ所の沢水のPH値と土壤のPH値を測定した。

4. 調査結果

調査結果は、群落組成調査表、調査区周辺の植生一覧、PH測定(平成8年8月5日採取試料)表で示す。

調査区周辺の植生一覧

①記載順序は、環境庁自然保護局編「植物目録」1987に準拠した。

②調査月日、5月11日、6月29日、7月13日、8月3日、10月12日

シダ植物

ヒカゲノカズラ科
ヒカゲノカズラ
トクサ科
スギナ
ワラビ科
ワラビ

被子植物

双子葉植物
離弁花類
ヤナギ科
ドロノキ
ヤマナラシ
ネコヤナギ
エゾノバッコヤナギ
イスコリヤナギ
エゾノカワヤナギ
エゾヤナギ

オノエヤナギ

カバノキ科
ケヤマハンノキ
シラカンバ
ブナ科
カシワ
ミズナラ
ニレ科
ハルニレ
タデ科
ヤナギタデ
イヌタデ
ミチヤナギ
オオイタドリ
ヒメスイバ
ナガバギシギン
エゾノギシギン
ナデシコ科
ミミナグサ

モクレン科	オオヨモギ
キタコブシ	エゾゴマナ
キンポウゲ科	ヒヨドリバナ
アキカラマツ	ヨツバヒヨドリ
オトギリソウ科	ヤナギタンポポ
オトギリソウ	ハナニガナ
モウセンゴケ科	アキダブキ
モウセンゴケ	アキノキリンソウ
ユキノシタ科	ヒメジョオン
ノリウツギ	セイヨウタンポポ
バラ科	オオアワダチソウ
エゾヤマザクラ	オオハンゴンソウ
ナワシロイチゴ	ユウゼンギク
ナナカマド	ブタナ
マメ科	単子葉植物
ウスバヤブマメ	イグサ科
エゾヤマハギ	イ
イスエンジュ	コウガイゼキショウ
クズ	クサイ
ニセアカシア	ヤマズズメノヒエ
ムラサキツメクサ	イネ科
シロツメクサ	コヌカグサ
クサフジ	ヤマアワ
ウルシ科	カモガヤ
ヤマウルシ	オニウシノケグサ
ニシキギ科	ヒロハノウシノケグサ
ツルウメモドキ	ススキ
マユミ	オオアワガエリ
アカバナ科	ヨシ
カラフトアカバナ	クマイザサ
メマツヨイグサ	カヤツリグサ科
ウコギ科	ショウジョウスゲ
ウド	ヒメカワズスゲ
合弁花類	ゴウソ
サクラソウ科	ヒメシラスゲ
オカトラノオ	アオスゲ
クサレダマ	アズマナルコ
モクセイ科	オオカワズスゲ
ハンドイ	ウシクグ
オオバコ科	マツバイ
オオバコ	アブラガヤ
ヘラオオバコ	ラン科
キヨウ科	カキラン
ツリガネニンジン	ヤマトキソウ
キク科	
オトコヨモギ	

PH測定結果

サンプリングポイント	PH値
ポイント1	6.91
ポイント2	6.87
ポイント3	6.79
ポイント4	6.82
火山灰土壤(粘土化)	6.10

注) ポイント1~4のサンプルは8回計測し、最大値と最小値を除いた6種類のデータの平均値をとった。

5. 考察

この調査地は市街地に囲まれ、冬はスキー場として圧雪されるという特異な環境にあるが、土壤のPH値は6.1、沢水も6.8~6.9とごく一般的な数値であった。また、植生調査においてはカキラン、ヤマトキソウ、モウセンゴケ以外は旭川市内で見られる植物であった。

春光台公園の中には他にも沢がありミズバショウやヨシなどの湿生植物が生育していたがモウセンゴケは確認できず、生育環境としても高木層や中木層が控えており、全く違った環境となっている。今回の調査では明らかにすることはできなかったが、このスキー場が明治末頃に軍隊の手により造成された際に他の土がここに運ばれた可能性もあり、その際、カキラン、ヤマトキソウ、モウ

センゴケが一緒に持ち込まれたことも予想される。いずれにしろ、市街地の中でのスキー場という人為的環境がこれまで旭川市内で見ることのできなかったこの3種にはあっていえると言える。



写真2 カキラン



写真3 ヤマトキソウ



写真1 調査地



写真4 モウセンゴケ

文 献

- 大井次三郎：新日本植物誌〈頸花編〉 至文堂 1983
- 北村四郎・村田 源：原色日本植物図鑑〈草本編 I・II〉 保育社 1984
- 佐竹義輔外編：日本の野生植物〈草本 I・II・III〉 平凡社 1981～82
- 鮫島惇一郎+辻井達一+梅沢俊一著：新版北海道の花 北海道大学図書刊行会 1993
- 環境庁自然保護局(編)：「植物目録」 大蔵省印刷局 1987
- 長田武正：原色日本帰化植物図鑑 保育社 1976
- 環境庁編：国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑—北海道編— 1980

参考文献

著者名	書名
大井次三郎	新日本植物誌
北村四郎	原色日本植物図鑑
佐竹義輔	日本の野生植物
長田武正	原色日本帰化植物図鑑
環境庁	植物目録
鮫島惇一郎	新版北海道の花
環境庁	国立、国定公園特別地域内指定植物図鑑

考 察

本研究では、北海道の植物を種別で整理して、主に土木工事による開拓地の影響を受けたものと、それ以外の開拓地の影響を受けないものとに分けて、主な結果を以下に示す。また、本研究の結果によると、北海道の植物は、主に土木工事による開拓地の影響を受けたものと、それ以外の開拓地の影響を受けないものとに分けられる。主な結果を以下に示す。

Title	現代社会における博物館施設の意義
Authour(s)	斎藤 傑
Citation	旭川市博物館研究報告,3号,pp31-39
Issue Date	1997-3-31
URL	http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hakubutsukagaku/museum/tvosa/kenkyu/hak03/p31-39.pdf

現代社会における博物館施設の意義

斎 藤 傑

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館

1 はじめに

昨年4月から博物館に関する話をしなければならなくなり、改めて博物館関係の本を何冊か目を通し、勉強をした。また、公民館の講座で、文化施設について話をするようにたのまれ、これらについて、いろいろと考えた。

この2つの機会に考えたことを中心に、博物館施設の今日的な意義について述べてみたい。ここで述べる前半の部分、文化施設に関わる話は、公民館の百寿大学で話した内容が中心になっている。

曲りなりにも、このような形でまとめることができたのは、先に述べたとおり、話す機会を与えて下さった方々のおかげであり、感謝申し上げる次第である。また、この発表について、快く承諾下さった旭川市博物館の皆さんにも心からお礼申し上げたい。

2 文化施設とは何か

文化施設というと、一般的には、文化会館とか、博物館・美術館とか、図書館とかを指すものと思う。しかし、単に、市内にあるこれらの施設を紹介するだけであれば、余り意味がないと思い、「文化施設とは何なのだろう」ということも含めて考えてみた。

文化施設とは、何十億円ものお金を掛けて造った立派な建物なのだからとか、古い、ボロな建物だから文化施設でないと言うことではない。文化

施設とは、建物ではなく、その建物なり、施設なりが持っている性格、あるいは使命によって決まるものと思う。

すなわち、一般には、文化的なことを行なっている、あるいは行なうことができるところが、文化施設ということになる。

それならば、文化的なこととは、どのようなことか、文化とは何か、という問題につながっていく。私たちの生活の中で、「文化」という言葉は、いろいろな場面で、多様に使われている。

「文化」という言葉のもっとも基礎になる解釈は、「人間がその生れた社会から後天的に習得し、社会を通じて伝えられる「社会的遺伝」ともいべき生活の仕方をさるものであって、主として遺伝を通じて獲得した生物的な諸器官はもとより、本能的な習性や行動はこれに含まれない」(石田英一郎『世界大百科事典』27 1981年 平凡社)と言う。すなわち、本来、生物体としての人間が持っていた以外のものすべてを指すことになる。

人間として、新たに獲得したもの、そのすべてが文化である。今、私たちが使っている言葉も、習慣も、社会も、家も、いろいろな道具やそれを使う技術も、音楽も、踊りも……、身の回りにあるものすべてが文化的所産である。これらのものが、親から子に、集団から集団にと引き継がれてゆく、そのこと事態も文化的行為である。

このように、見てくるとすべての行為が、文化的行為であり、それらを行なう施設は、文化施設になってしまう。このことから言うと、家庭=家は、もっとも重要な文化施設ということができる。

もちろん、学校は、文化施設の筆頭に上げられるべきものである。

しかし、今日においては、家庭や学校を文化施設と呼ぶ人はいない。繰り返しになるが、家庭や学校で行なわれていることは、間違いなく文化的行為であり、その社会において重要な役割を果たしているものである。

だが、学校は、教育施設であって、文化施設の仲間に入れようとはしない。しかば、文化施設ではない、教育施設で行なわれている教育とは、一体何かというと……、教育は、社会における重要な文化的行為である。それでも、教育施設であって、私の言うようなことは理解してもらえない。

そのうえ、この「文化」と「教育」という言葉の間には、見事に逆転現象が見られる。

私は、最初に、「文化施設」というと、一般的には、文化会館とか、博物館・美術館とか、図書館とかを指すものと思う」と話した。これらの施設は、文化施設ではあるが、大きな枠で言えば、社会教育施設の中に位置付けられていることは、ご存じのとおりである。中央公民館も、また、その社会教育施設の一つになっている。

文化的行為の一つである教育が、文化施設の上位に位置付けられていることがお分かりいただけたと思う。

教育とは、文化施設や学校の中で、行なわれる行為であるはずなのに、教育だけが肥大化して、独り歩きをしていると私は思っている。もちろん、「教育」という言葉が、お化けのようにひとりでに大きくなるということはないから、そこには原因がある。そこで、日本の教育について私なりの見方を述べてみたいと思う。

3 日本の教育について

現在の日本は、世界の中で、もっとも教育の行き届いた国である。今、日本では、特別な場合を除くと、文字の読めない人はいないと考えても良い。このように行き届いた教育は、明治新政府が、天皇を中心とした強力な国家体制を作り上げるために、教育に力を注いだ結果であると言える。

明治新政府は、教育制度を整備し、天皇中心の

国家観、および進んだ、新しい西洋文明を国民に教え込み、世界の列強に仲間入りするために邁進したわけである。そのため、国論を統一する目的で、全国同じ教科書、すなわち、国定教科書によって強力に教え込んでいる。この明治政府の国家観と教育は、あの不幸で、悲惨な戦争へ直接つながっていったということは、歴史的な事実であるが、今日の日本の基礎を築いたのも、また、その教育制度の充実にあったともいえる。

全国、津々浦々まで張り巡らされた学校は、画一的な国家教育を推進すると共に、巨大な力を持つに至っている。この学校教育を中心とした考え方の中には、文化的な国家などという考えは、みじんも感じられない。このような中で、社会的にも、教育重視、文化軽視の風潮が定着していったと思われる。

明治・大正・昭和と続いたこのような教育と文化の関係は、敗戦後の教育改革でも、基本的には見直されることなく、社会教育法の制定によって、文化活動そのものを社会教育の範疇にとじ込め、戦前同様、文化活動が教育よりも低い次元に置かれてしまった。

そのうえ、学校教育と社会教育は、車の両輪などと言葉の上では言われるが、実際には、学校教育重視の姿勢は変わることなく、今まで続いている。教育改革で、新しく生れた社会教育法でいう社会教育施設に、文化会館とか、博物館・美術館とか、図書館とかの文化施設が含まれることになる。

教育とは、教育てるという行為だと思う。しかし、「教育する」という言葉だけでは、文章は完結しないし、成り立たない。この教育するという言葉には、何々についてとか、誰々をとか、いう言葉が必要である。そして、教育する内容は、明らかに過去のものもろもろの文化活動から生み出されたものであることは自明のことである。その活動によって蓄積されたもの、すなわち、先人の長い間にわたる文化的行為によって生みだされ、受け継いできた知恵や知識、文化的遺産を成長に応じて教え、引き継いでいくことが、教育の行為であると私は思っている。

だから、本来、それぞれの地域、それぞれの仕

事、それぞれの生活によって、教育の内容は違っていてあたりまえである。自分が生きている環境の中で、生活していくために必要な知恵や技術を受け継ぐことが教育の基本である。この受け継ぎ方は、いろいろな方法があるし、あってしかるべきである。

ところが、それが忘れられ、あるいは無視した形で、いつも決まった場所で、決まった時間に、決まったことを教えることが教育であると思い込まれ、また、思い込んできたのだと思う。日本国内、すべて同じ国定教科書を使って、同じことを教える。この方が教える方も楽ではある。

このような組立の中には、明らかに国論を一つのものにまとめようとした明治政府の強い力が働いていたことがわかる。

ここで、もう一つ教育というか、学習というか、学問といって良いのか分からぬが、その辺のことについて述べておきたい。

学校教育では、先生がいて、生徒がいる。このような形の教育スタイルは、古くからあったのだろうが、私たちが一般的に知っているのは、江戸時代、各藩にあった藩校や寺小屋などである。ここでは、中国の優れた思想家が残した書物などを中心に、そこに書かれていることを読み、知ることが、学習であり、勉強であると考えられてきた。

このことについて、倉田公裕は、「日本の学問とは、まなぶーまねぶーまねる（真似ね）より出て、『師を弟子が真似て習う』ことの意味であり……、学ぶということは、主として書物を通してであり、書物を読むことが、何よりも学問であると考えられてきた」（倉田公裕『博物館学』1979年 東京堂出版）と述べている。中国の影響もあるのだろうが、本を読み、本で学び、多くの知識を得ることが、学問であり、研究であると考えられてきた。書物からの多くの知識の持ち主が、優れた研究者であり、学者であると長い間理解され、晴耕雨読が一つの理想でもあるかのように言われてきた。

しかし、倉田公裕が、桑原武夫の言葉として引いているように、芭蕉の作品を何度も繰り返し読み、芭蕉に関して書かれた本を、集めて何冊も読

んだからというだけでは、勉強家には違いないが、研究者あるいは学者とは言えないと言っている。

この本で学ぶという伝統は、明治政府の教育にも、そのまま持ち込まれている。それが国定教科書になるわけである。もちろん、今日においても、本から得る知識は非常に多いが、本によって理解される範囲は限られたものである。

例えば、猫のことを本に書いて理解させようとする。見事な絵も、写真も入れた、文章も素晴らしい、としても、そこで伝えられるものは、猫のほんの一部に過ぎない。あの猫の毛の柔らかさ、鋭い爪、その素早さ、跳躍力、高いところからの見事な着地、そして、いろいろなしぐさ、などなどは、本から理解することは出来ない。猫を見、猫に接して、はじめて猫というものの全体像が理解できるわけである。百聞は一見にしかずというとおりである。これは猫に限ったことではなく、畑を耕すための「鍬」を紹介するために、形や大きさや写真などで親切に解説しても、それを使う技術を本で伝えることは並大抵のことでは出来ない。

本来、理解するということは、その実物に接して知ることだと思う。ところが、書物の伝統、そして教科書、それらを中心とした教育は、この実物に接して知るということよりも、書かれていることを重視した方法で実施してきた。それが端的に現われた例が、図書館・図書室である。

現在の学校には、かならず図書館・図書室がある。もちろん、その施設が果たす役割が大きいことは十分理解できる。しかし、同じ学校で、実物から学ぶ、実物が置かれた博物館あるいは資料館というものが存在するところは非常に少ない。このように実物から学ぶということの重要性は知っていても、現実として、そのような状態になっていないということは理解できると思う。

そして、この書物、本に依存した状態は、活字、文字でかれていることに対するある種の信仰に近いものになっている。よく、「日本人は活字に弱い」とと言われる。活字で印刷されたものを見ると、簡単に信用してしまうところがある。それは違いますよといっても、ここに書いてあるでしょうと、言葉よりも活字を信じる傾向が強いわ

けである。これは明らかに書物、本を重視してきた日本の教育の現れである。この特質は、別の意味でいえば、日本の教育レベルの高さを表しているともいえる。文字を読むことができない人たちのコミュニケーションは、言葉が中心になるわけで、文字に対する依存度は低くなるのは当たりまえのことである。

私は、別に書物や本の功罪を述べているわけではない。私は本が好きだから、本の必要性も、重要性も知っているつもりである。私が理解いただきたいのは、書籍・本に依存し、それに、さらに枠をはめるようなやり方、教育はいかがなものかと言いたいのである。

4 <教育>から<学習>へ

いつも決まった場所で、決まった時間に、決まることを教えるのが学校教育であるとすると、社会教育の方がいくらか自由が感じられる。しかし、「教育」という言葉、そして学校教育が作り出した雰囲気、それらはあまり良いものではない。そのために社会教育から生涯教育に、そして、さらに生涯学習へと呼び名を変えてきた。これは、単に、呼び名を変えただけではなく、現在の社会状況の変化に対応する基本政策の一つとして、文部省が積極的に推進していることである。社会教育から生涯学習へ、この変化は、ある面から言えば、革命的なことである。

人間の一生は学習であるといって、学校教育は生涯学習の一部でしかないと位置付けられ、それが積極的に推進されるとすれば、やはり革命的なことである。

社会教育の時代（今もその時代であるが）は、学校教育に付属するかのような存在であったものが、生涯学習の時代（いつ来るか分からぬ）になると、その関係が逆転することになる。そうすると学校教育のやり方がうまくいってないから、生涯学習全体がうまく機能しないのだ、ということだってありえる。

しかし、全国津々浦々に存在する学校、その先生、それに比べて、いろいろな機能を持つ社会教育施設や社会教育機関は、ばらばらの存在である。

このような施設や機関が、長い歴史と大きな力を持つ学校教育に肩を並べ、逆転した位置付けになるとは考えられない。おこりえないこと、すなわち、それがなしえたら革命的としか言いようがない。

とはいっても、今日の社会状況の中で、実現しなければならないものであるなら、その機関に働くものとして、一歩一歩努力しなければならないことではある。

<教育>と<学習>、<教育>から<学習>、何が、どう変わるのか。ただ、<教える><学ぶ>と考えたとき、教えるは先生であり、学ぶは生徒である。そして、この関係の中で重要なことであり、結果として必要なことは、<教える>ではなく、<学ぶ>ことである。

一生懸命教える、工夫をして教える、どのように努力して教えるても、学ぶ側が、それを拒否したら、教えたことは伝わらないわけである。また、自分自身でどんどん学習し、それを理解していくのであれば、教える必要などない。このことから考えると、学校の主体は、明らかに学ぶ側・生徒にあり、その学ぶことを助けるのが先生ということになる。

<教える>というのは、相手が必要であるが、<学ぶ>のは、自分自身の問題で、必ずしも相手が必要だということはない。いろいろな学び方がある。だから、ときによつては先生がいなくたって学ぶことは出来るわけである。それだからといって、学校教育が学校学習といったふうに変わることはない。それは子どもの判断力の問題と義務教育のせいである。でも、大学ならば変わってもいいんじゃないかな、いや、変わるべきだと思ったりもする。

なぜ、このように力を入れて述べるかというと、小学校から大学まで、<教える人><教わる人>の関係が続き、これが社会教育にまで蔓延している。生涯学習とはいうが、その方法については明瞭な方向性が示されていない。学校教育の延長のような形で<教える人><教わる人>の関係が続いている。この方法により確かに、教わり上手の人たちが多くなっている。いろいろな先生の話を聞き、たくさんのことを見ることは素晴らしいこと

とではある。しかし、先に述べた芭蕉のことと同じで、本で得ていたものを、話を聞くことに置き換えるだけであれば何も変わっていない。

知識を得る、学ぶということは、それを使う、生かすということがなれば意味がない。新しい知識を生かして、生活の上で役立てるとか、研究調査を進めるとか、新しいことに挑戦するとか、人のために役立てるとか、次に繋っていくことが必要なことと思う。そのような方向に進めるような指導をするのが教育・<教える人>の役割だと思っている。

生涯学習を、学校教育の延長に据えるのであれば、社会教育で十分であり、新しく生涯学習とする意味もないし、革命的でも何でもない。生涯学習は、今日までの教育という枠を打破る新しいものでなければならない。

倉田公裕は、1979年に、次のように述べている。

或る人は、生涯教育とは、社会教育、成人教育の別称である様に理解し、あるいは学校教育+社会教育の現代化と解する人も少なくない。しかし、生涯教育とは新しい理念であり、けして従来の学校教育的教育や社会教育の延長拡大ではない。

この新しい生涯教育の理念は、今迄の教育の枠組を超えて考えなければならない。即ち、既に存在した教育形態ではなく、これから、われわれが新しくその形態を創り出さねばならない課題としての教育であり、その教育体系なのである。

旧理念で、教育を代表する学校教育は、生涯教育では、その基礎的部分となり、ほんの一部に過ぎないということになる。

（倉田公裕『博物館学』1979年 東京堂出版）

この生涯教育のための新しい形態を創り出すには、より積極的に挑戦する情熱をぬきにしてはなしとげられないし、また、繰りかえすが、正しい認識を持たなければならない。

その新しい形態が、どのようなものなのか、まだ、明瞭には見えていない。しかし、今、いろいろな形で進められている事柄の中に、新しい芽が含まれている。その芽を探だし、成長させるこ

とが重要であり、その新しい挑戦、そのものが生涯学習の基本でもあると考えている。

5 社会教育施設の役割

生涯学習は、これからの時代におけるもっとも重要な施策の一つである。その生涯学習の中で、重要な役割を担う社会教育施設は、それぞれの特質にあった新しい役割、使命を果たすことを考えていかなければならない。

現在、旭川には、公民館、図書館、博物館、美術館、文化会館などの社会教育施設がある。これらの施設は、それぞれの歩みの中で、その役割を果たしてきたわけであるが、ここで改めて、その役割について、私なりに整理してみることにする。

公 民 館

今まで、社会教育の中心的施設として、その役割を担ってきた公民館は、旭川市には、中央、地域の公民館を合わせて14館ある。この公民館では、各種講座、教室が開催されると共に、その施設を利用する人たちに場の提供をおこなっている。

それぞれの公民館では、各種講座を企画し、講師を選定し、実施している。その実施回数は、広報誌『旭川市民』を見るまでもなく、幅広い分野にわたり数多く行なわれている。これに参加する市民は、多くの人数になる。また、この他に、百寿大学・婦人学級などを持ち、地域における中心的な役割を果たしてきた。これらの企画には、市民も参加し、より多く興味がもたれるものを選び、実施している。

しかし、ここで行なわれている講座の多くは、私が先に述べたく教える人・<教わる人>の関係で成り立っている。生涯学習の<学習>というのは、自己の意志によるもので、この<学習=学ぶ>は自己の行為であり、意志である。それは、学びに行くという意志ではなく、何々を学びたいという意志なのである。教える人・教わる人の関係には、このことは関係なく、教える人からの一方的な伝達になってしまふ。この関係は明らかに学校教育と同じであり、その延長である。

このように言うと、そうではなく、先生の話を聴く、学びに行くことに意義を見出しているのだ、といわれるかもしれない。意外とこのように言う人が多いと思う。これは、明らかに学習ということを理解されていないことによって生じたものである。学習とするということは、話を聞くこと、本を読むことだと思い込んでいる。学校教育の見事なまでの成果である。

学校教育は、多くの知識を教えたかもしれないが、学習とは何か、学習はどのようにするか、ということを教えていない。もちろん、話を聞くことも、本を読むことも重要なことであるし、学習の一部ではある。

私は、今、目指している生涯学習とは、このような学校教育の延長型のものではない。多少時間はかかるでも、自発的で、自主的な学習が一つの目標であると思っている。

これまでの各種講座の実施、さらには、自発的で、自主的な学習グループの場として、公民館は、これからも役割を果たしていくことになると思う。しかし、現在、地域住民センター、地域会館など、場としては同じような施設が作られてる。これらの施設とのバランスを考えたうえで、生涯学習時代の新しい公民館のあり方を試考しないかぎり、時代遅れの存在になってしまふ危険性を含んでいると思うのである。

文化会館・公会堂・音楽堂などのホール

旭川市民文化会館は、1,550席の大ホールと318席の小ホールを持っている。公会堂は、845席の中ホール、また、大雪クリスタルホールには、597席の音楽専用ホールなどがある。

これらの施設は、市民のために、音楽、演劇、映画、講演会など、文化的な催しを行なう場所として用意され、その役割を果たしている。この基本的な役割、使命は、これからも変わることはない。

これらの施設は、基本的に利用する人が申し込み借りることができる貸ホールである。その施設を使って、多くの市民が、日頃の成果を発表し、また、すぐれた音楽や舞台に接する機会を持つことができる。このようなことから、その存在意義

は、さらに高まるものと思う。

音楽に限らず、芸術に携わるものにとって、もっとも重要なことは、数多くすぐれたものに接することだといわれている。そのすぐれた内容の催しを行なうためには、それを行なうのに適した場所があるかどうかと、興行として成り立つかどうかということである。いくら良いものを言っても、その条件が整わなければ実施することは出来ない。このことは見る側、聞く側の意識、興味に左右されることになる。良い内容の優れた催しから、多くの人が聞いてくれるというのであれば、良いものが出来るはずである。すなわち、これは市民の催しに対する理解度によるとも言える。

この理解度を高めるために、文化会館などでは、いくつかの自主事業を行なっている。もちろん、良いものを安く市民に提供し、それに接することによって、市民の文化レベルの向上に寄与しようということであるが、この自主事業を行うことも簡単ではない。

どのような催しを行うかの決定から、入場券、ポスター、ちらしなどの作成、宣伝などの準備作業、そして入場券の販売と、成功させるためには大変な努力が必要である。それぞれの館が自主的に行なう事業であるから、人の入りなど関係ないというものではない。そのような考えなら始めから行なう必要もないことになる。大なり小なり、催しを行なうということは、興行的な意味を持っている。それを継続的に成功させていくには、今の行政的なものの考え方では難しいことである。

これらの施設は、施設の内容を充実させ、喜んで使ってもらえるものにすることに力を注ぐべきだと私は思う。

図書館

長年の懸案であった中央図書館が新しく開館し、ネットワーク構想にもとづく地区図書館も、末広、永山に開館した。この図書館は、予想を越える利用者によって、成功した施設として評価されている。今後、地区図書館の増加、公民館内図書館との連携などによって、さらに充実した内容になっていくものと思われる。

図書館は、社会教育の施設としては、最も古い

歴史をもった施設であり、また、学校教育、企業を含めて、広範囲にわたって存在している施設ということができる。

本来、図書館は、数少ない貴重な文献資料を保存し、活用するための施設であり、日本の知識を支える大きな役割をになってきた。そして、教育の大衆化と共に、図書館の充実、拡大は重要なこととなっていました。

図書館の生命である図書・本は、あらゆる分野の知識を蓄積した宝庫であり、個人の成長過程に合わせて、本から得る知識は非常に大きいものがある。だから古くから本を読むということは重要であり、社会状況が変化しそうが変わるものではない。

しかし、本は、基本的に個人的な存在である。もちろん、同じ本を何人もの人が読むし、読書会で複数の人と読むこともできる。だが、本は、個人の選択によって、基本的に個人と向かい合ったところで読まれるものであり、本を読む場所は、図書館であったり、自分の家であったり場所は選ばない。このように、個人的作業が圧倒的に多いことは理解できると思う。ここに、他の社会教育施設との違いがある。

この個人的作業を助けるために本を貸すことが、今の図書館の主たる仕事になっている。この本を貸す、本を借りるという行為が、図書館の中心業務と考えるのには、ある種の疑問を感じる。この考えで行くと、読まれる可能性の高いベストセラーを多く置くことによって、利用者が増えるといった考え方につながる危険性を含んでいる。入手しにくい本こそ、図書館に必要なのである。

図書館は、本を貸すと共に、本に閉じ込められている情報や知識を蓄積し、提供することが、重要な仕事である。そのために、本の中に含まれている多くの情報を整理し、蓄積し、提供できるようすること、本を読むこと、調べることの手助けができるようすること、本を読み得た知識を次の行為に広げて行くような役割が必要と思う。図書館は、単に本の蔵ではなく、知識と情報の蔵であるという認識のもとに、その役割を考える必要があるのでないか。

図書館は、先にも述べたとおり、複数の人を対

象に何かを伝えるというところではなく、個人の学習とのつながりを強くもっている施設と言うことができる。だから、図書館の専門職種である司書は、本に関する専門技術者であり、アドバイザーであるけれども、教育者ではない。

博物館・科学館・井上記念館・美術館

一般に、博物館あるいは博物館相当施設に含まれられる。同じ仲間の施設だから、すべて同じというわけではない。博物館・科学館・井上記念館は、基本的には学習するための施設であり、これらの施設を見ることによって、新しい知識を得ることができる。これに対して、美術館は、鑑賞するための施設であり、人の感性とかかわりの深い施設ということができる。

これらの施設は、見せる「もの」を媒体にしている点で共通している。その展示される「もの」、見せる「場所」、どのように見せるかを演出する「人」、この3点が機能することによって力を発揮する施設である。

だから博物館施設には、必ず展示物がある。しかし、ただものが置かれているだけならば、單なる陳列所であり、社会教育施設とは言えない。展示する「もの」を見る人にわかりやすく、教育的配慮のもとに見せるところが博物館施設である。その仕事をするのが、専門職員である学芸員である。

博物館は、「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすること目的とする機関」であると、博物館法に定められている。

収集、保管、調査研究、展示、教育普及などを実施するのには、専門的な知識が必要である。この専門的な知識を持った学芸員が介在するところに、これらの施設の特徴がある。博物館施設は、収集・保管の使命、調査研究の使命、展示・普及の使命、この3つの大きな使命をもった教育機関であると位置づけられている。

すでに、先生と生徒といった学校教育の延長的

な学習形態には陰りが見えている現在、自分の意志によって、実際のものを見、接し、調べ、学ぶ、このようにして理解していく学習形態、これこそが眞の学習であり、重要なことなのである。今日、生涯学習の充実が語られている中で、これらの施設が持つ教育的意味合いは、さらに大きなものになっていくことは明らかである。

以上、社会教育を4つのグループに分けて述べたが、これらの施設が、生涯学習において果たす役割を理解することができたと思う。そして、これらの施設のなかで、今後の生涯学習の中で、もっとも重要な役割を果たす施設が博物館施設であることも分かったと思う。

6 なぜ、今、博物館か

日本の教育は、書籍から学ぶという伝統を受けて、明治以降も、教科書が、教育の中心であったわけである。すなわち、書籍である教科書を覚えることが勉強であり、教科書を教えることが教育の中心になってきた。書籍は、多くの新しい知識を与えるが、書籍から新しい発見や発明はないし、新しい創造も生れない。

もちろん、明治政府の考えの中では、教科書によって、天皇を中心とした国家観を国民に知らしめる役割を持っていた。それが、戦後の新憲法の時代、義務教育においては、教育の平等化が最も大きな使命であり、そのために、何年には、何々を教えると細かく決められてきた。このことは、このことで重要なことであるが、実際のものから学ぶという思想・考え方を日本に育て、定着させることなく、書籍重視の考え方へ流れていったことも事実である。

この一元的な教育は、広く国民に教育の平等化をもたらしたが、独創的な発想を生み育てる土壤を作らなかった。ものを創造する、あるいは研究にたずさわること、これらのこととは個々人の独創性が基本的になる。自分の発想、独創性を持つことが、もの作りにたずさわる者、あるいは研究者の基本であり、生命である。

このようなオリジナリティーを育てることが重

要であることは言うまでもない。自然と向き合い、自然から社会、自分の身の回りをも含めて、ものを見、ものを知り、ものから学ぶ、そして考える。そのようにして育てられたものの見方、考え方が、創造へつながっていくことになる。

良いものに接することが、最大の学習になる。良い音楽を聞く、すばらしい絵を見る、優れた作品に出会う、これらのが基礎になって、新しい創造へつながっていくことになる。すなわち、過去のなかにこそ、未来があると言える。

自分の目で見、ものに接し、ものを知り、ものから学ぶ、その場所が博物館であり、博物館の使命である。私が、なぜ博物館かと力を入れていうのが理解いただけたと思う。

次に、もう一つ述べておきたいことがある。それは、私が今、美術館に勤務していることと関わりがある。博物館は、ものを通しての教育機関であり、学習する場所である。この基本的な考え方は、考え方としていいが、美術館の場合は、あまり教育機関ということを強く強調することには、ある種の抵抗を感じる。美術館も、社会教育機関であり、博物館のなかまではあるが、知識を得る、学ぶというよりは、ものを見て、感じるという感覚の方が強い。鑑賞も立派な教育的行為であるから、とくに問題にする必要もないが、教育機関ということを強調するのとは別に、私は博物館、美術館も含めて、つぎのような事がらを考えている。

いつの日から使われているかわからないが、〈森林浴〉という言葉がある。『広辞苑』第4版（新村出編 1993年 岩波書店）によると「森林に入り、樹木の香氣を浴び、精神的な安らぎと爽快な気分を得ること」と書かれている。森林の緑が、人間に精神的な安らぎと爽快な気分を与える。これは、大きな森林に限らず、緑の失われた都会で——、東京の下町などで見られる植木鉢の列、ビルに重層的に持ち込まれる樹木、これらも人間が根源的に持っている動物的感性と深くかかわっているものと考えられる。

この感性が、人間に精神的な安らぎと爽快な気分を与えるわけである。精神的な安らぎと爽快感を持つということは、人間の存在、いや、人間の

あり方そのものとかかわった基本的なことである。私たち、いや、皆さんも、この「森林浴」と似た感覚を、別のところで感じたことがあるはずである。

それは、旅行などをして、古い町並みや寺社仏閣などに接したとき、また、都会からふるさとに帰った時などである。私などは、東京のビル街で、何日間かを過ごし、谷中や浅草の町並みに足を踏み入れると、何か精神的な安らぎを感じる。このように、人間の営みの中で生み出された文化的遺産、そのものが人に与える一種の安堵感は、「森林浴」に似たものと言える。

このように長い人間の営みの中で生み出された遺産が、人に与えるものは、人間が獲得した文化的感性にかかわるものだと考えられる。これは、古い町並みや寺社仏閣に限ったものではなく、優れた音楽や文学、絵画や彫刻、これら先人によって残された古典は、精神的な安らぎと爽快な気分を与えてくれる。私は、これらに接することを「文化浴」と呼びたいと思っている。

多くの先人によって残されたいろいろな文化的遺産を収集し、展示している場所、それが博物館であり、美術館である。すなわち、博物館や美術館は、この「文化浴」の最適な場所であると確信している。何も教育機関だ、学習機関だといって、その面だけを強調するだけではなく、もっと人間の根源に問いかける精神の「ふるさと」としての意味がある。幼い日に手にした遊び道具、田畠を耕すのに使って農機具、木を切った鋸や鉈、色の変わった古い写真、これら全てが、それぞれの人々に語りかける。それは教育といった次元以前に、多くの人に感じさせるものがある。「森林浴」がそうであるように、「文化浴」という過去への振り子が、安らぎを生み、今日、明日への原動力になると思っている。

私の勤務する彫刻美術館は、明治35年に建てられた重要文化財に指定されている。この古い建物に入って、すぐれた彫刻に接して、日常とは違った精神的な安らぎ、安堵感を持っていただけたら、それだけで大きな存在理由になると思っている。

博物館は、社会教育機関であり、学習の場であることには違いがない。その意味での重要性も、

ますます大きくなっていくと思うが、それ以前に、博物館は、人間の持っている感性に問いかける文化的遺産を収集し、展示する場所であり、先に述べたとおり「文化浴」の重要な空間なのだと思っている。

今や日本は、もっとも科学技術が進んだ国である。先端の科学技術が家庭の中まで入り込んでいる。また、複雑化した今日の社会、人間関係は、多くのストレスを生んでいる。このような社会のなかでの精神的バランスを保つためにも、博物館・美術館という空間がはたす役割は、今後、ますます重要性になってくると確信している。

Title	旭川採集アイヌ語動詞語彙集Ⅲ
Authour(s)	魚井 一由
Citation	旭川市博物館研究報告,3号,pp41-70
Issue Date	1997-3-31
URL	http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hakubutsukagaku/museum/tvosa/kenkyu/hak03/p41-70.pdf

旭川採集アイヌ語動詞彙集Ⅲ

魚 井 一 由

旭川市博物館

M

ma¹ 焼く、炙る。第Ⅰ類動詞 wen-kamiash-an -yubi-uk-ine-osorokari-imanit-itarare-ine-ma-wa-e-okere-an. 魔人は兄の尻に焼き串を通して焼いて食べてしまった。imanit<i(それ：肉、魚) ma(焼く) nit(串) 烤き串

ma² 泳ぐ。第Ⅱ類動詞 文語例/ ne-an-rawunkut-an-ekuba-ine-erepashi-ma-an. その下帯びを衛えて沖に向かって私は泳いだ。口語例/ sak-ita-petotta-ku-ma. 夏に川で私は泳ぐ。

mak 開く。主格三人称動詞 Ekushukono-rikun-puyar-mak-an-na. 突然天窓が開いたのです。

maka < mak(擬声語?) a(他動詞化語尾)第Ⅰ類動詞 ①開ける。kanka-puta-an-maka-an. (箱の)上蓋を開ける。②捲る。apa-oroppe-an-maka-wa-ahun-an. 紙を捲って入る。

makaokush < maka(mak『後ろ』の人称形。その後ろ)o(そこから)kush(被さる)仰向けになって倒れる。第Ⅱ類動詞 neno-ie-kor-an-machi-makaokush-an. そう言いながら妻は仰向けになって倒れた。

makke < mak(擬声語?) ke(自動詞化語尾)開く。主格三人称動詞 shirara-apa-makke-an. 岩の扉が開いた。

makkosanu < mak(後に倒れる)kosanu(一回態語尾)後ろにはたとひっくり返る。第Ⅱ類動詞 su-oshke-ta-okai-tannep-otappa-kana-anbe-nukar-an-wa-i-ossereke-kor-makkosanu-an. 鍋の中の蛇が暴れているのを見て驚いて後ろにはたと倒れてしまいました。

maknatara < mak(開いている)natara(持続態語尾)ずっと開いている⇒光り輝いている。主格三人称動詞 nea-chise-kotoro-maknatara-an. その家

の表面は光り輝いていた。

makun < mak(奥) un(ある)後にある。第Ⅱ類動詞 makun-huchi 曾祖母。

marattone < maratto(邦語『賓客(まれびと)』)ne(になる)賓客になる。天界で人間の姿で暮らしている動物神が動物の姿に身を変えて人間に肉や毛皮等を持たらすべく人間界に降臨する。第Ⅱ類動詞 ainu-moshitta-marattone-an-wa-neno-sake-ne-wa-shito-ne-wa-inaw-an-kor-wa-ek-an. 人間の世界へ賓客となって訪ねてこのように酒やら粢やらイナウを戴いて帰りました。

masa 開ける。第Ⅰ類動詞 arwen-kamiashi-chup-kamui-uk-rusui-kusu-paro-masa-kor-tere-an. 大魔神は日の神を取りたいので口を開けて待っている。

matkoiwak < mat(妻) ko(に対して) iwk(行く)妻問い合わせをする。第Ⅰ類動詞 To-kor-kamui-matkoi-wak-kusu-shipusu-ki-na. 潮の神は妻問い合わせるために浮き上がってくるのです。

matkor < mat(妻) kor(持つ)妻帯している。第Ⅱ類動詞 matkor-an. 私は妻帯しています。

matkosampa < mat(擬声語) kosampa(一回態語尾主格複数形)複数の人がバッと起き上がる。an-chise-ta-ahun-an-aike-anona-ka-anonu-ka-matkosampa-an. 私が家へ入ると父も母もバッと起き上がるのでした。

matkosanu < mat(擬声語) kosanu(一回態語尾主格単数形)バッと起き上がる。バッと立ち上がる。an-chise-ta-ahun-aike-anona-matkosanu-an. 私が家へ入ると父はバッと起き上がるのでした。

matne < mat(女) ne(である)女である。第Ⅱ類動詞 matne-an-kusu-kemeiki-an. 私は女ですので針仕事をします。

mawetui < mawe (maw「息」の人称形) tui (切れる) 息が切れる。死ぬ。第Ⅱ類動詞 a-yubi-imanit-kata-teseshke-aine-mawetui-na. 兄は焼き串の上で反り返って息が切れて死んでしまった。

mawa 飢えている。第Ⅱ類動詞 合成語に現れる。 mawap < mawa (飢えている) p (もの) 胃袋。

mawkochupu < maw (風) ko (に対して) chupu (ちぢめる) 風の中に身を入れる ⇒ 風に身を任せて飛ぶ。 第Ⅰ類動詞 pirika-rera-an-mawkochupu. いい風に身を任せながら飛ぶ。

mawkohopumpa < maw (息) ko (伴に) hopumpa (hopuni『昇る』の①主格複数②尊敬) 流行り病で死す。 ①主格複数: a-utarihi-makohopumpa-an. 仲間たちが流行り病で死んだ。 ②尊敬: Tan-kotan-kor-kur-mawkohopumpa-an. あの村の主が流行り病で亡くなられた。

mawkohopuni < maw (息) ko (伴に) hopuni (上がる) 流行り病で死す。主格単数動詞 anonaka-mawkohopuni-an. 私の父も流行り病で死んだ。

mawkopirka < maw (息) ko (伴に) pirka (よい) 流行り病に罹っても回復がよい。⇒ 幸福になる。第Ⅱ類動詞 Nea-kotan-un-kur-opitta-mawkopirka-kunine-an-saniyo. その村の人が全て幸福になるようにしました。

mawkowen < maw (息) ko (伴に) wen (悪い) 流行り病に罹って回復が思わしくない。⇒ 不幸になる。第Ⅱ類動詞 nea-wen-kewtum-menoko-utar-mawkowen-kuni-ne-chi-e-ko-inkar-a. その悪い心を持った娘たちが不幸になるように呪いをかけた。

mawsuk < maw (息を) suk (擬声語? スーと吸う) 欠をする。第Ⅱ類動詞 mokon-rusui-an-kusu-mawsuk-an. 眠いので欠が出る。

mawtasare < maw (風を) tasare (返す) 向かい風に向かって飛ぶ。第Ⅱ類動詞 mawtasare-an-kor-eperai-rikin-an. 向かい風に向かいながら川上の方へ飛んで行く。

mayaike < maymay (『痒い』という時の擬態語ムズムズ) ke (動詞化語尾) 痒い。主格三人称動詞 an-teke-mayaike. 手が痒い。

mayun 韶きわたる。主格三人称動詞 kani-mayun. 金属音が響きわたる。

mean < me (寒さ) an (ある) 寒い。第Ⅱ類動詞 tan-to-sonno-shiri-mean. 今日は本当に寒い。

meekot < me (寒さ) ekot (～で死ぬ) 寒さで死す。 shinrupush-ita-soita-iyoshike-wa-mokor-yakne-meekot-nankoro. 大地が凍て付くとき酔っ

て外で寝てしまったら寒さで死んでしまうだろう。

mek ①(食べ物を) 分ける。②食べ物をよそう。第Ⅰ類動詞 ① nepnakka-mek-wa-e-ya. なんでも分けて食べるのですよ。② aisa-su-oshike-an-be-i-mek-an. 姉は鍋の中のものを私によそってくれた。

mekkar < mek (食) kar (する) 食べ物をよそう。mekに同じ。第Ⅰ類動詞

mekkarpa < mekkar (食) pa (①目的物複数②尊敬) ①食べ物をたくさんよそう。 nea-okkai-pirika-chep-i-mekkarpa-an. その若者は立派な魚をたくさん私たちによそうでした。②食べ物をよそってくださる。 nea-kamui-ne-an-kur-i-i-mekkarpa-an. その神様のような方が私たちに食べ物をよそってくださるのでした。

mekkarpapa < mekkar (食) pa (目的物複数) pa (尊敬) 食べ物をたくさんよそって下さる。 nea-kamui-neno-an-kur-su-oshike-an-kera-anbe-i-mekkarpapa-an-na. その神様のような方が鍋のご馳走をたくさん私によそって下さるのでした。

meman < mem (涼しさ) an (ある) 涼しい。主格三人称動詞 chuk-hanke-kotom-an-kusu-shiri-meman. 秋が近いらしく涼しい。

meshke < mesh (擬声語) ke (自動詞化語尾) メッシュと音を立てて割れる。壊れる。第Ⅱ類動詞 itanki-o'tchike-wa-ha'tchiri-wa-meshke-wa-tup-an. 碗が膳から落ちてメッシュと音を立てて割れて二つになった。 nishite-ni-mukara-ani-an-tauki-yakne-mukara-notak-meshke-an. 固い木を鉄で叩いたら鉄の刃がガタガタになった。

meshkosanu < mesh (擬声語) kosanu (一回態語尾) メッシュと音を立てて倒れる。 nea-kimun-kamui-tannep-otereke-aike-ekushukono-meshkosanu. 熊は蛇を踏みつけた途端メッシュと音を立てて倒れた。

mesu < mesh (擬声語) u (他動詞化語尾) 剥す。第Ⅰ類動詞 "Atui-asam-ta-an-kote-konkani-amushpe-musu-wa-yanke-kur-an-kottureshi-kore-kuni-na" sekor-kanto-kor-kamui-itak. 「海底に私がくっつけた金の蟹を剥して陸に揚げたものに我が妹を与える」と天の神は言っている。

meuke < meu (擬声語) ke (動詞化語尾) ギーと音を立てながら崩れ落ちる。第Ⅱ類動詞 kai-koban-chikunioushi-turano-uko-mewke-wa-paye. 折れたくない立ち木は根ごとギーと音を立てながら崩れ落ちた。

meush < me (寒さが) ush (付いている) 寒けがする。第Ⅱ類動詞 ku-meush-kusu-ku-omuke-kar-

kotom-an. 寒けがするので風邪をひいたらしい。

mi 第I類動詞 ①着る。縫う。②上に掛ける。① retar-kosonde-mi-menoko. 白い小袖を纏った女。② amip<a(中相) mi(上に掛ける) p(物)掛け布団。

mik <擬声語 犬吠える。主格三人称 seta-mik. 犬が吠える。

mike <擬声語 光る。主格三人称 chise-oshike-mike-kane-an. 家の中は光っていました。

mimush <mim(主として魚肉) ush(付いている) 太っている。第II類動詞

mina 笑う。第I類動詞 An-kor-huchi-hempar-it-a-sancha-otta-mina-kane-an. おばあさんはいつも口許に笑いを浮かべていた。

minakoyaikush < mina(笑う) koyaikush(出来兼ねる)まだ笑いたいのだけれども相手に失礼に当たるからこれ以上笑うことができない。第II類動詞

minamina < mina(喜) mina(喜)ニコニコ笑う。第II類動詞 tan-ekatchi-hembaraita-minamina-na. あの子はいつもニコニコ笑っている。

minare < mina(笑う) re(他動詞化語尾)笑わす。第I類動詞 a-yubi-nennakka-minare-kor-an. 兄は誰をも笑わせていました。

mipa < mi(喜) pa(目的物複数)たくさん着る。me-an-kusu-an-mipa-kor-ashin-an. 寒いのでたくさん着て出かけた。

mire < mi(着る) re(他動詞化語尾)着せる。第I類動詞 an-kor-ekatchi-pirika-mip-an-mire. 子供にきれいな着物を着せた。

mirepa < mire(喜) pa(目的物複数)たくさん着せる。me-an-it-a-an-kor-totto-i-mirepa-an. 寒いときは母私にたくさん着せた。

moimoike < moi(ミヨコ) moi(ミヨコ) ke(動詞化語尾)ミヨコミヨコ動く。ごそごそ動く。主格三人称動詞 mun-tum-otta-nepanbe-moimoike. 草の中で何かがごそごそ動いている。

moire < moi(入江:深層に『穏やかさ、ゆったりさ』の意義を持つ。) ne(のようである)第II類動詞 穏やかである。paikar-an-atui-to-epitta-moire-na. 春の海ひねもすのたりのたりかな。tan-menoko-sonno-moire-na. あの女性は本当に穏やかです。

mokonnoye < mokon(眠りが) noye(振れ、絡みつく。)熟睡する。第II類動詞 shinki-an-kusu-numan-mokonnoye-an. 疲れていたので昨晚は熟睡した。

mokonrusui < mokor(眠る) rusui(希望の助動詞『～したい』眠い。)第II類動詞 tane-an-noshiki-kusu-mokonrusui-an. もう夜中なので眠い。

mokor < mo(静けさ) kor(持つ)眠る。第II類動詞 mokor-an-nakka-rai-an-nakka-anerabutek-na. 私は眠っているのやら死んでいるのやら分からなくなりました。

mokore < mokor(喜) re(使役化語尾)寝せる。第I類動詞 an-kor-shiushpe-an-mokore. 私の赤ん坊を寝せる。

mokorekot < mokor(眠り) e(それで) kot(死す)眠りが原因で死す。眠りすぎて死す。第II類動詞

mokoritakte < mokor(眠りが) itak(言う) te(使役化語尾)寝言を言う。第II類動詞

mokorkoek < mokor(眠り) ko(と共に) ek(やって来る)睡眠中に何かにおびやかされて身動きができない。第I類動詞 Nekon-ikika-eramshikare-an-wa-an-mokorkoek-na. どうしてか分かりませんが何かにおびやかされて身動きができなくなるのです。

mokottemure < mokor(眠り) temu(苦しさの余り唸る) re(使役化語尾)うなされる。第I類動詞 shir-peker-pakno-an-mokottemure-kusu-na-mokor-rusui-an. 明け方までうなされたのでまだ眠い。

mom ①流れる。第II類動詞 ① pet-kata-tepa-mom-an. 川に禪が流れていた。②浮く。pet-kata-ni-mom-an-na. 川に木が浮いていた。③漂う。inkar-an-ike-kemto-otta-mom-an-na. 見ると私は血の沼に漂っていたのでした。

momare < mom(流れる) an(ある) re(使役化語尾)流れをあらしむ。⇨並べる。第I類動詞 usa-sarampe-an-momare-an. いろいろな絹の生地を並べています。

momka < mom(流れる) ka(他動詞化語尾)流す。第I類動詞 okamukino-an-tebana-pet-oromo-an-momka-na. 故意に禪を川に流したのです。

mommom < mom(流れる) mom(流れる)流れ流れる。第II類動詞 "Kush-ta-mommom-kahpuchika, kush-ta-ren-ren-kahpuchika" sekor-rek-ash-kane-an. 「向こう岸が流れ流れカープチカ、向こう岸が沈む沈むカープチカ」と私は鳴いていた。カープチカ: okimunbe(津波)を暗示した警告の鳥の啼き声(大塚一美氏談)。

momte < mom(流れる) te(他動詞化語尾)流す。第I類動詞 wakka-an-i-momte-an. 私は水に流された。(原義: みんなが水に私を流す)。第II類動詞用法: wakka-momte-ash-an. 同上

monakan < mo(静けさ) nak(無) an(である)静けさがない状態にある。目が覚めている。第II類動詞

monraike < mon(手首から先) raike(殺す)仕事をす

る。働く。第Ⅱ類動詞 monraike-an-kusu-tane-hoshikino-ku-hoshibi-ne. 仕事がありますのでお先に失礼します。

more < mo (静かな) re (他動詞化語尾) 静かにする。an-shiushpe, tane-e-hawe-more. 我が赤子よ、もう汝の声を静にせよ。泣き止みなさい。

mosh < mo (静けさ) shi (大きい) 目が覚める。目が覚めている。第Ⅱ類動詞 mosan < moshi-an. 私は目が覚めている。Nea-kamui-ne-an-kur-tanepo-mosh-pokonno-shikihi-nuyanuya-kor-an. その神のようなお方は今起きたように目をこすっていました。

moshima < mo (静けさ) shi (大きい) ma (動詞化語尾) 黙る。静かにしている。第Ⅱ類動詞 moshima-an. 私は黙っている。

moshimanoan < moshima (呂) no (副詞化語尾) an (いる) 黙っている。第Ⅱ類動詞 nea-seta-mik-ka-somokino-moshimanoan-a-an. その犬は吠えもせず黙って座っていた。moshimanoan! 静かに。

moshinnnean < moshir (大地、山) ne (ように) an (ある、なる) 山のようになる。第Ⅱ類動詞 e-ka-toi-kush-wa-moshinnne-e-an-nankoro. おまえの上に土が被さっておまえは山のようになるであろう。

moshiroppa < moshir (大地を) hoppa (後にする) 死ぬ。第Ⅱ類動詞 moshiroppa-a-an-yakne, chiutari-totekno-okai-ya. 私が死んでも皆元気で暮らしなさいよ。

moso < mosh (呂) o (他動詞化語尾) 日を覚まさせる。起こす。第Ⅰ類動詞 nisatta-nen-nakka-pirika-kusu-imoso. 明日の朝誰でもいいですから私を起こして下さい。

mososhpa < mososo (呂) pa (目的物複数) 一人ならず二人以上の人を起こす。

mososo < mo (静けさを) soso (剥ぎとる) 寝ている人を振り動かして目を覚まさせる。第Ⅰ類動詞

mu¹ 塞ぐ。第Ⅰ類動詞 合成語の中に現れる。umure < u (互いに) mu (『陰部を』塞ぐ) re (使役化語尾) 陰部を互いに塞ぎ合う。⇒結婚する。umurekur 夫婦

mu² 木に登る。第Ⅱ類動詞 Shipashnu-chikubeni-mu-a-an. スラッとしたエンジュの木に登った。

muk 詰まる。主格三人称動詞 etu-muk. 鼻が詰まる。

mukkamama < muk (胸が) kama (被さる) kama (被さる) 動物が腹這いになる。第Ⅱ類動詞 mukkamama-an-kor-an-humbe-rika-an-e-kor-an. 腹這いになりながら私(狼)は鯨の脂肪を食べていた。

munsapte (muysapte) < (mun『埃、塵』) sapte

(sanke『出す』の目的物複数形)塵やゴミをたくさん出す。⇒掃除をする。第Ⅱ類動詞 nea-pon-menoko-munsapte-wa-usa-ki-humi-ash. その娘が掃除などをしている様子が伺える。

muneshichiw < mun (草) e (そこで) shir (地に) chiw (刺さる) 草につまずいて転ぶ。第Ⅱ類動詞 an-kor-ekatchi-hoyup-ine-muneshichiw-a-an. 子供は走っているうちに草につまずいて転んだ。

munin < mun (枯れ草) nin (消える) 悪くなる。朽ちる。主格三人称動詞 sesekk-itaaep-henbanomun-in. 署いときには食べ物が速く悪くなる。hoshiki-rapappse-susu-ham-muni-wa-okere. 先に落ちた柳の葉は朽ちてしまった。

munkopoye < mun (草叢) ko (に) moye (混ぜる) 草叢の中に紛らせておく。草叢の中に隠す。第Ⅰ類動詞 an-poho-an-munkopoye-an. 子供を草叢の中に隠しました。

mut 帯びる。第Ⅰ類動詞 mutpe < mut (帯びる) pe (もの) 佩刀。emushi-an-mut-kor-oman-an. 刀を帯びて出かける。

muye < mui (束) e (動詞化語尾) 束ねる。帯を縮める (= kut-kor)。第Ⅰ類動詞 iwan-kosonde-an-uko-muye. 六枚の小袖を私は帯で締める。

muysapte ⇌ munsapte

N

na 拾う。第Ⅰ類動詞 kim-ta-oman-an-wa-satni-an-na. 山へ行って乾いた木を拾う。

nantuyere < nan (顔) tuye (落とす) re (使役化語尾) 顔を落としむ。じっと見る。第Ⅱ類動詞 ano-na-i-nantuyere-wa-haw-ene-anihi. 父は私をじっと見てこのように言いました。

naipa < naye (呂) pa (①目的物複数化語尾②尊敬) 第Ⅰ類動詞 ①一条ならず二条以上の筋を引く。anante-hoku-apeoi-ta-usat-naipa-kane-an. 夫は炉の灰にいくつもの筋を引いていた。②筋を引かれる。Nea-chise-kor-nishpa-ya-oo-usat-naipa-kor-an. 家の主は手前の灰に筋を引かれておりました。

naye 条を引く。第Ⅰ類動詞

ne ~である。第Ⅱ類動詞 Kanto-kor-kamui-ne-an. 私は天の神(雷神)である。

nere < ne (呂) re (使役化語尾) ならしむ。~とする。第Ⅰ類動詞 nea-onne-chip-chi-kamui-nere-wa-onkami-an. その古い船を神にして拝んだ。

ni (汁等を) 吸う。第Ⅰ類動詞 ruru-an-ni. 汁を

吸う。

niko 疊む。第Ⅰ類動詞 An-mip-an-niko. 着物を畳む。

nikokar < niko (疊むこと) kar (為す) 疊む。第Ⅱ類動詞 Otasam-un-kur-an-kor-raunkut-pitataine-irammakaka-nikokar-wa-upsoro-omare-an. オタサム人は私の下帯を解いてきちんと畳んで機に入れました。

nimpa < nini (曳く) pa (①主格三人称複数②目的物複数③尊敬) ① a-yubi-utari-humbe-nimpa-kor-okai-an. 見達は鯨を曳いていた。② an-kotan-un-utar-humbe-nimpa-kor-okai-an. 村人達は鯨を一頭ならず曳いていた。③ kamui-ne-an-kur-nep-an-be-nimpa-an. 神様のような方が何かをお曳きになられた。

nin ① 消える。② 引く。③ 落ける。④ 欠ける。⑤ 減る。第Ⅱ類動詞 tane-upashi-nin. もう雪が消える。② wakka-nin-a-kusu-wakka-an-ku-eai kap-an. 水が引いてしまったので水を飲むことができない。(沼貝の言葉) ③ ninke < nin (落ける) ke (ところ)。

胆囊① chup-nin. 月が欠ける。nin-chup. 下弦の月。⑤ pet-oro-wakka-nin. 川の水が減る。

nina < ni (薪) na (拾う) 薪を探る。第Ⅱ類動詞 mat-ne-an-kusu-nina-ash-kor-an. 女ですので薪採りをしています。

nini 曜く。第Ⅰ類動詞 poro-kamui-rekuchi-tush-kote-wa-an-nini-an-an. 大きな熊の首に網を付けて私は曳いたのでした。

ninire < nini (旨) re (使役化語尾) 曜かせる。seta-chip-an-ninire-wa-shinot-kor-an. 犬に船を曳かせて遊ぶ。

ninu 術け縫いをする。(縫い目が表面に現れないように縫う) 第Ⅰ類動詞

nise < ni (『擬声語』か?) se (動詞化語尾) 掏う。第Ⅰ類動詞 atui-wakka-an-nise-wa-yata-an-ama. 海水を掬い陸に置いた。

nishike¹ < ni (薪) shike (荷を運ぶ) 薪を運ぶ。第Ⅱ類動詞 anonu-tunne-okimun-nishike-kor-oka-an. 母と二人で山から薪を運んでいます。

nishike² 手招きをする。誘う。第Ⅰ類動詞 an-kor-achabo-uimam-ekota-i-nishike-an. 叔父は私をウイマムに誘った。

nishomap 案する。心配する。第Ⅰ類動詞 an-kor-ekatchi-hoshibi-somoki-kusu-chi-e-nishomap-kor-an. 私の子供が帰ってこないので心配しています。

nishteka < nishte (固い) ka (動詞化語尾) 固くする。

第Ⅰ類動詞 atui-an-nishteka-wa-neita-an-kush-ine-ankotanta-hoshibi-an-na. 海を固くしてそこを通って村に帰りました。

nisuk 頼む。第Ⅰ類動詞 hawashimu-kakkoku-kanto-kor-kamui-ne-anonaha-anokai-kanto-otta-hoshibi-kuni-nisuk-an. 声がよく通る力コウに天の神である我が父は私が天に戻るよう頼んだのです。

niukokse < ni (歯) uko (互いに) uk (取る) se (発声する) 歯ぎしりする。第Ⅱ類動詞 Samaikur-niukokse-kor-hawe-ene-anihi サマイクルが歯ぎしり言うことには。

niwen < ni (歯) een (鋭い) 獣などが歯を剥き出して吠える。威嚇する。第Ⅱ類動詞 an-kor-seta-utar-kamui-ko-niwen-kor-an. 私の大たちは熊に向かって歯を剥き出して吠えていた。

nokapa < noka (姿、形) pa (見つける) 姿を見つける。第Ⅱ類動詞 an-machi-nokapa-an. 妻の姿を見つけた。第Ⅰ類動詞用法: an-machi-noka-an-pa. 同上。

noikosampa < noi (捩れる) kosampa (kosanuの主格複数形) 体が捩れるようにして倒れる。第Ⅱ類動詞 a-yubi-utari-ekushukono-noikosampa-an. 兄たちは突然体が捩れるようにして倒れたのでした。

noikosanu < noi (捩れる) kosanu (主格複数一回態語尾) 体が捩れるようにして倒れる。第Ⅱ類動詞 a-nona-inukara-wa, "An-kor-shishipe-na" sekor-itak-kor-sumkina-ine-noikosanu. 母は私を見て「私の赤ちゃんね。」と言いながら萎える草のようになり体が捩れるようにして倒れたのでした。

noiporoikush < noipe (脳髄) oro (その中に) o (入っている) i (それが) kush (通る) こめかみがずきんと痛む。第Ⅱ類動詞 何かが起こる前兆を示す。(故松井マデアル談)

nomi 祈る。第Ⅰ類動詞 shi-pase-kamui-inaw-an-kara-wa-an-nomi-an. 重き神にイナウを作って祈りを捧げます。chinomishir < chi (我ら) nomi (祈る) shir (山)

nomikar < nomi (祈る) kar (する) 祈る。第Ⅱ類動詞 ratashikep-ani-nomikar-an. 山菜を神に捧げて祈る。inaw-ne-wa-shito-ne-wa-tonoto-ne-wa-chi-e-nomikar. イナウやら、桑やら、酒で神に祈りを捧げる。

nonchikka < non (よだれを) chik (『滴り落ちる』の擬声語) ka (他動詞化語尾) よだれを垂らす。第Ⅱ類動詞 anaki-nonchikka-kane-isam-ta-ek-na. 弟がよだれを垂らしながら私の側に来た。

nonkar < no (強勢許) nukar (見る) よく見る。見舞う。安否を心配して訪ねる。第 I 類動詞 armoy-samta-an-kotan-ta-an-a-yubi-an-nonkar-an. 山を越えた入り江のところの村に住んでいる兄を見舞った。

noshpa 追い掛けける。追跡する。第 I 類動詞 a-yubi-an-toiko-noshipa-an-na. 私は兄を猛然と追い掛けた。

noshpakar < noshpakar (追跡) kar (作る) 追い掛けける。第 II 類動詞 a-yubi-noshpakar-an. 兄を私は追い掛けた。

noshpare < noshpakar (追跡) re (使役化語尾) 追い掛けさせる。第 I 類動詞 okamkino-a-e-i-noshpare-an-na. 故意に私はお前に追い掛けさせた。

noye¹ < noi (振れる) e (他動詞化語尾) 振る。第 I 類動詞 chinoyetatni<chi (我ら) noye (振る) tat-ni (白樺の樹皮) 瞬明。白樺の樹皮を燃って棒に付けその先端に火を灯して炉に立てた。

noye² 死す。合成語の中に現れる。 chepenoye < chep (食べ物) e (それで) noye (死す)。餓死する。心配するあまり食事ができなくなり死んでしまう。 e-on-a-ka-e-unu-ka-tane-chepenoye-kor-an-kusu-henbano-e-hoshibi-yakne-pirika. おまえのお父さんもお母さんも餓死してしまうところだから早く帰るがよい。

nu¹ 聞く。第 I 類動詞 itak-an-chiki-nu-wa-ikore. 私の言うことを聞いて下さい。 a-iep-e-nu-nankonna. 私の言うことを聞くがよい。

nu² 嗅ぐ。第 I 類動詞 chikoikip-kui-hura-an-nuine-wenekot-an. 動物の小便の臭いを嗅いでいるうちにそんな無様な死に方をしてしまった。

nu³ 持つ。合成語の中に現れる。 poppenu < poppe (汗を) nu (持つ)。汗をかく。 kemnu < kem (血) nu (持つ) 出血する。地名に現れる。 huranui < hura (臭みを) nu (持つ) i (処) 富良野

nuewen < nu (聞くこと) e (それ) wen (悪い) 聞こえなくなる。気を失う。第 II 類動詞 kamui-menoko-kenash-ekota-ieyapkir-an-kusu-nuewen-a-an. 女神が木原の方へ私を投げ捨てた気を失ってしまった。

nuiotke < nui (炎) e (そこに) otke (突き刺す) 火を放つ。第 I 類動詞 saraki-toi-pa-an-nuiotke-an. ヨシ原の上手に私は火を放った。

nuikar < nui (彫刻する、きちんとした形にする) kar (代動詞、作る) (髪などを) 梢く、解かす。第 I 類動詞

nuina 隠す。第 I 類動詞 an-kor-shishipe-mun-tum-ta-an-nuina-an. 子供を草むらに隠した。

nuinak 隠れる。第 II 類動詞 sakma-yaikar-ine-sut-oshke-ta-nuinak-an. 横木になって壁の中に私は隠れた。

nuipa < nuye (彫刻する) pa (①目的物複数②尊敬③主格三人称複数) ①一つならず沢山彫刻する。第 I 類動詞 anona-ita-ka-nuipa-an. 父は盆に沢山彫刻をしていた。②彫刻をされている。 Ne-kur-ita-ka-nuipa-an. その方は盆に彫刻をされていました。③あの方たちが彫刻をしている。 ne-utari-nep-nakka-kata-nuipa-an. あの方々はどんな物の上にも彫刻をする。

nuipapa < nuye (彫刻する) pa (目的物複数) pa (尊敬) 沢山彫刻される。第 I 類動詞 Kesh-to-an-kor-nea-kamui-emushka-nuipa-kor-oka-an. 毎日その神様は宝刀の鞘に沢山彫刻をされていました。

nukar < nu (目を) kar (作る) 見る。第 II 類動詞 an-chise-orowa-atui-nukar-a-an. 家の中から海を私は見る。

nukare < nukar (目) re (使役化語尾) ①見せる。 kakokku-sapo-shiko-an-chise-i-nukare-an. カッコーのお姉さんが私が生まれた家を見せた。②会わせる。 anona-an-kewsut-i-nukare-an. 父は叔父に私を会わせた。③紹介する。 anona-kotan-kor-nishpa-i-nukare-an. 父は村長に私を紹介した。

nukartek < nukar (目) tek (軽微対語尾) ちょっと見る。ちらっと見る。第 I 類動詞 chise-orowa-pon-menoko-ashin-ine-i-nukartek-chise-ta-ahun-an. 家の中から娘が出てきて私をちらっと見て家の中に入った。

numaush < numa (体毛) ush (たくさんある) 毛深い。第 II 類動詞

numke 選ぶ。第 I 類動詞 pirika-menoko-e-numke-wa-e-kor-nankoro. いい娘さんを選んで結婚しなさい。

numnum < num (チュウ) num (チュウする) おしゃぶりをする。第 I 類動詞 an-kor-ponpe-an-tekekotoro-numnum-na. 私の子供は私の掌をしゃぶるのです。cf. u-paro-numnum. 互いに口をチュウチュウ吸い合う。キスをする。

nun しゃぶる。第 I 類動詞 shishipe-tokap-nun. 赤ん坊は乳房をしゃぶる。

nunte < nun (目) te (使役化語尾) しゃぶらせる。第 I 類動詞 an-kor-shishipe-to-nunte-kor-an. 赤ん坊に乳をしゃぶらせています。

nupa < nu (聞く) pa (①目的物複数②尊敬③主格三人称複数) ①ひとつならずたくさんのこと聞く。 Kesh

-to-an-kor-tuitak-an-nupa-kor-an. 每日た
くさんのトゥイタックを聞いています。②お聞きにな
る。tan-huchi-tuitak-nupa-kor-an. あのおば
あさんはトゥイタックをお聞きになっている。③あの方々が聞
いています。nishpa-utar-ka-katkemat-
utar-ka-an-machi-rek-yukar-nupa-kor-an.
紳士、淑女たちは私の妻の吟ずるユーカルを聞いてい
ました。

nupare < nu(聞く) pa(主格三人称複数・目的物複
数) re(使役化語尾)多くの方々がたくさん聞かせる。

Huchi-utar-ainu-itak-i-nupare-an-na. おば
あさんたちがアイヌ語をたくさん私に聞かせた。

nuparepa < nupare(尊) pa(尊敬)多くの方々がたく
さん聞かせて下さる。Tosa-huchi-ne-wa-Shimo
-huchi-ne-wa-usa-okai-ainu-utari-ainu-
itak-i-nuparepa-an-na. Sonno-iyairakere! ト
サおばあさん、シモおばあさんを初めその他のアイヌ
の方々が私にアイヌ語をたくさん聞かせて下さいま
した。本当にありがとうございます。

nupur 巫術をする。第Ⅱ類動詞 nupur-an-wa-
wen-kamiashi-orowa-kira-an. 巫術をして魔神
から私は逃れた。

nupurieikotuntek < nupuri(山)e(そこで)i(それ
山に向かって発する声)ko(～と共に)tun(響く)tek
(しばらく～する)やまびこがする。こだまする。主格
三人称動詞 an-hawe-nupurieikotuntek. 私の声が
こだまする。(知里真志保著:地名アイヌ語小辞典。
平凡社。参考)

nure < nu(聞く) re(使役化語尾)聞かせる。Huchi,
tuitak-en-nure. おばあさん、トゥイタックを聞か
せて下さい。

nurepa < nure(尊) pa(①目的物複数②尊敬)①主格
三人称複数以外の人かたくさん聞かす。an-kor-
huchi-tuitak-i-nurepa-an. 祖母がトゥイタック
を私にたくさん聞かせた。②聞かせて下さる。ekor-
huchi-tuitak-i-nurepa. あなたのおばあさんがト
ゥイタックを私に聞かせて下さった。

nurepapa < nure(尊) pa(目的物複数) pa(尊敬)た
くさん聞かせて下さる。Teeta-e-unu-tuitak-i-
nurepapa. その昔あなたの母さんがトゥイタックを
私にたくさん聞かせてくれたのです。

nuwap 分娩の際に呻吟する。第Ⅱ類動詞 shine-
an-ta-nuwap-an-ine-pokor-an. あるとき呻吟
がして子供が生まれました。

nuyanuya <(擬態語)擦る。第Ⅰ類動詞 ai-shiki-
-nepka-oshima-kusu-an-shiki-an-nuyanuya-
-kane-an. 私の目に何かが入ったので目を擦ってい

ました。

nuye ①彫る。紋様を描く。②書く。第Ⅰ類動詞 Kesh-
to-an-kor-shirka-nuye-emushka-nuye-an-
kor-oka-an. 每日刀の鞘に紋様を描いています。
男神々の展開での様子を示す常套句。shirka-nuye,
emushka-nuyeは第Ⅱ類動詞。②kambi-an-nuye-
kor-an. 手紙を書いています。

O

o¹ 乗る。第Ⅰ類動詞 chip-a-o-wa-uimam-
an. 船に乗ってウイマム(交易)に行く。umma-o-wa-
moshirpa-oman-an. 馬に乗って大地の先へ行く。

o² ①成る。②ある。③たくさんある。(地名のみに
現れる) 主格三人称動詞 ①hat-ikiri-nika-o-
nannkoro. たくさん葡萄の実が木に成るであろう。
②kusuriopoisu<kusuri(薬)o(ある)pon(小さい)su
(鍋)薬草の入っている小さい鍋。ruonai<ru(道)o(あ
る)nai(沢)③kuonai<ku(仕掛け弓)o(たくさんある)
nai(沢)牛朱別川筋の地名

o³ 入れる。第Ⅰ類動詞 su-oro-wakka-an-o.
鍋の中に水を入れる。

oaishitchiw < oar(強勢接辞) shir(床) chiw(刺す)
どっかりと腰を下ろす。第Ⅱ類動詞 shine-'okai-
rotta-oaishitchiw-an. ある男が横座にどっかりと腰
を下ろした。

ochupposore < o(そこから) chup(腹、子宮) poso
(通り抜ける) re(使役化語尾)腹を通り抜けさせる。流
産する。第Ⅰ類動詞 Inunukashike, an-matnepo-
ochupposore-an-na. 可哀想に娘は流産してしま
た。

oha 空である。主格三人称動詞 an-kor-hanbe-
-ka-totto-ka-aship-an-kusu-an-chise-oha-
-shir-ne. 父も母も出かけてしまったので家は空で
ある。

ohare < oha(空) re(使役化語尾)空にする。第Ⅰ類
動詞 Tuki-shikkane-an-tonoto-an-ohare-
an. 杯一杯の酒を私は空けました。

ohashirepunkine < oha(空) shir(状態)e(そこで)
punkyo(奉行)ne(になる)留守番をする。第Ⅱ類動詞
hanbe-ka-totto-ka-aship-an-kusu-neno-
ohashirepunkine-kor-an-na. 父も母も出かけたの
でこのように留守番をしています。

ohetke こぼれ落ちる。第Ⅱ類動詞 chep-oma-
ya-paro-pitata-ike-chep-poronno-ohetke-
an. 魚が入っている網の口を開けたら魚がたくさんこ
ぼれ落ちた。

oika < o(そこから) ika(越える)そこを越えていく。

第Ⅰ類動詞 anona-iye-neno-ne-shir-an-oika.

父の言うとおりその山を越えた。第Ⅱ類動詞用法

anona-iye-neno-ne-shir-oika-an. 同上。

okiiki < o(そこで)i(それを)ki(為す)i(それを)ki(為す)何がごそごそしている。a-yubi-so-sutta-okiiki-i-ne-nep-an-be-sanke-ine-ikotatara-an. 兄は壁のところでごそごそしていて何かを取り出し私に渡しました。

oikush < o(そこから)i(それが)kush(通る)漏る。雨漏がする。an-chise-oikush. 私の家は雨漏りがする。

oikushi < o(そこで)i(それを)ki(する)ushi(付ける)用意する。oikiは第Ⅱ類動詞であるから名詞としても使われるので、これをushiの目的語と考えれば第Ⅱ類動詞になるが、杉村キナラブック姫は第Ⅰ類動詞として使っている。第Ⅰ類動詞用例 shi-pase-kamui, inaw-nechiki, tonoto-nechiki, shito-nechiki, an-e-oikushi-kushi-ne. 重き神よ、イナウやら酒やら粢を我ら汝に用意する所存である。第Ⅱ類動詞用例 shi-pase-kamui, inaw-nechiki, tonoto-nechiki, shito-nechiki, e-oikuchi-an-kushi-ne. 同上。

oina 古くは巫術によって恍惚の状態となり、神々にまつわるいろいろなお話をその神の鳴き声や擬態語を一定の節を伴って語り伝える。神謡を伝承する。oina-kur. 神謡伝承者

oira 忘れる。第Ⅰ類動詞 Eshin-ku-eraman-ainu-itak-sui-ku-oira-na. さっき覚えたアイヌ語をまた忘れた。

oirare < oira(𠙴)re(使役化語尾)忘れさす。an-kamui-hoku-an-ramu-oirare-aeaikap. 神なる夫を我が心に忘れさすことができないでいる。

ok 憂悶している。元気がない。tokap-rachichi-kana-an-seta-ok-neno-a-kana-an. (子犬に乳をあげたため)乳房をぶらぶらさせている犬が元気なく座っていた。

oka < an(いる、ある)の①主格複数形②尊敬。第Ⅱ類動詞 ① oka-an. 我等いる。eshi-oka. 汝等いる。oka. 彼等いる。②居られる。いらっしゃる。chacha-kamui-kamui-nomi-kor-oka-an. 猿神は神へ祈りを捧げていらっしゃいました。

okai < an(存在する、住んでいる、暮らしている)の主格複数形 ai-sa-suke-an-chep-okai-an. 姉が料理した魚がたくさんあった。tan-kotan-ta-okai-utar. その村に住んでいる人々。

okampa ホ hokampa(やかましい)

okari < o(そこを)kari(廻る)そこを廻る。第Ⅱ類動

詞 ainu-kotan-enka-okari-an. 人間の郷の上を私は廻る。

okaatte < hoka(炉の中の炎)an(ある)te(使役化語尾)炉に掛けた。第Ⅰ類動詞 aisa-poro-su-okaatte-an. 姉は大きな鍋を炉に掛けた。

okewe < o(そこへ)kewe(骨となる)魔神を殺しその骨をその住み処へと追いやる。⇒追いやる。第Ⅰ類動詞 an-chise-ta-hoshibi-an-ike-aisa-i-oke-we-an. 家へ帰ると姉が私を追いやるのです。

okewpa < okewe(𠙴)pa(①主格三人称複数②目的物複数)① a-yubi-ka-ai-sa-ka-i-oke-wpa-a-an. 兄も姉も私を追い払うのでした。② nea-wen-kamiashi-nen-nakka-ariki-anbe-oke-wpa-an. その魔神は誰がやって来ても追い払うのでした。

okoykoeshkari < o(陰茎が)kuy(尿)ko(それと共に)e(そこで)shikari(塞ぐ)尿閉する。小便つまりを起こす。第Ⅱ類動詞 okoyma-rusui-an-korka-oko-ykoeshkari-na. 小便がしたいのですが小便がつまるのです。

okoyma < o(陰部)kuy(尿)ma(動詞化語尾)小便をする。第Ⅱ類動詞 totto, okoyma-rusui-an-y-a! お母さん、オシッコ。

okushsh < o(そこで)kush(被る)kush(被る)裏返る。ひっくり返る。第Ⅱ類動詞 Samaikur-o-chip-oku-shkush-an. サマイクルの乗った船がひっくり返った。

okushte < okush(𠙴)te(他動詞化語尾)裏返す。ひっくり返す。第Ⅰ類動詞 okikurumi-o-chip-an-ok-ushte-an. オキクルミの乗っていた船を私はひっくり返した。

oksutu-tapsutu-uko-yupypuk < ok(首)sutu(sut『先』の人称形)tap(肩)sutu(同上)u(相互)ko(共に)yup(『締まる』の擬態語)yup(同)ke(動詞化語尾)衿首と肩先がひくひく動く。痙攣する。第Ⅱ類動詞 何かが起こる予兆を示す。(参考: 知里真志保著 分類アイヌ語辞典人間編 p148平凡社)

oma ①入る。②入っていく。③縫い出す。第Ⅱ類動詞 ① kani-awanki-kotoro-ape-noka-oma-a-an. 金の扇の面に炎の模様が入っていた。shirokani-pisaku-oma-wakka. 銀の柄約が入っている水。② Teshyaomanai < tesh(薬櫃)ya(岸)oma(入っていく)nai(沢)地名: 手塩 shikari-chup-noka-oma-kosonde. 満月の象を縫いだしている小袖。

oman 行く。第Ⅱ類動詞主格单数形 oman-an. 我行く。e-oman. 彼(彼女)行く。kim-ta-e-oman. 山へあなたは行く。

omante < oman(𠙴)te(他動詞化語尾)行かされる。

第Ⅰ類動詞 An-takar-i-omante-wa-pet-tura-sh-oaman-an. 私は夢に送られて(夢を見せられて)上流に向かって川沿いに歩いていました。

omap 愛する。可愛がる。第Ⅰ類動詞 a-e-omap. 俺はおまえが好きだ。

omare < oma (入る) re (使役化語尾)入れる。第Ⅰ類動詞 kamui-shinta-oran-an-omare-an. 神の空飛ぶ福りかごに私は入れられた。su-oshike-wakka-an-omare. 鍋の中に水を入れる。

omaru < 語源不詳(足などを)挫く。第Ⅰ類動詞 hatchiri-an-wa-ku-chikiri-omeru-an. 転んで足を挫いた。

omke < om (擬声語) ke (動詞化語尾)ゴホンと咳をする。第Ⅱ類動詞 shine-onne-chacha-omke-kor-ahun-an. 一人の老人が咳をしながら入って來た。

omkekaran < omke (咳を) kar (作る)風邪に罹る。第Ⅱ類動詞 tanto-mean-kusu-omkekara-somo-kino-an-ya. 今日は寒いので風邪などを召せぬよう。

omukken 語源不詳。獲物を捕らえることができない。第Ⅱ類動詞 kimun-an-kusu-kimta-paye-an-koroka-nep-ka-omukken-kane-hoshibi-a-an. 山へ狩り出かけたのですが何の獲物を捕らえることができないまま帰りました。

on 自然発酵する。主格三人称動詞 on-torep. 自然発酵したウバ百合。

onka < on (自然) ka (他動詞化語尾)自然発酵させる。主格三人称動詞 shichihi-an-onka-wa-on-torep-an-kara. 濕粉の絞りしぶり粕(shichihi)を自然発酵させて貯蔵用のウバユリを作る。Ionkaushipet <i(それ:乳母百合の澱粉) onka (自然発酵) ushi (しているところの) pet (川)オサラッペ川筋のヨンカッシュペ川。

onkami < 邦語『拝む』か? ①拝む。②礼を言う。第Ⅱ類動詞 ①nea-ainu-eka'tchi-tu-pase-ash-ke-re-pase-ashke-e-puni-kane-i-ko-onkami-an. その人間の子供は二度重き手を三度重き手を上げながら私を拝むのでした。②ne-an-be-an-uk-ine-onkami-an-ine-asin-an. それを受け取り礼を言って家を出ました。

onne < on (自然発酵⇒風化) ne (である) ①老死する。②老いる。③齢多い。第Ⅱ類動詞 anona-ka-anonu-ka-tane-onne-an. 父も母も今では年老いて亡くなった。②Tane-kuani-ka-neno-onne-an. 今では私もこのように年老いた。③anokai-e-'akari-onne-na. 私はあなたより齢が多い。onne-

huchi. 齢が多い老婆。まわりの老婆よりも多い。onne-nai. まわりの沢と比較して古い沢。地名。

opa < o (乗る) pa (①主格三人称複数②尊敬) ①a-yubi-utari-chip-opa-wa-uimam-an. 兄達は船に乗って交易に出掛けた。②kamui-ne-an-kur-shinta-opa-wa-an-kotan-ta-ariki-an. 神様のようなお方が飛行船に乗られて我が村へやって来られた。

opanne < o (着物の裾) par (擬声語) ne (である) ka (他動詞化語尾) 帯を締めることなく着物の裾がパラバタ広がるように着る。第Ⅰ類動詞 iwan-kosonde-an-panne-an. 六枚の小袖を帯を締めることなく裾がパタパタと広がるように羽織った。

opatachi < o (尻) patat (patpatの擬声語) se (発声する) 下痢をする。第Ⅱ類動詞 kunnano-wano-honi-araka-wa-opatachi-an. 朝から腹が痛く下痢をしている。

opke < o (臀部が) put (擬声語) ke (擬声語に後置する動詞化語尾) おならをする。第Ⅱ類動詞 Nen-opke-ya? おならをしたのは誰だ。

opechinanoa < o (尻) pe (上) chin (足) no (様に) a (座る) しゃがむ。第Ⅱ類動詞 ekattara-opechinanoa-kor-nep-ka-ki-na. 子供たちはしゃがみながらにかしている。

oposore < o (そこから) poso (通る) re (使役化語尾) 漏す。第Ⅰ類動詞 turep-pirikano-hurai-wa-nisu-oshike-omare-wa-iuta-orowa-saranip-omare-wa-ika-wakka-omare-wa-oposore-yakne-irup-ren. ウバユリの鱗茎をよく洗って臼に入れて搗き、小出しに入れ上から水を注ぎ漏すと澱粉が沈殿する。

opumpa □ hopumpa

opuni □ hopuni

oputuipa < oputuye (口) pa (①目的物複数②尊敬) ①repun-kamui-humbe-eyashi-oputuipa. シャチ神は鯨を一頭ならず多数浜に押し遣った。②repun-kamui-humbe-eyashi-oputuipa. シャチ神は鯨を浜に押し遣って下された。

oputuye 押し遣る。押し出す。humbe-eyashi-an-oputuye. 鯨を浜に私は押し遣った。an-kor-chip-erepashi-an-oputuye. 自分の船を沖へ押し出した。

orai < o (陰部、男根) rai (死んでいる)勃起しない。第Ⅱ類動詞 nen-nakka-onne-an-yakne-orai-nankoro. 誰でも年を取ったら勃起しなくなるであろう。

oren < o (~に対して) ren (食い込む) ~に食い込む。

第Ⅱ類動詞 nen-kamtumu-oren-an. 神の娘がくれた下帯は私の肉の中に食い込んだ。

oreraparu < o(～に対して) rera(風) paru(扇ぐ)風になびかせる。第Ⅱ類動詞 nea-kamui-menoko-saranbe-koconde-oreraparu-kane-kanto-ororikin-an. その神女は網の小袖を風になびかせながら天へ昇った。

orikhoriko < horik(上) horik(上)o(生じる)上がる。上る。第Ⅱ類動詞 rorun-puyar-otpe-orikhoriko-kane-an. 神窓の鎧戸が上がり上がりしていた。

oripak 礼儀正しくする。第Ⅱ類動詞 oripak-an-kane-a-wa-an. 礼儀正しくして座っていた。

oripiripi ハ horipiripi

oropsekar < or(内) o(入っている)p(物) se(音) kar(作る)熱いものをフーフー言いながら食べる(啜る)。第Ⅱ類動詞 sayo-oropsekar-an. 粥をフーフー言いながら食べる。

osar < o(陰部が) sar(出ている)陰部が露出している。第Ⅱ類動詞 inukar-anaike-nea-menoko-osar-an. 見るとその娘の陰部が露出していました。

osara < o(陰部を) sara(出す)陰部を露出する。第Ⅱ類動詞 na-pewre-kana-an-menoko-osara-kor-a-an. まだ若い娘が陰部を露出させながら座っていた。

oshibi ハ hoshihi

oshikir ハ hoshikir

oshinkar < osh(後を) inkar(見る)見送る。第Ⅱ類動詞 a-onaha-newa-a-uhuhu-oshinkar-an. 私は父と母を見送る。

oshippa ハ hoshippa

oshikkote < osh(心の中に) kote(付ける)惚れる。第Ⅰ類動詞 Koshinpui-tono-i-oshikkote-na. 海の妖精の首領が私に惚れたのです。

oshirok < o(尻を) shir(地面が) ok(塞ぐ)尻を地面が塞ぐ。体が地面に引っかかって動けなくなる。第Ⅱ類動詞 Susu-tai-choropok-ta-oshirok-an-wa-apakash-ka-eaikap-an-na. 柳の林の下で体が地面に引っかかって歩くこともできないでいる。

oshirush < o(尻が) shir(地面が) us(付いている)尻で体を移動させる。聾る。第Ⅱ類動詞 an-kor-achobo-shikoita-wano-oshirush-na. 私の叔父は生まれたときから聾っているのです。

oshkoni! < osh(心の中) koni(痛む)悲しむ。第Ⅱ類動詞 an-poho-isama-orowano-ibe-ka-somokino-oshkoni-patek-an. 子供がいなくなつてから食事もすることなく悲しんではかりいます。

oshkoni² < osh(尻、後) ko(それに向かって) ni(噛む、啜る)原義は動物が動物に追い付く様を表現していると推定。(①追い付く。第Ⅰ類動詞 kim-ta-ayubi-an-oshkoni-an. 山で兄に追い付いた。②(現代語用法として)間に合う。 kisha-ku-oshkoni-kuni-ku-hoyup. 汽車に間に合うように走った。

oshkonipa < oshkoni(旨) pa(目的物複数化語尾) kim-ta-a-yubi-utari-an-oshikonipa-an. 山で兄たちに追い付いた。

oshkor < osh(①心の中で惜しく思うこと②心の中で悲しく思うこと) kor(持つ)①惜しく思う。第Ⅱ類動詞 an-kor-humbe-rika-oshkor-an-kusunen-nakka-an-kore-somoki. 自分の鯨の脂肪が惜しく思ったので誰にも上げなかった。②悲しく思う。第Ⅱ類動詞 an-kor-ekachi-isam-orowano-oshkor-an-kor-ibe-kaeaikap-an. 子供がいなくなつてから悲しくなり食事もできないでいる。

oshkuira < osh(後) kuira(こっそり行く)こっそり後をつける。第Ⅱ類動詞 ai-sa-oshikuira-a-an. 姉の後をこっそりつけた。

oshma < osh(中) ma(動詞化語尾)入る。第Ⅱ類動詞 nenka-an-chise-ta-oshma-an. 誰かが私の家に入った。 yupke-rera-atui-pen-rur-oshma-wa-oman-an. 激しい風が海の平の潮(海面)の中に入つて行った。

osoma < o(尻) so(糞?) ma(動詞化語尾)大便をする。第Ⅱ類動詞 chikap-ika-ine-osoma-an. 鳥が私の上に糞をした。

osomakoyaikush < osoma(大便する) koyaikush(出来兼ねる)まだ大便がしたいのだけれどもこれ以上できない。第Ⅱ類動詞

osomapa < osoma(旨) pa(①主格複数形②目的物複数形)第Ⅱ類動詞 ①chikoikip-utar-ikaine-osomapa-an. 獣たちが私の上に糞をした。②たくさん大便をする。 chikoiki-eka-ine-osomapa-nankoro. 獣がお前の上に大便をたくさん垂れるであろう。

osorosh < osor(尻) ush(付く)尻が付く⇨腰掛ける。第Ⅱ類動詞 nima-kata-osorosh-an. 木の上に私は腰掛ける。

osottukuku < osor(尻) tuk(突き出す) tuk(突き出す)尻を突き出し突き出したする。便所でしゃがむ。第Ⅱ類動詞

osserke < osser(擬声語) ke(動詞化語尾)おっと声を出す。⇨驚く。第Ⅱ類動詞 Ne-hawep-nep-pirika-na-sekor-yainu-an-kor-ossereke-an-kor-i-nu-an. その声が何と美しいなあと思いつつ驚きながら聞いていた。

osura 第I類動詞 ①投げ捨てる。 chep-shinep-nea-seta-ekota-an-osura. 魚一匹その犬の方へ私は投げ捨てた。②投げ込む。 An-achabo-atui-oro-i-osura. 叔父は海中に私を投げ込んだ。③脱ぎ捨てる。 an-kamu-konchi-an-osura-an. 着ていた頭巾を脱ぎ捨てた。

osurpa < osura (旨) pa (①目的物複数②尊敬③主格三人称複数) ①一つならず二つ以上放る。②放られる。③の方々が放る。

ot < o(ある)の主格三人称補語複数形 ①たくさんいる。ごちゃごちゃいる。②たくさん入る。 chepot-mem < chep (蛙が) ot (たくさん入る) mem (湧水池) kamuichepotnai < kamuichep (蛙が) ot (たくさん入る) nai (沢) 忠別川筋の地名。③たくさん出る。 kem-ot. 血がどっと出る。

otappa ホテッパ hotapa

otereke < o (~の方に) terke (①突き落とす②踏みつける) ①~の方に突き落とす。②~を踏みつける。第I類動詞 ① kanto-hoshibi-an-somoki-yakne-chikap-sak-kotan-i-otereke-kushine-sekor-ayubiut-ari-iepa-an. 天に帰らなければ鳥無き郷に私を突き落とすと兄たちは言うのです。② mun-tum-un-be-kashi-an-ot-ereke-an. 草むらにいるもの(蛇)の上を私は踏みつけた。

otke ①引っかける。②突く。突き刺す。③入れる。第I類動詞 ① anona-marek-ani-chep-ko-otke. 父はマレックで魚を引っかける。② chi-kore-wen-ekatchi-makiri-ani-inunbe-otke-kor-an. 私の悪い子供は炉縁を小刀で突き刺すのです。(炉縁の木を突き刺すどころか踏むことさえタブーである。大塚一美氏談)③ an-mipi-attusa-an-e-pa-otke-kor-hotke-an. 私は着物の片方の袖に頭を入れて寝ていた。

otui ホトウ hotui

otuwashi < otu (次から次へと湧き出るもの) u (挿入音) ashi (出す) 手持する。自慢する。誉めたたえる。第II類動詞 rametok-otuiwashi-an-kusu-kamiashi-ukoiki-an. 我は己が勇気を誉めたたえた故に魔神と戦った。

oyuppa ホユッパ hoyuppa

oyaike ホヤイケ hoyaike

ouri 掘る。第I類動詞 toi-ouri. 土を掘る。

P

pa 見付ける。第I類動詞 sume-ne-yaikar-an-koroka-kimun-ainu-i-pa-an. 石に身を変え

ていたのですが山アイヌは私を見付けました。 apashir <a(皆が) pa(見付ける) shir(島)地名『網走』 paechiwre < pa(頭を) e(そこに) chiw(刺す)頭を突っ込む。第I類動詞 an-mi-kosonde-an-paechiwre-kane-hotke-an. 私の小袖に頭を突っ込んで寝ている。

pakashnu 教える。教え諭す。第I類動詞 ne-an-be-an-pakusa-utari-pakashnu-an-kushne-kusu-ishitekkawa-ikore. そのことを私の家来どもに教え諭すつもりでございますのでお許し下さい。

pakesar < pake(頭を) sar(曝け出す)偉そうにする。威張る。馬鹿にする。第II類動詞 shisam-anakne-ainu-utar-pakesar. 日本人はアイヌを馬鹿にする。

pakkay < pa(頭) ka(上) i(動詞化語尾)額に tara(紐)を掛け子供を背負う。第II類動詞 pakkai-an-kor-ihunke-an. 子供を背負いながら子守歌を歌う。

panakte < panak(罪になる) te(使役化語尾)罰する。第I類動詞 e-ani-neno-wen-kewtum-kor-yakne-kamui-utara-e-panakte-nankoro. 汝そのような悪しき心を持つならば神々は汝を罰するであろう。

paraparak < 擬声語: ワーワー声を上げて泣く。第II類動詞 a-yubi-rai-okaketa-keshto-an-kor-paraparak-ash-kor-an. 兄が亡くなってしまった後毎日声を上げて泣いていました。

parkar < par(口) kar(刺激する)口を刺激する。辛く感じる。第II類動詞 tan-ruru-ponno-parkar-an. このスープは少し辛い。 parkarpe < parkar(辛い) pe(物)焼酎。

parkoat < par(口) ko(そこに) at(たくさんある) 崇る。罰が当たる。第II類動詞 neno-shiri-e-ki-yakne-parkoat-nankoro. そんなことをすると罰が当たるぞ。

parkoatte < parkoat(旨) te(他動詞化語尾)罰を当てる。第I類動詞 neno-wen-kewtum-ekor-aike-an-e-parkoatte-nankoro. そんな悪い心を持ち続けると罰が当たるであろう。 an: 中相

parooiki < paro(par『口』の人称形) o(そこで) i(それ『食事の世話』を) ki(為す)養う。食事の世話をする。第III類動詞 e-paro-an-oiki. 我(等)汝の食事の世話をする。 eshi-paro-an-oiki. 我(等)彼(等)の食事の世話をする。 paro-an-oiki. 我(等)彼(等)の食事の世話をする。 i-paro-e-oiki. 汝我(等)の食事の世話をする。

parosuke < paro(par『口』の人称形) suke(料理す

る)食事の世話をする。第Ⅲ類動詞 e-paro-an-suke. 我(等)汝の食事の世話をする。eshi-paro-an-suke. 我(等)汝の食事の世話をする。eshi-paro-an-suke. 我(等)汝等の食事の世話をする。

parpa < paru (口)の(①主格三人称複数形②目的物複数語尾③敬称)第Ⅰ類動詞 ①誰かさん達が扇ぐ。ayubi-utari-awanki-parpa-an. 兄たちが扇で扇いでいる。②たんと扇ぐ。anonu-awanki-ani-i-parpa-an. 母扇で私をたんと扇いでくれる。③retar-konnde-mi-menoko-ramattak-awanki-ani-i-parpa-an. 白い小袖を纏った娘は私を魂を招く扇で扇いで下さいました。

parpapa < paru (口) pa (目的物複数) pa (敬称)たんと扇いで下さる。nea-kamui-kushkorachi-an-menoko-ramattak-awanki-ani-i-parpapa-an. その神のような娘は魂を招く扇で私をたんと扇いで下さいました。

paru ①扇ぐ。②飛び散る。第Ⅰ類動詞 ①ramat-tak-awanki-ani-an-paru-yakne-nea-rai-kur-tenepo-mosh-pokonno-shikihi-nuyanuya-an. 魂を招く扇ぎで扇ぐとその死人が今日覚めのように目を擦ったのでした。②shitumbe-kamui-mun-paru-neno-koshine-tereke-wa-neita-oman-an. 狐神は草が飛び散るように軽く飛び跳ね、何処かへ行ってしまった。

pash 走る。第Ⅱ類動詞 tuima-an-kamui-ekota-pash-an. 遠くの神へ(助けを求める)私は走った。

pashirota < pa (口) shir (強勢許) ota (開ける) 口を大きく開ける。⇒罵る。悪口雜言を言う。第Ⅱ類動詞 nep-kusu-e-i-ko-pashirota-ya? なぜにあなたは私を罵るのか。

pashte¹ < pash (口) te (使役化語尾) 走らせる。第Ⅰ類動詞 nea-kur-hanke-an-kamui-kama-wa-tuima-an-kamui-ekota-i-pashte. その方は近くの神を越えて遠くの神の元へ私を走らせた。

pashte² 気がつく。第Ⅰ類動詞 nea-kamui-menoko-anakne-yaitumamu-atusa-kane-an-be-pashte-shiran-na. その女神は自分が裸であることに気がついたようでした。

patke < pat (擬聲音) ke (動詞化語尾) バッと撥ねる。第Ⅱ類動詞 pet-kata-shine-chep-patke-an. 川面で一匹の魚がバッと撥ねた。

patpatse < patpat (擬聲音) se (発声する) ブクブク言う。主格三人称動詞 su-patpatse-kane-an. 鍋がブクブクいっている。

patpatser < patpatse (口) re (使役化語尾) ブクブ

ク言わせる。第Ⅰ類動詞 ape-an-are-wa-su-an-patpatser. 火を燃やして鍋をブクブク言わせる。pawtenke 命令する。第Ⅰ類動詞 kamui-ainu-utara-neno-ikineno-pawtenke-an. 神は人間たちにこのようにするように命令した。okkaipo-utari-chise-kor-kur-orowa-chise-kar-kuni-a-pawtenke-an. 若者たちは村長に家を建てるように命令された。(a:中相)

paye arpa (行く)の主格複数 kim-ta-paye-an. 我(等)山へ行く。

payekai 行き来する。第Ⅱ類動詞 a-yubi-kotan-ta-uko-payekai-kor-an. 兄の村へ互いに行き来している。payekai-kami 痞瘡神

peka 捕まえる。受け取る。第Ⅰ類動詞 a-wen-acha-atui-ekota-i-osura-koroka-atui-kor-kamui-i-peka-wa-i-reshka-an. 私のひどい叔父は海に私を投げ捨てたのですが海の神は私を受け取って育ててくれました。

pekanke < pe (水) ka (上に) an (ある) kf (他動詞化語尾) 浮かぶ。浮く。第Ⅱ類動詞 ni-num-pekanke. ドングリが水に浮いている。

pekar < peka (口) re (使役化語尾) 捕まえさす。受け取らす。chep-utar-rikip-eai kap-kunine-kamiaish-chi-eu-pekar. 魚たちが上ることができないように(みんなが)魔神に捕まえさせた。⇒魚たちが(上流に)上れないように魔神は捕まえた。

perai < pera (邦語『箇』) ai (矢) 先端がスプーン状になっている魚を射るときに用いる矢。魚釣りをする。第Ⅰ類動詞 wen-kamiaish-perai-kor-an. 魔神が魚釣りをしていた。

peraikar < perai (口) kar (動詞化語尾) 魚釣りをする。第Ⅱ類動詞 peraikar-an-kor-shinot-an. 魚釣りをして遊んでいた。

pere 壊す。割る。第Ⅰ類動詞 mukara-ani-ni-an-pere. 鋏で木を割る。

pereke < pere (壊す、割る) ke (自動詞化語尾) 壊れる。割れる。第Ⅱ類動詞 nea-onne-chip-pereke-somokino-uimam-an. その老船は壊れることなく交易を行った。

perpa < pere (口) pa (①主格複数②目的物複数) ①mata-hanke-kusu-chi-ni-perpa-an. 冬は近いので私たちは薪割りをします。 tanto-tunashno-ni-an-perpa-an. 今日急いでたくさん薪を割りました。chiperpani<chi (不定称) perpa (割る) ni (木) 薪

pettomotuye < pet (川) tomo (胴体) tuye (切る) 川を横切る。川を渡る。第Ⅱ類動詞 ma-an-kor-nea-petttomotuye-a-an. 泳いでその川を渡った。

petuye < pe (水) tuye (切る) 水を切る。洗濯や雨で濡れた布地をバタバタさせて水を切る。第Ⅱ類動詞 wor-an-ani-tepaha-petuye-an. 水に付けていた禪の水を切った。

pirasa 広げる。撒き散らす。第Ⅰ類動詞 Tokor-kamui-omkemawe-moshisso-kurka-e-pirasa-na. 湖の神様は風邪の息を國の隅々まで撒き散らすのです。

pirkaresu < pirka (よい) resu (育てる) 立派に育てる。第Ⅰ類動詞 a-yubi-i-pirkaresu-an. 兄は私を立派に育ってくれた。

piroma < pir (傷) oma (入る) 怪我をする。第Ⅱ類動詞 hatchiri-an-wa-chikiri-piroma-an. 転んで足を怪我した。

pirpa < piru (匂) pa (目的物複数語尾) 一つならず、二つ以上の物を拭く。第Ⅰ類動詞 itanki-senkaki-ani-an-pirpa. 複数の椀を布で拭く。

piru 拭く。第Ⅰ類動詞 itanki-senkaki-ani-an-piru. 楓を布で拭く。

pita ①解く。②解き明かす。第Ⅰ類動詞 ① kut-an-pita. 私は帯を解く。e-motoho-oroke-an-pita. 汝の索姓を解き明かしたぞ。

pitata < pita (匂) pita (匂) 時間をかけて解く。ほどく。第Ⅰ類動詞 nea-kamui-menoko-yaikota-kor-raunkut-pitata-ine-i-e-kutkore-an. その神なる娘は自分で自分の下帯をほどいて私にそれを締めてくれた。

pitche < pit (擬態語『ツルツルしている』) se (発声する) ツルツルしている。禿げている。合成語の中に現れる。e-puitche<e (そこが) epitche (禿げている) 頭が禿げている。

pitke < pit (擬態語) ke (動詞化語尾) 引き付けを起こす。第Ⅱ類動詞 ekushukono-an-kor-shiushpe-pitke-an. 突然赤ん坊が引き付けを起こしたのでした。

pitteka < pit (跳ぶ、外れる) tek (除に) ka (他動詞化語尾) 徐に外す。第Ⅰ類動詞 an-arde-tanne-otobi-kuma-orowa-chi-e-pitteka-an. 片方に長い髪を掛け竿から私は徐に外した。

pokor < po (子供を) kor (持つ) ①子が生まれる。②子を産む。第Ⅱ類動詞 ① shine-an-to-ta-ekushukono-nuwap-ine-pokor-an. ある日突然陣痛がして子供が生まれました。② okkai-poho-pokor-an. 男の子を産んだ。

pop < 擬声音 沸く。煮立つ。主格三人称動詞 su-oshike-an-wakka-pop-an. 鍋の中の水が沸く。

popka < pop (匂) te (使役化語尾) 沸かす。熱くする。

第Ⅰ類動詞 ape-are-wa-wakka-popka. 火を燃やして湯を沸かせ。

poppenu < pop (沸く) pe (水) nu (持つ) 汗をかく。第Ⅱ類動詞 poppenu-kor-hoyup-an. 汗をかきながら走る。

popte < pop (匂) te (使役化語尾) 沸かす。anona-i-wakka-popte-ari-itak. 母は私に湯を沸かすように言った。

porore < poro (大きい) re (他動詞化語尾) 大きくする。体を伸ばす。第Ⅰ類動詞 hopuni-an-ki-wa-an-porore. 起き上がって体を伸ばす。

poso ①通る。②通り越す。第Ⅱ類動詞 ① keme-ni-tai-choropok-horkew-kamui-poso-an. 森の木の林の下を狼神は通った。② ya-un-kur-atui-poso-an-wa-repunkur-atui-an-oshima-an. 陸の人の海を通り越えて沖の人の海へ入った。

pumpa < puni (匂) pa (①目的物複数化語尾②尊敬③主格三人称複数) ①二つ以上上げる。二つ以上持ち上げる。②あの方が持ち上げられる。③大勢が持ち上げる。

pumpapa < puni (匂) pa (目的物複数) pa (尊敬) たくさん持ち上げられる。atui-kor-kamui-tu-pirika-itak-re-pirika-itak-pumpapa-hawene-anihi. 海の神様が二つの善き言葉、三つの善き言葉を告げられるのは以下のようにあった。

puni 上げる。持ち上げる。第Ⅰ類動詞 ashke-puni-wa-onkami. 手を上げて拝む。pon-suma-puni-wa-chichirakka-cho'tcha-ine-shinot-kor-an. 小さな石を持ち上げてどじょうを弓で射て遊んでいる。

punkine < punkyo (奉行) ne (になる) 奉行になる。統治する。守る。第Ⅱ類動詞 ainu-kotan-e-punkine-an-kush-ne-kusu-kanto-orowa-ran-an. 人間界を守るために天から私は下った。

punkinere < punkine (匂) re (使役化語尾) 守らせる。ainu-moshir-a-e-punkinere-kusu-a-iranke-an. 人間界を私に守らせるために私は降ろされた。

purpurke < purpur (擬声語) ke (動詞化語尾) ボコボコ音がする。主格三人称動詞 nea-kem-to-purpurke-an. その湖はボコボコ噴き出していた。

pushkosanu < push (擬声語『バーンと音がする』) kosanu (一回態語尾) バーンと一回音がする。nish-kototta-pushkosanu-an. 雲の面のところでバーンと一回音がした。

putkeputke < putke (擬声音) putke (擬声音) ブケブクする。主格三人称動詞 atui-sermak-putkeputke-kane-an. 海の向こうの方がブケブクしている。

R

rachichi < ra(下) chichi(『垂れる』を意味する擬声語)ぶらぶら垂れている。第Ⅱ類動詞 tokap-rachichi-seta-ekota-chep-shinep-an-osura-an. 乳房がぶらぶら垂れている犬に魚を一匹投げてやった。

raekatta < ra(下) ekatta(強勢辞)①ぐっと下ろす。②ぐっと下かる。第Ⅰ類動詞 ①shitumbe-kamui-inaw-san-pa-orowa-shine-inaw-raekattara. 狐神は祭壇の先からイナウを一本ぐっと下ろした。第Ⅱ類動詞 ②inaw-san-orowa-inaw-raekatta. 祭壇からイナウがぐっと下がった(落ちてきた)。

rai 死ぬ。第Ⅱ類動詞 kamui-neyakka-rai-rusuipe-okai-somoki. 神であっても死にたいものはない。

raimik-kar 婦女子の挨拶をする。両手をこめかみから顔へ引き下げ、人差し指を上唇に沿って引く。(バーチャー辞典参考)第Ⅱ類動詞 nea-'okai-ikotarara-a-itanki-raimik-kar-an-kor-an-uk-an. その方が私に渡した椀を女の挨拶をしながら受け取りました。

raike < rai(下) ke(他動詞化語尾)①殺す。②獲る。捕る。第Ⅰ類動詞 ①a-e-raike-kushne. 俺はお前を殺すつもりだ。②urai-kara-an-wa-chep-porono-an-raike-kor-an. 兄たちは魚を捕っていた。

raikimatek < rai(非常に) kimatek(驚く)大変驚く。chise-pakno-poro-koi-yan-kusu-raikimatek-kor-kira-an. 家はどの大きな波が押し寄せたので大変驚きながら逃げました。

raipa¹ < raye(押し遣る)pa(目的物複数化語尾)一つならず二つ以上の物を押し遣る。第Ⅰ類動詞 ya-o-u-sat-rep-o-an-raipa. 炉の手前の灰を奥の方へたくさん押し遣る。

raipa² < raye(上せる、合わせる)pa(目的物複数化語尾)すがりつく。第Ⅰ類動詞 annante-hoku-chiki-kese-an-raipa. 夫の着物の裾に私はすがりつきました。

rak 臭いがする。合成語の中に現れる。ainu-rak-kur. 人間の匂いがする神。arke-toi-rakpe. 半分土臭い奴。(罵倒するときに用いる)

ramasui < rama(ram「心」の人称形)sui(揺れる)心が揺れる。⇒感動する。第Ⅱ類動詞 pirika-ainu-moshir-ramasui-an. 美しい人間の世界に感動しました。

rametokkor < rametok(勇気)kor(持つ)勇気を持つ。勇気ある。第Ⅱ類動詞 eani-pakno-rametokkor

-kur-ane-eramshikare. あなたほど勇気のある人を私は知らない。

ramtui < ram(心臓)tui(切れる)驚く。第Ⅱ類動詞 kamui-menoko-an-rishitekka-yakka-ramtui-i-osura-an. 神なる娘を私が捕まえると驚いて私を投げ飛ばした。

ramu 思う。第Ⅰ類動詞 somo-sui-mokor-an-kuni-an-ram-koroka-mokor-a-an. よもや眠るとは思わなかつたが眠ってしまった。

ramuye < ramu(ram「心」の人称形) iye(言う)労う。誉める。第Ⅲ類動詞 an-kor-unarbe, "Poro-ru-an-na." sekor-itak-kor-i-ramuye-an. 叔母は「大きくなつたわ」と言いながら私を労うのでした。

ran ①降臨する。②落ちる。③下る。④授ける。第Ⅱ類動詞 ainu-moshitta-ran-an. 我人間界に降臨する。②i-kaine-ekushukono-kene-pe-ran. 私の上に突然棲の木の滴が落ちた。③ranru<ran(下る)ru(道)下り道。地名: 蘭留④an-kor-teketok-an-e-ko-ranke-kushne. 私の手の器用さをあなたに授けようと思ひます。

ranaranke < ra(下) na(の方へ) ran(下る)ke(他動詞化語尾)下界へ下す。第Ⅰ類動詞 nep-an-be-kanto-orowa-chi-ranaranke. 何かが天から下りてきた。(chiは中相)

ranke < ran(下) ke(他動詞化語尾)下ろす。下す。第Ⅰ類動詞 kanto-kor-kamui-kanto-orowa-i-ekota-kambi-ranke-yak-a-ie. 天の神が天から私に手紙を下ろしたと言ふことです。

ranran < ran(擬態語) ran(擬態語)滴が落ちるときの描写。susu-pe-ranran-susu-pe-chik-chik. 柳の滴がランランと、柳の滴がチックチックと落ちるのです。

rao < ra(下に)o(入る)被る。第Ⅱ類動詞 mip-an-e-rao-an-ine-chish-a-an. 着物を被って泣いていた。

raoshima < ra(下に入る) oshma(瞬間態語尾)さっと家中に入る。apa-maka-wa-okawa-ratkip-shikopayar-raoshima-an. 戸の簾を捲り、その上から吊されるようにしてさっと家中に入った。atui-asam-an-ko-raoshima. 海底へさっと潜った。

raotereke < ra(下)o(そこに)tereke(跳ぶ)駆け潜(くぐ)る。第Ⅱ類動詞 apaorotpe-raotereke-an-wa-chise-onnai-ahun-an. 戸口の簾を駆け潜って家中に入った。

raoukao < ra(下)o(そこに)ukao(隠す)着物の下に隠す。tan-raunkut-e-raoukao-wa-oman. 子の下帯を着物の下に隠して行くがよい。

rap ①下る。下がる。②降臨する。 ran の主格複数形。①konkani - chori - an - chikiri - an - etarare - wa - atuikata - rap - ash - an. 金の草履を足に紐で縛り海へと下った。②kanto - orowa - rap. 天から降臨する。

rapapse < rap (擬声語) rap (擬声語) se (発声する) ラップラップと音を立てながら落ちる。 nikaop - ni - ka - wa - rapapse - na. 木の実が木から音を立てながら落ちる。

rara 馬鹿にする。愚弄する。第 I 類動詞 nep - kusu - e - en - rara - ya. どうしてあなたは私を馬鹿にするのですか。

rarepuni < rar (眉) e (そこで) puni (上げる) 眉を上げる。 nea - kur - iekota - rarepuni - an. その方は私の方に眉を上げた。

rari 押す。押しつける。第 I 類動詞 an - ponpo - honi - an - rari. 子供の腹を押す。

rarire < rari (旨) re (使役化語尾) 押させる。 an - tapsut - an - ponpo - an - rarire. 肩を子供に押させる。

rarkar < rar (潜り) kar (作る) 潜る。第 II 類動詞 atui - osh - ke - ta - rarkar - an. 海中を潜る。

rarkarpaye < rarkar (旨) paye (行く) 潜って行く。第 II 類動詞 to - asam - ta - rarkarpaye - an. 湖の底へ潜って行った。

rarpa < rari (旨) の①主格三人称複数②目的物複数

rarpuni < rar (眉) puni (上げる) 眉を上げる。第 II 類動詞 改まって何かをしたり、言ったりする。 chacha - kamui - rarpuni - kane - i - ko - ene - itaki. 猫神は改まって私に次の様におっしゃるのでした。

ra'tchike < ratki (旨) ke (他動詞化語尾) 吊す。ぶら下げる。第 I 類動詞 poro - shirar - ainu - netopake - epitta - kompu - ra'tchike - kane - ek - an. 大きな岩のような人間が体中に昆布をぶら下げてやって來た。

ratki ①吊している。②入ってくる。主格三人称動詞 ① chise - soita - inkar - a - an - yakne - kanto - orowa - kambi - ratki - an - na. 家の外を見ると天から手紙が吊してあった。② ikurkata - ratki - hawe - ene - anibi. 次のような声が私に入ってくるのでした。

ratkire < ratki (旨) re (使役化語尾) 吊す。掛ける。第 I 類動詞 kanto - orowa - kambi - kamui - ratkire. 天から手紙を神が吊した。 kakencha - ekota - mip - an - ratkire. 衣桁に着物を掛ける。

raye 押し遣る。送る。第 I 類動詞 atui - asam - ta - kamui - utar - a - o - raye. 海底へ神々がそこから押し遣られた。 shisoinaraye < shi (自身を) soi (外) na

(の方へ) raye (押し遣る) 自身を外の方へ押し遣る。自ら家の外に出る。

rek ①囁く。②歌を歌う。第 II 類動詞 ① chikappo - utara - rek - an. 小鳥たちが囁いていた。② rek - ash - kor - an. 私は歌を歌っていた。

rekuchikayaise < rekuchi (rekut『喉』の人称形) kayai (擬声語『ググッ』) se (音がする) 酒が飲みたくなったりしたときなど喉が鳴る。第 II 類動詞 iku - ko - a - i - nishuk - kusu - tane - wano - rekuchikayaise - nankoro. 酒宴に招待されているので今から喉が鳴る。

rekuteshikai < rekut (喉) e (そこで) shikari (塞がる) 喉が詰まる。喉詰まりがする。第 I 類動詞 neno - poro - an - be - e - ruki - yakne - rekuteshikai - nankoro. そんな大きなものを呑み込んだら喉詰まりしますよ。

ren 沈む。埋まる。第 II 類動詞 ika - toi - kush - wa - toitum - ta - ren - a - an. 私の上に土が被さり土の中に沈んでしまいました。

rep 拍子を取りながら打つ。第 I 類動詞 nea - kur - rep - kor - yukar - an. その人は拍子を取りながらユーカラを吟じていた。

repa < rep (沖) a (動詞化語尾) 沖に出る。第 II 類動詞 a - yubi - utari - uimam - an - kusu - rep - an. 兄たちは交易があるので沖に出ました。

repnikar < repni (拍子木) kar (作る) 拍子木を作る。第 II 類動詞 repnikar - an - ine - an - utari - an - uwekarie - wa - yukar - an. 拍子木を作つて仲間を集めユーカラを私は吟じた。第 I 類動詞用法： repni - an - kar - ine - an - utari - an - uwekarie - wa - yukar - an. 同上。

repun < rep (沖) un (へ出る) 沖へ出る。第 II 類動詞 chip - o - wa - repun - an. 船に乗つて沖へ出る。

rerakare < rera (風に) kare (当てる) 風に当てる。第 II 類動詞 an - kor - pon - totto - ai - sanasanke - wa - rerakare - an. 私の小さな乳房を取り出して風に当てる。

res 育つ。第 II 類動詞 Asahikawa - kotan - otta - res - an. 旭川で私は育ちました。

reshka < res (育つ) ka (他動詞化語尾) 育てる。第 I 類動詞 a - yubi - i - reshka - kor - an. 兄が私を育てくれています。

reshkakar < reshika (旨) kar (作る、為す)。育てる。第 II 類動詞 an - matak - reshikakar - kor - an. 私は妹を育てています。

respa < resu (旨) pa (目的物複数化語尾) 一人(一匹) ならず二人(二匹)以上育てる。第 I 類動詞 seta - an

—respa. 私は犬を一匹ならず二匹以上育てている。

resu < res (育つ) u (他動詞化語尾) 育てる。養う。

第Ⅰ類動詞 i-resu-sapo. 私の養育姉。

rewe 曲げる。第Ⅰ類動詞 usa-shisakpe-an-chise-rewe-kane-an. 色々な類稀なる宝物が我が家を曲げていた。

rewke < rew (rewe の意義単位) ke (自動詞化語尾) 曲がる。第Ⅱ類動詞 rikun-kakenchai-kamui-menoko-kara-mip-ani-rewke-an. 高い方の衣桁は神なる女性の作りたる着物で曲がっている。

rewsh < rew (止まる) ush (付く) 宿泊する。泊まる。第Ⅱ類動詞 pirika-nai-otta-kucha-an-kara-wa-neita-rewsh-an. きれいな沢のところに仮小屋を造ってそこで泊まった。

reye 這う。第Ⅱ類動詞 reye-ash-kane-shinu-ash-kane-paye-ashi-an. 這うように、膝行しながら私は進み出た。

ri 剥ぐ。第Ⅰ類動詞 kap-an-ri-wa-chin-ki-an. 皮を剥いでそして張った。

rikin 升る。主格単数形 第Ⅱ類動詞 anante-hoku-kanto-oro-rikin-wa-isam. 夫は天に昇ってしまった。

rikinte < rikin (上がる) te (使役化語尾) 上げる。第Ⅰ類動詞 poro-suma-nea-kur-erikash-rikinte-an. 大きな石をその人は上へ上げた。

rikip < rikin (旨) の主格複数形 神々と共にという意識があるときは单数にも用いられる。rik-ta-rikip-an. 私は高いところに登った。

rikipte < rikip (旨) te (他動詞化語尾) たくさん持ち上げる。第Ⅰ類動詞 nea-kur-pase-anbe-rikipte. その方は重い物を一つならず二つ以上持ち上げた。

rikoshima < rik (昇る) oshima (瞬間態語尾) 急に昇る。第Ⅱ類動詞 kanto-oro-rikoshima-an. 天空へと私は急に昇った。

rishtek < rish (引き抜く。振りかざす。) tek (軽微態語尾) ①ちょっと掴む。第Ⅰ類動詞 nen-ka-i-rishtek-a. 誰かが私を掴んだ。②i-resu-totto-apekesh-rishtek-wa-itokokikki-an. 育ての母は燃えさしを振りかざして私をひどく叩いた。

rok 座る。第Ⅱ類動詞主格複数形 shirar-chise-onnai-ta-oripakno-rok-an. 岩の家の中で礼儀を正して座している。

rori 沈む。第Ⅱ類動詞 shi-pase-kamui-atui-asam-ta-ra'tchitano-he-rori-an. 重き神が海の底へ静かに沈んだ。

roshki ①ash (立つ) の主格複数形 ②ashi (立てる) の目的物複数形 ①chise-roshki. 二軒以上の家が立

っている。②inaw-roshki. イナウを一本ならず立てる。

ru 溶ける。第Ⅱ類動詞 konru-ru. 氷が溶ける。rukani<ru (溶ける) kani (金属) 水銀。

ruike < rui (吹く) ke (他動詞化語尾) 吹き飛ばす。第Ⅰ類動詞 nekon-ne-yakka-chikap-sak-kotan-an-e-ko-ruike-kushne. どうあっても鳥なき郷へお前を吹き飛ばしてやろう。

ruki 嘸まずに呑み込む。第Ⅰ類動詞 sat-chep-mim-an-ruki. 乾いた魚の肉を喰まずに呑み込む。

hakka-tap-ku-ruki. 女児の尿を呑み込む。女児を脅したりからかたりする表現。(門野トサ談)

rukpa < ruki (旨) pa (目的物複数形化語尾) 一つならず二つ以上喰まずに呑み込む。第Ⅰ類動詞 sat-kam-nochi-an-rukpa. 干し肉の片を一切れならず二切れ以上を喰まずに呑み込む。

rumina < ru (静かに) mina (笑う) 微笑む。第Ⅱ類動詞 kamui-menoko-i-nukartek-rumina-an. 神なる女性は私をちらっと見て微笑むのでした。

rura ①運ぶ。②連れて行く。第Ⅰ類動詞 ①nea-kur-an-chise-ta-usa-kam-nechiki-rura. その方は私の家にいろんな肉屋やらを運んでくれるのです。②e-chise-ekota-an-e-rura-kush-ne-na. おまえの家へお前を連れて行こう。

rure < ru (旨) re (使役化語尾) 溶かす。第Ⅰ類動詞 chup-upash-rure. 太陽は雪を溶かす。

rushika 怒る。第Ⅰ類動詞 ne-an-be-an-rushika-an. そのことに腹が立った。

rutu 押す。第Ⅰ類動詞 shietokne-apushta-an-rutu. 眼の前の戸を押す。

ruturainu < ru (道) tu (二つ、たくさん) rai (死ぬ) nu (強勢辞) 道に迷う。第Ⅱ類動詞 ruturainu-an-wa-neita-kucha-kara-an-wa-rewsh-an. 道に迷いそこに仮小屋を作って泊まった。

ruturutu < rutu (押す) rutu (押す) ①押し遣る。②ガチャガチャさせる。第Ⅰ類動詞 ①anante-hoku-i-mek-ardehe-iko-ruturutu. 我が夫は自分の食べ残りを私の方に押し遣るのでした。②soronba-tama-an-ruturutu-korinkar-an. 算盤の玉をガチャガチャさせながら見た。

ruyke < ruy (砾石) ke (動詞化語尾) 研ぐ。第Ⅰ類動詞 makiri-an-ruyke-wa-an-e-eenre. 小刀を研いで鋭くさせる。

S

saikar < sai (巻き) kar (作る)。第Ⅱ類動詞 ①とぐろを巻く。'aso - keta - saikar - an - kane - an - an. 向い側の席でとぐろを巻いていた。(主語: 蛇) ②巻きつける。kamiash - ka - tek - saikar - kane - perai - kor - an. 魔神は糸を手に巻きつけながら釣りをしていた。

sakekar < sake (酒: 邦語) kar (造る) 酒を造る。第Ⅱ類動詞 pirka - sakekar - an - wa - an - kor - riyap - iomante - an - kush - ne. 旨き酒を造って越冬熊を送りに出そう。第Ⅰ類動詞用法: pirka - sake - an - kar - wa - an - kor - riyap - iomante - an - kush - ne. 同上。

samakeneoman < sama (側) ke (処) ne (に) oman (行く) 近寄る。第Ⅱ類動詞 nea - chise - samakeneoman - an. その家へ私は近寄った。

samam < sam (倒れる) sam (倒れる) 倒れて横になる。合成語の中に現れる。samam - ni. 倒れ木

samoshma < sam (側に) oshima (瞬間態語尾) 急に側にやって来る。第Ⅱ類動詞 pashkur - kews - ut - an - chise - samoshma - an. 烏のおじさんが急に我が家にやって来た。

sampepirika < sampe (心臓) pirika (よい) 心臓の具合がよくなる。第Ⅱ類動詞 wakka - otta - nenka - i - ama - a - kusu - sampepirika - ash. 水の中に誰かが私を置いてくれたので心臓の具合がよくなつた。(沼貝)

sampewen < sampe (心臓) wen (悪い) 心臓が苦しくなる。第Ⅱ類動詞 chup - tom - kor - yakne - sampewen - ash. 私は陽に晒されると心臓が苦しくなる。(沼貝)

san 下る。下りる。下がる。第Ⅱ類動詞主格単数形 okimun - san - an. 私は山から下る。pirka - nai - okimun - san. きれいな沢が山から下っている。

sanasanke < sa (前) na (方へ) sanke (取り出す) 自分の目の前に持ってくる。第Ⅰ類動詞 ekash - karauto - ai - sanasanke - an. 先祖伝来の箱を私は目の前に取り出した。

sanke < san (自) ke (他動詞化語尾) 第Ⅰ類動詞 ①下す。下ろす。ainu - moshir - inkara - an - ike - a - pirika - sana - sanke - nai - hemakraye. 人間界を見たところ奇麗な沢が前の方に下され、奥の方へ押し遣られていた。②取り出す。upsoro - orowa - ikoro - ai - sanke. 懐からお金を取り出す。③川に下す。chip - an - kar - a - wa - chip - an - sanke. 舟を造って川に下した。④山から郷に下す。ainu - utara - e - kor

- katkemat - ainu - kotan - ta - sanke - na. 人間たちはお前(熊)の奥さんを人間の郷へ下したのだ。

sanniyō 思う。考える。第Ⅰ類動詞 nea - 'okaipo - ie - hawe - u - kani - mayun - ne - chi - e - sanniyo. その若者の言う言葉は金属が鳴り響くような心地よき音と思いました。

sap san (自) の主格複数形 神々と共にという意識があるときは单数にも用いられる。pish - ta - sap - ash. 海辺へと我山から下る。

sapakar < sap (頭) kar (作る) 散髪する。第Ⅱ類動詞 otobi - tanne - an - kusu - hanbe - orowa - sapakar - an - kushne. 髪が長くなつたので父に散髪してもらおう。

sapanuykar < sap (頭) nuykar (梳く) 髪を梳く。髪を解かす。第Ⅱ類動詞 kesh - numan - an - kor - sapanuykar - an. 毎朝髪を梳く。

sapte < sap (自) te (使役化語尾) たくさん下す。たくさん出す。第Ⅰ類動詞 mun - an - sapte. ゴミを私はたくさん出す。第Ⅱ類動詞用法 muisapte - an. 同上。

sara 出す。出ている。第Ⅱ類動詞 o - sar - pet. 河口が出ている川。冬でも河口が凍らない川。オサラッペ川。

sashnu < sash (擬声語: カラカラ) nu (聞く) カラカラ響く音が聞こえる。pirakka - sashnu. 下駄の響く音が聞こえる。

sat 乾く。第Ⅱ類動詞 an - teine - mip - sat - an - na. 濡れた着物が乾いた。

satke < sat (自) ke (他動詞化語尾) 第Ⅰ類動詞 乾かす。干す。chep - satke. 魚を干す。

sattek < sat (自) tek (状態を表す語尾) 瘦せている。瘦せる。第Ⅱ類動詞 setakko - ibe - ka - somoki - kusu - neno - sattek - an. しばらく食事をしなかつたのでこのように痩せてしまった。

se¹ ①背負う。②背にする。第Ⅰ類動詞 ① a - yubi - usa - kam - se - hine - an - chise - ta - hoshibi - an. 兄は色々な肉を背負って家に帰った。② anona - henbaraita - ape - o - se - wa - an. 父はいつも炉に背にしています。

se² 声を出す。発声する。合成語の中に現れる。isepo < i (擬声語) se (発声する) po (指小辞) イーと発声するかわいいもの。sekor < se (発声する) kor (つつ) と(格助詞)

sekotsekot < se (背) kot (付ける) 背中を何度も床に付ける。床に伏しながら泣く。第Ⅱ類動詞 tu - nupe - re - nupe - an - ranke - kor - sekotsekot - kane - an. 二つの三つの涙を、流しながら床に伏して泣いて

いる。

sesek 热が出る。第Ⅱ類動詞 an-poho-omkekaran-wa-sesek-an. 子供は風邪をひいて熱が出ている。
sesekka < sesek (暖かい) ka (動詞化語尾) 暖める。第Ⅰ類動詞 ape-ekota-setur-ai-sesekka. 火に向かって背中を暖める。ohaw-sui-sesekka-wa-e-ya. スープをまた暖めて飲みなさい。

seshke < sesh (交合の際の擬聲音) ke (動詞化語尾) 第Ⅰ類動詞 ①グサッと刺す。emushi-ani-kamiash-penram-an-seshke-an. 刀で魔神の胸をグサッと刺した。②塞ぐ。enrum-sui-seshke. わずみの通り穴を塞ぐ。puyar-seshke. 窓掛け。

sesserke < sesser (擬声語) ke (動詞化語尾) シャクリあげる。第Ⅱ類動詞 sesserke-an-kane-chish-an. しゃくりあげて泣く。

seturuserekka < seturu (setur『背中』の人称形) sesekka (暖まる) 背中あぶりをする。第Ⅱ類動詞 anona-nepka-ki-kasomokino-kesh-to-an-kor-seturuserekka-patek-ki-kor-an. 父は何にもしないで毎日背中あぶりばかりしているのです。

shihumnuyar < shi (自身) hum (音) nu (聞く) yar (複数使役化語尾) 複数の人々に自分の音を聞かせる。咳払いをしたり、戸口に立てかけてある棒を打ち鳴らして来訪をその家人に告げる。第Ⅱ類動詞 nea-chise-soiketa-shihumnuyar-an-ike-shine-pon-menoko-ashin-wa-i-nukartektek-sui-ahun-an. その家の側で来訪の合図である咳払いをすると一人の娘が出て来て私をちらっと見てまた家の中に入った。

shik 満ちている。一杯である。第Ⅱ類動詞 hat-ni-ka-e-shik. 葡萄の実が木一杯になっている。

shikamare < shi (自身を) ka (上) ma (動詞化語尾) re (他動詞化語尾) 飛び込む。第Ⅱ類動詞 apaorotpe-shikamare-an-wa-ahun-an. 戸口の簾に向かって飛び込みその家の中に入った。

shikar < shi (美称:『大きく』) kar (造る) 大きく塞ぐ。i-shikar. 地名: 石狩川

shikari < shi (美称:『大きく』) kari (廻る) 廻る。転がる。第Ⅱ類動詞 samamni-shikari. 倒れ木が廻っている。

shikarire < shikari (廻) re (使役化語尾) 廻す。転がす。第Ⅰ類動詞 samam-ni-an-shikarire. 倒れ木を私は転がす。

shikarkari < shi (美称) karkari (丸める) (蛇が)とぐろを巻く。第Ⅱ類動詞 shikarkari-kor-an-an. 私はとぐろを巻いている。

shikarun 思い出す。第Ⅱ類動詞 eshin-e-nu-

ainu-itak-tane-shikarun-an. さっきあなたが聞いたアイヌ語を今私は思い出しました。

shikepuni < shik (目を) e (そこで) puni (持ち上げる) 目を上げる。上目使いをする。第Ⅱ類動詞 shi-pase-kamui-ietoka-shikepuni-an. その魔神は私を睨みつけた。

shikeraikar < shik (目を) e (そこで) rai (ひとく) kar (作る) 瞠みつける。第Ⅱ類動詞 nea-kamiash-i-shikeraykar-an. その魔神は私を睨みつけた。

shikirpa < shikiru (弓) pa (主格複数) 第Ⅱ類動詞 神々と共にという意識があるときは単数にも用いられる。kamui-utar-ponnoka-iekota-shikirpa-ka-somoki. 神々は少しも私の方に身を転じようとはしませんでした。

shikiru < shi (自身を) kir (回る) u (他動詞化語尾) 身を転ずる。身を向ける。第Ⅱ類動詞 ekimun-skiru-an. 山の方へ身を向ける。第Ⅰ類動詞用法: ekimun-an-ko-shikiru. 同上。

shikkesh-ani-inkar < shik (目) kesh (尻) ani (で) inkar (見る) 横目で見る。第Ⅱ類動詞 nep-ka-humi-ash-pokon-ari-yainu-an-kusu-shikkeshi-ani-inkar-a-an. 何か音がしたと思ったので横目で見た。

shikkeshtaiki < shik (眼を) kesh (尻) ta (場所を示す格助詞) i (それを) ki (為す) 横目で睨み付ける。第Ⅱ類動詞 kanto-kor-kamui-i-shikkeshtaiki-wa-irushika-chiri. 天の神は私を横目で睨んで怒鳴り散らした。

shikkamare < shik (眼を) ama (置く) re (使役化語尾) 眼を置かしむ。目を凝らす。じっと見る。第Ⅰ類動詞 repunkur-atui-an-shikkamare. 沖の人の海をじっと見た。

shikkotesu < shik (目を) ko (に対し) tesu (反らす) 目を反らしながら見る。矯めつ、眇めつ見る。第Ⅰ類動詞 tu-kem-ru-etok-re-kem-ru-etok-ai-shikkotesu. 二つの運針の後の先を、三つの運針の後の先を矯めつ、眇めつ見る。

shikkushpare < shik (眼) kush (通る) pa (主格複数化語尾) re (使役化語尾) 目を通す。遠くを見る。第Ⅰ類動詞 神々と共にという意識があるときは単数にも用いられる。repun-kur-atui-an-shikkushpare-an. 沖の人の海を遠くに見た。

shikmaka < shik (目を) maka (開ける) 目を開ける。見えてくる。目に入る。第Ⅱ類動詞 ri-nupuri-shikmaka-an. 高い山が目に入った。第Ⅰ類動詞用法: ri-nupuri-an-ko-shikmaka-a. 同上。

shiknak < shik (目) nak (無い) 目が見えない。第Ⅱ

類動詞 e-shiknak-ki-ya? おまえは目が見えぬのか。

shiknu < shik(目を)nu(持つ)①生きる。命がある。第Ⅱ類動詞 neno-e-i-ki-wa-e-shiknu-kuni-e-eram-ruwe. そんなことをして命があるとでも思っているのか。②蘇生する。生き返る。shichikap-kerai-kusu-neno-shiknu-an. 鷦鷯のお陰でこのように生き返りました。

shiknuka < shiknu(旨)ka(他動詞化語尾)生き返す。助命する。第Ⅰ類動詞 kewtum-pirka-kur-e-shiknuka-nankoro. 心の善きものは助命してやるがよい。a-eshiknuka. 私はお前を助けてやる。第Ⅱ類動詞使用法: e-shiknuka-an. 同上。

shiknure < shiknu(旨)re(使役化語尾)生き返す。第Ⅰ類動詞 nap-kamui-yakka-pirka-ku-suan-poho-shiknure-wa-ikore-yan. どんな神様でも結構ですから私の子供を生き返らせて下さい。

shiknuyanuya < shik(目)nuya(擦る)nuya(擦る)目を何度も擦る。第Ⅱ類動詞 nea-shiyeye-kur-tane-mosh-pokonno-shiknuyanuya-kor-an. その病人は今日が覚めたように目を何度も擦るのでした。

shiko < shik(眼)o(生じる)生まれる。第Ⅱ類動詞 torep-ta-ita-shiko-an-yakaiye. ウバ百合の茎を掘る頃私は生まれたということです。

shikopayar < shi(自分自身を)kopa(間違える)yar(使役語尾reの複数形)多くの人に自分を間違わせること。そのように見せかける。nea-kur-apa-maka-wa-okawa-ratki-shikopayar-kor-an-chise-oshike-ahun. その者は簾を捲ってまるで高い処から落ちてくるようにして私の家に入ってきたのでした。

shikopop 鑄びる。主格三人称動詞 an-tashiro-shikapo-an. 私の山刀が鑄びている。

shikoyairenka < shi(自身)ko(に対して)yai(自分で)renka(喜ぶ)喜ぶ。第Ⅱ類動詞 a-yubi-shikoyairenka-haw-ash-kor-okimun-san-an. 兄は喜びの声を上げながら山から下りてきた。

shikte < shik(旨)te(他動詞化語尾)一杯にする。第Ⅰ類動詞 usa-chihoki-an-kor-chip-upsoroho-an-e-shikte-an. 色々な交易品で舟の中を一杯にしました。

shikushchire < shikush(陽の光り)chi(焼ける)re(他動詞化語尾)陽の光りに灼かれる。第Ⅰ類動詞 rur-isam-ne-kusu-chep-nakka-shikush-chire-wa-rai-an. 海水がなくなったので魚などは日に灼かれて死んでしまった。

shina¹ (荷物を)縛る。第Ⅰ類動詞 ketush-shina-ine-an-se-wa-oman-an. ケトゥシ(女性用のこま物入れ)を縛って背負って出かけた。

shina² 結ぶ。縛る。第Ⅰ類動詞 shintoko-atu-ani-an-shina. シントコを皮紐で縛る。kamui-menoko-nikara-an-ko-shina-kana-an. 神なる娘が梯子に縛られていた。

shini 休む。第Ⅱ類動詞 ta-an-kur-shinki-patek-ki-wa-monraike-somoki. あの人休んでばかりいて働かない。

shinere < shi(自身を)ne(である、になる)re(使役化語尾)化ける。身を変える。第Ⅱ類動詞 Samai-kur-shinere-an-kor-oka-an. サマイクルに化けていました。(主語: 狐)

shinewe ①遊ぶ。②遊びに行く。第Ⅱ類動詞 a-yubi-shinewe-wa-ek-an. 兄が遊びに来た。kanto-oroshinewe-an. 天へ遊びに行く。

shinki 疲れる。疲れている。第Ⅱ類動詞 shinki-an-kusu-ponnno-shini-an-kushine. 疲れたのでちょっと休もう。

shinot < shin(語強勢辞)ot(集まる、刺さる)大地に突き刺さるほど足で踏みつける(地鎮)原義は「巫術」。その動作がやがて「遊ぶ」という行為を示すようになったと推定。第Ⅱ類動詞 mosem-kata-tu-'okai-ekatchi-shinot-kor-okai. 納屋の上で二人の男の子が遊んでいる。

shinrit-icharpa < shinrit(先祖: shir『大地』rit『筋』)i(それ『酒、タバコ、米等の供物』)charpa(撒く)pa(目的物複数語尾)先祖供養をする。第Ⅱ類動詞

shinuye < shi(自身に)nuye(描く)入れ墨をする。第Ⅱ類動詞 pewre-ita-nanuhu-ekota-shinuye-an. 若いとき顔に入れ墨をした。

shiokarire < shi(自身を)o(そこで)kari(巡る)re(使役化語尾)私を巡りさす。nea-kotan-ta-an-shiokarire. その村をみんな私を巡りさす。⇒私はその村の中をあちこち歩いた。

shiokere < shi(強勢辞)okere(仆れる)死に至る。死に絶える。第Ⅱ類動詞 tumi-an-wa-a-yubi-shiokere. 戦いがあって兄は死に絶えた。

shiokerepa < shiokere(旨)pa(主格複数化語尾)複数が死に絶える。tumi-an-wa-an-utarihi-shiokerepa. 戦いがあって我が仲間は死に絶えた。

shipi 返す。帰す。第Ⅰ類動詞 合成語の中に現れる。例/hoshipi<ho(尻を)shipi(返す)帰る。yaikatchibi<yai(自身を)kat(本来の状態に)shipi(返す)蘇生する。病気が癒える。

shipichipichi < shi(自身を)pichipichi(『振る』の擬

態語)身体を何度も振りながら出る。第Ⅱ類動詞
enram-sui-kari-shipichipichi-an-kane-soita-ashin-an. わずみの通り穴を通って身体を何度も振ってやっと外へ出た。

shipimpa < shipine (身) pa (主格複数) 第Ⅱ類動詞
a-yubi-utari-shipimpa-wa-neitaka-paye-an-wa-hoshippa-shiri-isam. 兄たちは正装して何処かに出かけ帰ってくる様子がないのです。

shipine 語源不詳 身支度をする。正装する。第Ⅱ類動詞 i-omante-an-kusu-anona-shipine-wa-oaman. イオマンテがあるので父は正装して出かけました。

shipitatpa < shi(自身を) pita(解く) pita(解く) pa(目的物複数化語尾)若物を脱ぐ。裴いを改める。第Ⅱ類動詞 okkaipo-utar-chise-soita-shipitatpa. 若者たちは家の外で裴いを改めた。

shiponere < shi(自分自身を) po(子供) re(使役化語尾)甘える。第Ⅰ類動詞 an-mippo-i-shponere. 孫は私に甘えるのです。

shiporore < shi(自身を) poro(大きい) re(使役化語尾)自身を大きくさせる。子供が自らを大人にさせる。我慢する。堪え忍ぶ。第Ⅱ類動詞 a-yubi-rai-an-wa-hoshibiki-ka-somokip-shiporore-kor-oka-an. 兄が亡くなつて帰つてこないのを堪え忍んでいる。

shipuspa < shipusu(身) pa(主格複数化語尾)語義: 身 第Ⅱ類動詞 kamui-utar-raichebi-to-kotoro-shipuspa-ki-na. 神々の姿態が湖の水面に浮かんでいる。

shipusu < shi(自身を:再帰接頭辞) pusu(水中または土中から出す)無意識的に水中または土中から出る。第Ⅱ類動詞 nea-to-kor-kamui-mat-ko-iwak-kusu-shipusu-ki-na. その湖の神様は妻問い合わせるために水中から出るのです。

shiramante < shi(自分で) ram(心を) an(ある) te(使役化語尾)思いを巡らす。祈る上にして搜す。第Ⅰ類動詞 an-kotanine-pishkanta-an-shiramante-koroka-an-hoku-neita-ka-isam-an. 村中を隈なく祈るようにして搜したのですが夫はどこにも見当たらないのです。

shirepa < shir(大地) e(そこで) pa(発見する)到着する。第Ⅱ類動詞 shineno-an-kotan-ta-shirepa-an. とある村に私は着きました。第Ⅰ類動詞用法: shineno-an-kotan-an-e-shirepa. 同上。

shirepare < shirepa(身) re(使役化語尾)到着させる。第Ⅰ類動詞 ne-kon-ka-iki-an-wa-neita-a-e-shirepare-kushne. 何とかしてそこにお前を

到着させるつもりだ。

shirkamu < shir(表面に) kamu(被さる)被さっている。広がっている。主格三人称動詞 sarambe-shirkamu. 紗布が広がっていた。

shirkaptekka < shir(状態) kap(皮膚) tek(形容詞化語尾) ka(動詞化語尾)。立体的状態が皮膚だけの平面の状態になる。ペチャンコになる。第Ⅰ類動詞 ainu-ne-yaikar-an-kamiash-shir-kaptekka-tek-oarisam. 人間の姿をしていた化け物がペチャンコになつていなくなつた。

shirkote < shir(地面に) kote(付ける)繋ぐ 第Ⅰ類動詞 an-kor-kira-a-ebere-an-shirkote-an. 私の逃げた糞熊を繋いだ。neita-chip-an-shirikote-an. そこに船を繋いだ。

shiroika < shir(山)o(そこから)ika(越える)山越えする。第Ⅱ類動詞 shiroika-an-ine-an-kor-kotan-ta-shirepa-an. 山越えをして我が村に着いた。

shiroshima < shir(大地に) oshima(瞬間態語尾)どっと倒れる。第Ⅱ類動詞 nea-wen-kamiashi-shiroshima-ine-rai-an. その魔神はどっと倒れて死んでしまった。

shiru < shir(大地) u(他動詞化語尾)擦る。第Ⅰ類動詞 tamanumu-ani-raikur-sampehe-an-shiru-aike-ne-kur-shikunu-an. 玉でその死人の心臓を擦ったらその人は助かった。

shiruanpare < shir(状態、様子) u(挿入音) an(ある) pa(①主格複数②尊敬) re(使役化語尾)①よく調べる。考える。②よく調べられる。考えられる。第Ⅰ類動詞 ① an-utari-ne-an-be-shiruanpare-an. 私の仲間達はそのことをよく調べた。② nea-kamui-kushkorachi-an-'okaipo-e-shiruanpare-an. その神のような若者はそのことについてよく調べられた。

shiruante < shir(状態、様子) u(挿入音) an(ある) te(使役化語尾)よく調べる。第Ⅱ類動詞 an-kotan-epitta-shiruante-koroka-an-hoku-neita-ka-isam-an. 村中をよく調べたのですが夫は何処にもいなかつた。

shirushiru < shir(身) shiru(身)何度も擦る。ゴシゴシ擦る。第Ⅰ類動詞

shisoinaraye < shi(自身を) soi(外) na(～へ) raye(送る)出かける。外出する。第Ⅱ類動詞 ibe-an-tek-wano-shisoinaraye-an. 軽く食事をしてから外へ出た。

shitekka < shir(状態にある) tek(軽微態) a(座る)怒りを鎮めて静かに座れ。お許しくだされ。第Ⅱ類動

詞 an-ki-katu-wen-be-ne-kusu-i-shiteka-wa-ikore. 私がわるうございました。お許し下さい。

shitapkokomo < shi(自身の) tap(肩) ko(に対し) komo(曲げる)肩で担ぐ。第I類動詞 a-yubihi-ai-shitapkokomo-kor-an-chise-ta-hoshibi-an. 兄を肩で担いで家へ帰りました。

shit'chiw < shir(強勢辞) chiw(突き刺す) ぐっさと突き刺す。第I類動詞 anona-e-shi'tchiw-shirko-noikosanu. 父はぐさっと突き刺すように前へ倒れた。

shitoma 語源不詳 恐れる。第I類動詞 seta-an-shitoma. 私は犬を恐れる。犬が怖い。

shitturainu < shir(空間を含む大地) tu(二つ、たくさん) rai(死ぬ) nu(強勢辞) 方角が分からなくなる。第II類動詞 a-yubi-osh-oman-an-korka-ru-hontomta-shitturainu-an. 兄の後をつけたのですが途中で方角が分からなくなつた。

shiturire < shi(自身を) tu(二つ、強勢辞) ri(高い) re(他動詞化語尾) 自身を高くする。⇨背伸びする。体を伸ばす。第II類動詞 hopuni-an-orowa-shiturire-an. 起き上がってから背伸びをした。

shitutanure < shitu(山裾) ta(の方へ) nu(見る) re(使役化語尾) 遙か彼方を見せる。第I類動詞 ne-ekattara-ikopashirota-koroka-ashipa-kisar-ai-shitutanure-kor-ekimun-paye-an. その子達が私に向かって大声で罵ったのですが聞こえぬ振りをして山へ向かった。

shiwne < shiw(擬声語) ne(動詞化語尾) シュウと音を立てる。風が巻き上がる様子を表す。rera-shiwne. 風が巻き上がる。

shiyeye 病気になる。第II類動詞主格単数 an-machi-nep-shiyeye-wa-kesh-to-an-kor-hotke-patek-an. 妻は何かの病気に罹り毎日寝てばかりいます。

shiyeyere < shiyeye(也) re(使役化語尾) 病気にさす。第I類動詞 kenash-kor-unarube-irushka-wa-kotan-kor-kur-shiyeyere-yakalye. 木原のおばさんが怒って村長を病気にしたということです。

shiyeypa < shiyeye(也) pa(主格複数) 第II類動詞 a-yubi-utari-shiyeypa-an. 兄たちは病気に罹ってしまった。

shiyuk 装束する。盛装する。第II類動詞 shipinneと同義。a-kar-pirika-mip-ani-shiyuk-an-ruwne. 自分が作ったきれいな着物で盛装した。第I類動詞用法: a-kar-pirika-mip-ani-a-e-shiyuk-ruwene. 同上。

shiyukte < shiyuk(也) te(使役化語尾) 装束させる。盛装させる。第I類動詞 a-kar-mip-ani-an-po-utari-an-shiyukte-ruwene. 私の作った着物で子供を盛装させた。

shiyuppa < shiyupu(也) の主格複数形 第II類動詞 神々と共にという意識があるときは单数にも用いられる。 shiyuppa-an-kane-ma-an. 我(々)頑張って泳ぐ。

shiyupu < shi(自身を) yupu(緊める) 頑張る。力む。第II類動詞主格单数形 shiyupu-an-kane-ma-an. 頑張って泳ぐ。

shumaune < shumau(神の死体) ne(になる) 神が死ぬ。 eani-shipase-kamui-nekoroka-neno-wen-kewtum-kor-yakne-e-shumaune-nankoro. 汝は重き神にあらせるがかくのごとき悲しき心を持ったならば死すであろう。

shuppakar < shuppa(束) kar(作る) ①束ねる。第II類動詞 kina-cha-wa-shuppakara-wa-satke. 草を刈り、束ねて干す。

sokar < so(寝床) kar(作る) 寝床を作る。第II類動詞 sokar-an-wa-orota-hotke-an. 寝床を作つてそこに寝た。

soso < sos(剥がれる)o(他動詞化語尾)(魚、木の皮、着物を)剥ぐ。剥ぎ取る。第I類動詞 nikap-ai-soso-kusu-ni-tai-ekota-oman-an. 木の皮を剥ぎに林に行く。an-matnep-mi-kosonde-ai-soso. 娘の着ていた小袖を剥ぎ取つた。

sosokar < soso(也) kar(作る) 剥ぐ。第II類動詞 nikap-sosokar-an. 木の皮を私は剥ぐ。

sospa < sos(也) pa(目的物複数形語尾) 着物などを一枚ならず、剥ぎ取る。第I類動詞 irushika-an-kusu-an-hoku-mi-mip-ai-sospa-an. 腹が立つたので夫の着ているものを一枚ならず剥ぎ取つた。

soyekatta < soi(外へ) ekatta(強勢辞) 急に(外へ)飛び出る。第II類動詞 shitunbe-kamui-soyekatta-wa-poro-sara-an-nan-kotchake-ta-shisuye-suye-an. 狐神が急に飛び出て大きな尾を私の顔の前で大きく振るのでした。

soykosanu < soi(出る) kosanu(瞬間態語尾) さっと出る。第II類動詞 Otasut-kotan-tasoykosanu-an. オタストの村へさっと出た。

soyokuta < soi(外)o(そこへ) kuta(棄つ) 外へ飛び出る。第II類動詞 a-onaha-hawshitaiki-yakne-okkaipo-utar-soyokuta. 父が大声で叫ぶと若者たちが外へ飛び出た。

soyoshima < soi(外) oshima(瞬間態接尾辞) 急に外

へ出る。第Ⅱ類動詞 soyoshima-rusui-an-kusu-chise-soita-ashin-an. 急に外へ出たくなつたので外へ出た。

soyotereke < soi(外)o(そこから)tereke(飛び出る)内から外へ飛び出る。第Ⅱ類動詞 Ne-an-be-an-nu-wa-irushika-an-kusu-soyotereke-an. それ聞いて腹が立つたので外へ飛び出しました。

suipa < suye(匂)pa(①目的物複数化語尾②主格三人称複語尾)第Ⅰ類動詞 ①一つならず二つ以上のものを振る。an-mataki-punkar-suipa-kor-an. 妹は葡萄の蔓を振っていた。②誰かさん達が振る。

suke < su(鍋)ke(動詞化語尾)炊事する。料理する。食事の支度をする。第Ⅱ類動詞 anokai-menoko-ne-kusu-kunnanowano-hopuni-an-ki-wa-suke-an. 私は女ですので暗いうちから起きて食事の支度をします。

sukepa < suke(旨)pa(主格複数形)ai-sa-utari-i-ekota-sukepa-an. 姉たちは私に食事の支度をしてくれる。

sukere < suke(旨)re(単数使役語尾)単数の人に料理させる。a-yubi-i-sukere. 兄は私に料理をさせる。

sukeyar < suke(旨)yar(複数使役語尾)複数の人々に料理させる。a-yubi-'ushiw-utar-sukeyar. 兄は召使たちに料理をさせた。

sukup 育つ。第Ⅱ類動詞 neita-sukup-a-wa-asur-ash-ka-motek-kur. 何處で育ったのやら尊のない者。

sunke < sum(草等が萎えるの擬態語)⇒本来の姿を失う⇒(偽りの)ke(動詞化語尾)嘘をつく。この語源説は私見。第Ⅱ類動詞 e-sunke-an. 私はあなたに嘘をつく。第Ⅰ類動詞用法: a-e-ko-sunke. 同上。

suwoto'tke < su(シュッ擬声音)otke(刺す、突く)。シュッという激しい音を立てる。第Ⅱ類動詞 eku-shukono-chipiyak-suwtotke-kor-kora-an. 突然オオジシギがシュウッという激しい音を立てながら降りて来た。

suye 振る。第Ⅰ類動詞 shitumbe-kamui-i-nanu-kotcha-ta-poro-sara-suye-kor-an. 狐神は私の眼前で大きな尾を振るのでした。rera-ash-wa-punkar-a-suye-kane-an. (a:中相)風で葡萄の蔓が揺れていた。

suyekar < suye(振ること)kar(造る)振る。第Ⅱ類動詞 ai-sa-kem-o-p-suyekar-kor-ek-an. 姉は針入れを振りながらやって來た。

T

ta¹ 泊む。第Ⅰ類動詞 wakka-an-ta-kor-an. 私は水を汲んでいる。teeta-kane-ainu-utar-Ichatkere-wakka-oyake-oman! Pirika-wakka-enekota-ek-ki-ya!" sekor-itak-kor-wakka-ta-yaka-ive. その昔アイヌたちは「濁り水よ、別なところへ行け、清き水よ、我が元に來たれ」と、唱えながら水汲みをしたと言ふことです。

ta² 掘る。第Ⅰ類動詞 Samai-kur-chip-ta-an. サマイクルは丸き舟を掘った。nisatta-torep-an-ta-kushne. 明日ウバ百合を掘りに行こう。

ta³ 耕す。第Ⅰ類動詞 paikara-an-yakne-toy-an-ta-wa-usa-piye-an-chari. 春になつたら畑を耕していろいろな種を蒔く。

tare < ta¹(泊)re(使役化語尾)汲ませる。第Ⅰ類動詞 ai-sa-wakka-i-patek-tare. 姉は私ばかりに水を汲ませる。

tak 呼ぶ。呼んでくる。招く。第Ⅰ類動詞 ikaoki-kur-henbano-tak-ya! 医者を早く呼んできなさい。Tan-to-en-tak-wa-sonnno-iyairaike! 本日は私をお招き下さいまして誠にありがとうございます。

takar < tar(背負い縄)kar(造る)夢を見る。伝承に於ける夢は人間に天変地異を知らせたり、人間の過つた所業を改めさせる手段である。人間は夢を見ることによって自分たちのこれからの行動を判断する。

takte < tak(旨)te(使役化語尾)呼んで来させる。第Ⅰ類動詞 chacha-kamui-shitoki-i-ko-tarar-a-an. 翁神は媚神にユーカラを吟する人を呼んで来させた。

tarar 渡す。与える。nea-chacha-kamui-shitoki-i-ko-tarar-a-an. その翁神は私に首飾りを渡しました。

tarare < tara(紐)re(動詞化語尾)紐で縛る。第Ⅰ類動詞 chorai-an-chikiri-an-tarare. 草履を足に縛った。→草履を履いた。

tasa¹ 返す。第Ⅰ類動詞 e-esosere-ikoro-henbano-en-tasa. おまえに貸した金を早く返せ。ainu-itak-ani-ku-e-ive-chiki-ainu-itak-ani-e-tasa-ya. アイヌ語であなたに言ったのだからアイヌ語で返しなさい。

tasa² < ta(タッ:擬声音)sa(音が出る)タッという音がする。音を立ててぶつかる。主格三人称動詞 konru-uchi-e-kata-u-tasa-nankoro. おまえの上に氷の欠けらが音を立ててぶつかりあうであろう。

tasukoninninke < tasu(息)ko(対して)nin(消え

る、無くなる) nin (消える、無くなる) ke (他動詞化語尾) 息が絶え絶えになる。息が切れ切れになる。第 I 類動詞 atui-asam-wa-an-tasukoninninke-kor-yaipu-su-an. 海の底から息も絶え絶えになりながら浮かび上りました。

tasum 病む。第 I 類動詞 mawap-an-tasum. 私は胃を病んでいる。

tasumki < tasum (呂) ki (する) 病む。第 II 類動詞 mawap-tasumki-an. 私は胃を病んでいる。

tata < 擬声音 切り刻む。第 I 類動詞 chep-an-tata-ine-su-oru-an-omare-an. 魚を切り刻んで鍋に入れた。

tauki (刃のあるもので) 叩く。第 I 類動詞 mukara-ani-chikuni-an-tauki-an. 手斧で私は立木を叩いていた。Otasut-un-kur-mukara-ani-humbe-ponehe-tauki-an. オタスト人は鍼で鯨の骨を叩き割る。

teine 濡れる。第 II 類動詞 ekushukono-riyambe-ash-wa-teine-an. 突然ひどい雨が降って私は濡れてしまった。

tekkushpare < tek (手を) kush (通る) pa (主格複数語尾) 神々と共にという意識があるときは单数にも用いられる。re (他動詞化語尾) 手を入れて搜す。第 II 類動詞 shintoko-oshikene-tekkushpare-an-ike-soronba-an. 行器の中へ手を入れて搜したら算盤があった。第 I 類動詞用法: shintoko-oshikene-tek-an-kushpare-ike-soronba-an. 同上。

tekturi < tek (手) turi (伸ばす) 手を伸ばす。第 II 類動詞 tekturi-an-wa-itanki-an-uk. 手を伸ばして椀を執る。第 I 類動詞用法: teke-an-turi-wa-itanki-an-uk. 同上。

temkor < tem (腕) kor (持つ) 抱擁する。第 II 類動詞 nea-kamui-ne-an-kur-i-temkor-wa-i-kishma-an. その神様のようなお方が私をきつく抱き締めるのでした。

tere 待つ。第 I 類動詞 an-chise-ta-an-hoku-setakno-an-tere-koroka-hoshibi-shiri-ka-isam-na. 家で夫を永いことを待っているのですが帰ってくる気配もないのです。

terere < tere (呂) re (使役化語尾) 待たせる。第 I 類動詞 an-wen-achabo-neita-i-tere-wa-ek-ka-somoki. 私のひどい叔父はそこに私を待たせてやって来ないのでした。

terke < ter (擬声音) ke (動詞化語尾) 飛ぶ。跳ねる。飛び跳ねる。第 II 類動詞 an-pu-utari-ota-kata-terke-kor-shinot-an. 子供たちは砂の上を飛び跳ねて遊んでいる。

terkere < terke (呂) re (使役化語尾) 飛ばす。跳ねさす。飛び跳ねさす。第 I 類動詞 kanto-oromo-hoshippa-an-yakne-an-yubi-utari-chikap-sak-kotan-i-ko-terkere-yakaiye. 天にもしも私が帰らなければ鳥無き里に私を飛ばしてしまうと皆が言っている。

teseshke < tesetese (そり返る) 擬態語 ke (動詞化語尾) 反り返る。第 II 類動詞 imanit-etalare-ayubi-teseshke-kane-an. 焼き串を刺された兄は反り返っていた。

tesh 反れる。反る。第 II 類動詞 nea-poro-kamui-ekota-an-cho'tcha-ai-tesh-wa-neineta-oman. その大熊を目がけて私が射った矢は反れて何処かに行った。

teshke < tesh (呂) ke (他動詞化語尾) 反らす。第 I 類動詞 hoyokpe-an-mi-kusu-i-kata-ai-an-teshke-eashikai. 鮎を纏っているので私に向かう矢を反らすことができた。

teshkar < tesh (網代、止め: 川の岸から岸へ約 2 尺おきに杙を並べ、幾本も横木を結いわたして柵をつくり、さらにそれへ竹のすだれを編んで立てかけ鮭がせんぜん遡上できないようにする。『知里真志保全集』第 3 卷 72 頁 平凡社 kar (造る) 網代を造る。第 II 類動詞 teshkar-an-wa-chep-an-koikpa-an. 網代を造って魚をたくさん捕る。第 I 類動詞用法: tesh-an-kar-wa-chep-an-koikpa-an. 同上。

tetterke < ter (擬声音) ter (擬声音) ke (動詞化語尾) ピョンピョン飛び跳ねる。第 II 類動詞 isepo-masara-oshketa-tetterke-an. 兎が草原の中でピョンピョン飛び跳ねていた。

toichikanke < toi (ひどい) chik (滴り) an (ある) ke (他動詞化語尾) 懇しくさせる。第 I 類動詞 kanto-kor-kamui-iporo-toichikanke-an. 天の神は表情を懇しくした。

toikokikki < toiko (ひどく) kikki (叩く) ひどく叩く。第 I 類動詞iresu-unarbe-kuwa-ani-itoi-kokikki. 育ての叔母は棒で私をひどく叩くのです。

toikonoshpa < toiko (ひどく) noshpa (追いかける) 猛然と追いかける。第 I 類動詞 ikkakur-an-toikonoshpa-koroka-an-kirare-an. 泥棒を猛然と追いかけたのですが逃げられた。

toikonoshpare < toikonoshpa (呂) re (使役化語尾) 猛然と追いかけさせる。第 I 類動詞 okamukino-a-e-toikonoshpare-wa-a-e-shinkire-na. わざとお前を猛然と追いかけさせ疲れさせたのだ。

toikonuyanuya < toiko (ひどく) nuyanuya (擦り付ける) 亂暴に擦り付ける。第 I 類動詞 Shitumbe-

kamui-inaw-san-orowa-shine-inaw-raekatta-wa-neanbe-toikonuyanuya-kane-an. 狐神は祭壇から一本のイナウをぐいと下ろして乱暴に擦り付けていたのでした。(狐が人間に変事を伝えるようなときにする動作)

toikoraike < toiko (ひどく) raike (殺す) 慘殺する。ひどい目に遭わせて殺す。叩き殺す。第 I 類動詞 ne-no-e-iki-yakne-a-e-toykoraike-kushne. そんなことをするならお前を叩き殺してやるぞ。

toikorishtek < toiko (ぐいと、がっちり) rishtek (掴む) ぐいと掴む。第 I 類動詞 nea-kamui-menoko-netobake-an-toikorishtek-a-aike-kanna-nishsam-yashkosanu. その神の娘の体をぐいと掴んだら、天の雲の側で雷鳴がした。

toikoweiyyekar < toiko (ひどく) wen (悪い) iye (言う) kar (為す) ひどい言葉を浴びせる。悪口雑言を言う。第 II 類動詞 kanto-kor-kamui-neno-i-toikoweiyyekar-an. 天の神はそのように私にひどい言葉を浴びせるのでした。

toinere < toi (土) ne (になる) re (他動詞化語尾) 土にする。第 II 類動詞 atui-nishite-toinere-an-wa-repa-an. 海を硬い土にして沖の方へ行った。

toita < toi (土) ta (耕す) 土を耕す。農耕する。農業に従事する。第 II 類動詞 toita-an-kor-an-an. 農業で生活をしている。

tomikanuye < tomi (宝物、特に刀剣) ka (上) nuye (彫る) 刀剣に紋様を施す。天界での男神の仕事。第 II 類動詞 keshi-to-an-kor-shirikanuye, tomikanuye-kor-an. 毎日刀鞘や刀剣の上に紋様を施しています。

tomotuye < tomo (tom「中」の所属形) tuye (切る) 横切る。渡る。第 II 類動詞 chip-an-o-wa-yay-unkur-atui-tomotuye-an. 船に乗って陸の人の海を横切る。第 I 類動詞用法: chip-an-o-wa-yay-unkur-atui-tomo-an-tuye. 同上。ru-tomotuye. 道を横切る。pe't-ma-an-wa-tomotu-ye-an. 川を泳いで横切る。

toranneki < toranne (怠惰) ki (する) 息ける。息る。第 II 類動詞 eani-neno-toraneki-patek-yakne-kamui-utar-irushika-ki-wa-e-kunnechup-oro-ushi-nankoro. お前のように怠けてばかりいると神々は怒ってお前を月の中にくっつけてしまうぞ。

tuk 出る。出てくる。生える。大きくなる。第 II 類動詞 Toi-orowa-mun-tuk. 土から草が生える。Nea-ni-tuk-a-tuk-a-ine-nikaop-poronno-an. その木はどんどん大きくなって木の実がたくさんなった。

tukan 射る。第 I 類動詞 pon-ku-ani-chichirakka-an-tukan-kor-shinot-an. 小さな弓でどじょうを射ながら遊んでいた。

tukka < tuk (呂) ka (他動詞化語尾) 出す。大きくなる。第 I 類動詞

tukno < tuk (呂) no (よく) すぐすぐ大きくなる。第 II 類動詞 nea-chikuni-tukno-an. その立ち木はすぐすぐ大きくなかった。

tumkor < tum (力) kor (持つ) 力持ちである。第 II 類動詞 a-yubi-akkari-tumkor-an. 兄より私の方が力が強い。

tununitara < tuntun (チンチンという金属音) itara (持続態語尾) チンチン鳴り続いている。kanto-kotoro-wa-kamui-menoko-ran-an. 天の面のところでチンチンという金属音が鳴り続き、神なる娘が降りてきた。

tura 伴う。第 I 類動詞 an-hawe-e-yukar-kusu-a-e-rushka-kusu-kanto-orota-e-tura-ek-an. 私の声をお前が真似るので腹が立ち天へお前を私は連れてきた。(カッコーの言葉) shini-an-ta-an-poho-teke-ani-wa-neita-ka-tura-wa-shinoto-anroh. 休みの日に子供を連れて何処かに遊びに行こう。

turapa < tura (呂) pa (目的物複数形化語尾) たくさん伴う。wenkamiash-menoko-turapa-wa-shirar-chise-ta-payean. 魔神は幾人の娘を連れて岩の家へ行った。

turi 伸ばす。延ばす。第 I 類動詞 ku-chiriki-tukunne-kusu-chikiri-an-turi. 足が痺れたので足を伸ばした。

turituri < turi (呂) turi (呂) 伸ばし伸ばしする。第 I 類動詞 me-an-kotom-an-kusu-nea-pon-menoko-mipihi-turituri-an. 寒いらしくその女の子は着物を伸ばし伸ばしていた。

turpa < turi (呂) pa (目的物複数形化語尾) ずっと延ばす。a-yubi-otor-turpa-kane-mokor-an. 兄は駒をずっと延ばしながら寝ていた。⇒兄は大駒をかきながら寝ていた。

tushkote < tush (縄) kot (付く) te (他動詞化語尾) 縄を付ける。第 II 類動詞 nea-kira-an-an-riyap-rekuchi-torar-tushkote-ash-wa-o-kimun-san-an. 逃げた越冬熊の首に鞣し皮の縄を付けて山から下った。

tushtek < tush (動く) tek (ほんの少し) ほとんど動かない。じっとしている。第 II 類動詞 neikon-ne-wa-an-hoku-ape-sam-ta-nep-ka-ki-ka-somokino-tushtek-no-a-an. どういうわけか夫は

炉の側で何にもせずにじっと座っているのです。
tushteknoan < tushtek (ト) no (連用形化語尾) an (いる) 黙っている。第Ⅱ類動詞主格単数形 anona - iyep - an - nu - ka - somokino - tushtekno - a - an. 父が言うことを聞かずに私は黙っていた。

tushteknookai < tushtekno (黙って) okai (いる) 黙っている。第Ⅱ類動詞主格複数形 神々と共にという意識があるときは单数にも用いられる。 kakkoku - ekattara - ikoukoiki - orowa - tushteknookai - an. カッコウの子供たちは私と喧嘩をしてから黙っているのです。

tusse < tur (『飛び移る』ことを表す。擬声語) se (動詞化語尾) 放り出す。第Ⅱ類動詞 shintoko - kan - ka - puta - tusse - an. 行器の上蓋を私は放り出した。第Ⅰ類動詞用法: shintoko - kan - ka - puta - an - e - tusse. 同上。

tusushike < tusutusu (震えることの擬態語) ke (動詞化語尾) ぶるぶる震える。第Ⅱ類動詞 ne - an - be - an - nu - wa - tusushike - an - kor - an. それを見て私はぶるぶる震えていた。

tuy 切れる。主格三人称動詞 tan - makiri - pirikano - tuy. この小刀はよく切れる。

tuye 切る。第Ⅰ類動詞 inaw - ni - an - tuye - wa - inawke - an. イナウの木を切ってイナウを削る。

tuypa < tuye (ト) pa (目的物複数化語尾) 一本ならず二本以上切る。 inaw - ni - an - tuipa. 複数のイナウの木を切る。

U

uchashkuma お話する。説明する。第Ⅱ類動詞 e - uchashkuma - an - kusu - irushka - somokino - nu - yan. あなたに訳をお話ししますので怒らずに聞いて下さい。第Ⅰ類動詞用法: a - e - ko - uchashkuma - kusu - irushka - somokino - nu - yan. 同上。

uhui < huhu (擬声語) i (こと) ①燃えること。燃焼。②燃える。第Ⅱ類動詞 kenash - noshke - wa - uhui - wa - oman. 木原の中から燃えていった。 ape - o - i - otta - an - perpa - ni - uhui - an. 炉の中で私が割った薪が燃えている。

uhuika < uhui (ト) ka (他動詞化語尾) 燃やす。第Ⅰ類動詞 rai - kur - an - kusu - ne - chise - an - uhuika - an. 死人が出たその家を燃やした。

uikashmampa < u (互いに) ikashma (刺る) m (挿入音) pa (目的物複数化語尾) 色々な物がたくさん刺る。あり余るほどたくさんある。主格三人称動詞 usa - shito - nechiki - inaw - nechiki - tonoto - nechiki -

puyar - kari - uikashmampa - ahup - an. 色々な菜やライナウやら酒やらが窓を通ってあり余るほどたくさん入ってきた。

uina < uk (ト) の目的物複数形 ひとつならず捕まえる。ひとつならず取る。第Ⅰ類動詞 hat - ikiri - an - uina. 葡萄をたくさん取る。

uinare < uina (ト) re (使役化語尾) たくさん取らせる。 an - achabo - neita - an - kami - i - uinare - an. 叔父はそこにあった肉をたくさん私に取らせた。

uitek 遺わす。使いに出す。第Ⅰ類動詞 kamui - utar - ainu - moshi - i - uitek - an. 神々は人間の世界へ私を遣わした。 an - kor - totto - kami - hok - kuni - machiya - ekota - i - uitek - an. 母は肉を買ってくるように街に私を使いに出した。

uk 捕まえる。取る。第Ⅰ類動詞目的物単数形 shirokani - pon - chikappo - shinep - an - uk - wa - an - upsoro - an - o - mare - an. 銀色の小鳥を一羽捕まえて懷の中に入れた。

ukao 隠す。第Ⅰ類動詞 Wen - kamiashi - aep - opitta - ukao - kusu - an - kotan - ta - kemush - an. 魔神が食料をすべて隠してしまったので私の村は飢餓になってしまった。 An - totto - anakne - an - hanbe, hanbe - anakne - totto - ukao - wa - nep - ikoro - en - sanke - an. 母は父に、父は母に隠していくらかのお金を私に渡した。

ukaokarakasse < u (互いに) ka (上) o (そこから) karakara (『転げ回る』意の擬声語) se (動詞化語尾) 重なり合いながら転げ回る。主格三人称複数動詞 Ainu - kotan - inkar - an - ike - ainu - utari - ukaokarakasse - kor - okai. 人間の郷を見たら人間たちが重なり合いながら転げ回っていた。

ukaoma < u (互いに) ka (上) oma (入る) 重なり合う。主格複数動詞 atui - okari - kamui - utar - raichebi - ukaoma - an. 海辺に神々の死体が重なり合っていた。

ukashmampa < u (互いに) kash (ka『上』の所属形) ma (動詞化語尾) n (挿入音) pa (主格複数形語尾) 溢れ出る。第Ⅱ類動詞 neiwano - yukar - itak - an - paro - wa - ukashmampa - an. それからユーカルの言葉が私の口から溢れ出たのでした。

ukoani < uko (互いに、両方) ani (携える) 両方を携える。第Ⅰ類動詞 Samayekur - noya - pon - ku - noya - pon - ai - ukoani - wa - i - ak - an. サマイエクルは蓬の小弓と蓬の小矢で私を射った。

ukoiki < u (互いに) koiki (闘う) 格闘する。喧嘩する。第Ⅱ類動詞 nupuri - kesh - un - puriwenkamui - ekoro - katmat - turano - ukoiki - kor - pet - turash

-paye-kor-an-na. 山裾の性悪熊がおまえの奥さんと争いながら川を上っている。ta-an-umu'tre-kur-neita-yakka-ukoiki-patek-ki-an. あの夫婦は喧嘩ばかりしている。

ukokomo < uko(互いに) komo(曲げる)二つのものを曲げる。第I類動詞 chikiri-an-ukokomo-kor-hotke-an. 膝を曲げそれを手で抱いて寝る。アイヌの寝方。

ukoomante < uko(互いに) omante(行き来させる)やり取りをする。ainu-okkaipo-utara-an-kor-ponpe-ukoomante-an. 人間の男の子たちは私の子供をやったり取ったりしている。

ukoopi < u(互いに) ko(対し) opi(分かれる)分かれ。第II類動詞 nea-komni-nitek-re-ne-ukoopi. その樹の木の枝は三つに分かれている。

ukor < u(互いを) kor(持つ)結婚する。第II類動詞 E-sukek-ibe-an-yakne-ukor-an-kushi-ne. あなたの料理を私が食べたら結婚しましょう。An-mataki-tan-pa-ukor-na. 妹は今年結婚します。

ukoramkor < uko(互いに) ram(心) kor(持つ)相談する。第II類動詞 nekon-iki-yakka-iyotta-pirika-na-sekor-kamui-utar-ukoramkor-an. 如何したら一番いいかと神々は相談していた。

ukoraye < u(互いに) ko(対し) raye(押しやる)互いに押しやる。分かれている。主格三人称動詞 ni-tek-ukoraye-ta-shini-eashikai-so-an. 枝が分かれている処に休める場所がある。

ukotereke < u(互いに) ko(対し) tereke(飛び跳ねる)取組み合いをする。相撲を取る。主格複数動詞 an-kor-e-kattara-keshto-an-kor-ukotereke-kor-an. 子供たちは毎日取組み合いをしている。

ukouk < uko(互いに) uk(取る)重唱する。menoko-utar-ukouk-ki-kor-an. 女たちは重唱をしていた。

ukte < uk(旨) te(使役化語尾)ひとつ取らせる。第I類動詞 ayubi-i-hat-ukte. 兄は私に葡萄を一房取らせた。

ummse < humhum(擬聲音) se(発声する)ゴウゴウ音を立てる。主格三人称動詞 shiri-uhui-wa-hummse-kor-nui-rikin-an. 山火事となり、ゴウゴウ音を立てながら炎が舞い上がった。

un いる。ある。合成語の中に表れる。ne-kotan-un-kur. その村にいる人。

urarotte < urar(霧、雲) ot(群生する) te(使役化語尾)霧をたくさんかける。第II類動詞 neita-urarotte-an-wa-yayokao-an. そこに霧をたくさんかけて身を隠しました。第I類動詞用法: neita-urar-an

-otte-wa-yayokao-an. 同上。

uraye < huraye

urorerok < urore(並んで) rok(a『座る』)の主格複数 並んで座っている。shisotta-chacha-kamui-ne-wa-rupnemata-urorerok-an. 右座に翁神と嫗が並んで座っていました。

usaraye < usa(両側) raye(押し遣る)分ける。搔き分ける。第II類動詞 an-otobi-usaraye-an. 私は髪を左右に分けている。mun-usaraye-an-kor-oaman-an. 草を搔き分けて進んだ。

ush¹ 付いている。anushta<an(我もしくは我等) ush(付いている) ta(ところ)我が家。chip-kamui-i-seremak-ush-wa-e-epunkine-an. 船の神様が私の背後に付いて守ってくれた。

ush² 消える。第II類動詞 ape-ush. 火が消える。ushi < ush¹(旨)i(他動詞化語尾)(身に)付ける。被せる。になる。第I類動詞 me-an-kusu-konchi-e-ushi-soita-oaman-ya. 寒いので帽子を身につけて(被って)出かけなさい。su-kata-puta-ushi. 鍋に蓋を被せる。kem-ush. 飢餓になる。

uta 搞く。第I類動詞 turep-an-uta. 私は乳母ゆりを搗く。iutani<i(それ『乳母ゆり、栗、稗等を』) uta(搗く) ni(木):臼

utare < uta(旨) re(使役化語尾)搗かせる。ai-saha-i-patek-i-utare-an. 姉は私はかり搗かせるのでした。

utarkeshkor < utar(仲間) kesh(端) kor(娶る)妻を娶る。人文神(サマイクル、オキクルミ)が妻帯する。Samaikur-poho-nepka-ewenka-somokino-utarkekcor-an. サマイクルの子息は何にも困ることなく妻を娶った。

utasa < u(互いに) tesa(向かって行く)入り交じる。入り乱れる。交叉する。主格三人称動詞 konru-chiai-ikata-utasa-an-na. 氷の先が私の上で入り交じっていた。nen-okkai-tek-an-penram-kata-utasa-hine-an-pon-totto-rishitekka-an. 誰か男の手が私の胸に交叉して私の小さな乳房を掴んだのでした。

uturashinot < utura(一緒に) shinot(遊ぶ)一緒に遊ぶ。第II類動詞 anaki-uturashinot-kor-an. 弟と一緒に遊んでいた。

uwekari < u(互いに) e(そこで) kari(円くなる)集まる。第II類動詞 an-chise-ta-an-utari-uekari-wa-ueneusar-kor-an. 我が家に仲間たち集まって余興を催す。

uwekarire < uekari(旨) pa(他動詞化語尾)集まる。第I類動詞 an-kotan-un-utari-an-uekarire-

wa—an—yukar—an. 村の者達を集めて私はユーカラを吟じた。

uwekarirepa < uwekarire (旨) pa (①目的物複数②主格複数) ①たくさん集める。 a—yubi—chihoki—uwekarirepa—wa—uimam—an. 兄は交易品をたくさん集めてウイマムに出掛けた。 ②複数の人が集める。 a—yubi—utari—chihoki—uwekarirepa—uimam—an. 兄たちは交易品を集めてウイマムに出掛けた。

uweneusar < u(互いに)(挿入音)ene(そのように) u(互を)sar(さらけ出す)語りを披露したり、会話を楽しむ。 第Ⅱ類動詞 kamui—ekota—shinot—an—wa—uweneusar—kor—an. 神様のところへ遊びにいって語りを披露したり会話を楽しんでいました。

uvepekennu < u(互いに)w(挿入音)e(そのことに就いて) pekenno (peker『明るい』no『連用形化・副詞化語尾』明るく、はっきり) nu(聞く)安否を尋ねる。 第Ⅰ類動詞 an—kor—eka'tchi—neita—ka—oman—an—kusu—an—uvepekenu—koroka—nenka—eramshikare—an. 私の子供が何処かへ行ってしまったのでその安否を尋ねたのですが誰も知りませんでした。

uweroshki < u(互いに) w(挿入音) e(そこで) roshki (ashi『立てる』の主格複数形) 互いに重なり合って立てる。 第Ⅰ類動詞 Inkara—an—ike—ranke—wen—kut, rikun—wen—kut—chi—ueroshiki—an. 見ると低く険しい崖と高く険しい崖が互いに重なり合って立っていた。(chi: 中相)

uwetunuisse < u(互いに) w(挿入音) e(そこで) tunun(チンチン) se(擬聲音動詞化語尾)美しい音が響き渡る。 kamui—korachi—an—kur—hawe—uwetunuisse—kane—an. 神のような方の声が美しく響きわたるのでした。

W

wakkaekot < wakka(水)e(それで)kot(没す)渴きで死ぬ。渴死する。第Ⅰ類動詞 kenash—kata—mom—ke—a—topipa—wakka—sak—kusu—wakkaekot—etokush. 木原に流された沼貝は水が無いので渴死するところであった。 wakka—isam—ne—yakka—an—utari—opitta—wakkackot—nankoro. 水が無ければ我等は皆渴死するであろう。

wakkamomte < wakka(水) mom(流れる) te(使役化語尾)水に流される。第Ⅱ類動詞 pet—otta—ma—an—aine—wakkamomte—ash. 川で泳いでいるうちに水に流された。

wakkaomare < wakka(水) omare(入れる)水を入れる。第Ⅱ類動詞 su—oshkene—wakkaomare—an.

鍋の中に水を入れる。第Ⅰ類動詞用法: su—oshkene—wakka—an—omare. 同上。

wakkata < wakka(水を) ta(汲む)水汲みをする。 第Ⅱ類動詞 ai—sa—tura—tunne—wakkata—ashi—an. 姉と二人で水汲みをします。第Ⅰ類動詞用法: ai—sa—tura—tunne—wakka—an—ta—an. 同上。

wakkatare < wakkata(旨) re(使役化語尾)水汲みをさせる。第Ⅰ類動詞 i—sa—i—patek—wakkatare—an. 姉は私ばかりに水汲みをさせるのです。

weiyyekar < wen(悪い) iye(言うこと) kar(作る)悪口を言う。第Ⅱ類動詞 nekon—ne—wa—ainu—opitta—i—weiyyekar—ya. どういう訳かみんな私の悪口を言うのです。

wen 悪いのである。第Ⅱ類動詞 wen—an—wa—ishitekk—wa—ikore. 私が悪いのです許して下さい。

wenarakaitak < wen(悪い) araka(痛い) itak(言葉を発する)痛烈な言葉を浴びせる。罵る。第Ⅱ類動詞 kamui—utara—opittano—i—ekota—wen—araka—itak—ki. 神々は皆で私に痛烈な言葉を浴びせるのでした。

wenekot < wen(無様) ne(にて) kot(没す)無様な死に方をする。第Ⅱ類動詞 chikoikip—shi—newa—kui—hura—an—nu—ine—wenekot—an. 獣の糞尿の臭いを嗅いで私は無様な死に方をしました。

wenpanakte < wen(ひどい) panak(罰が当たる) te(他動詞化語尾)ひどい罰を与える。第Ⅰ類動詞 nea—wen—kamiash—ainu—kotan—wente—kushne—sekor—yainu—an. その魔神は人間の郷を荒らしてやろうと思っている。

wosse < wo(ウォッ) se(発声する)ウォッと吠える。第Ⅱ類動詞 wosse—kamui. 狼神

Y

yaikatanu < yai(自身) kat(常態) anu(置く)自身を神のように邪なことをしない常態にする。慎み深くする。恐れ憚る。第Ⅱ類動詞 nea—kamui—ne—an—kur—pirika—kip—kor—ek—yakne—an—ko—somo—yaikatanu. その神のような方がきちんととしてやって来たら恐れ憚ることをしなかったのに。

yaikatchibi < yai(自身) kat(姿、形) shibi(帰す)蘇生する。天に帰る。第Ⅱ類動詞 neno—an—hushiko—ipakikni—ani—iraike—yakne—yaikatchibi—eaikap—an. そんな古い叩き棒で私を殺したら私の魂は蘇生することはできない。第Ⅰ類動詞用法: chi—e—yaikatchip. 我蘇生す。

yaikatchippa < yaikatchipi(旨) pa(主格複数形化語

尾)我等蘇生す。汝等蘇生す。彼等蘇生す。ashin-ipakikni-ani-iraike-yakne-yaikatchippa-eashikai-an. 新しい叩き棒で私たちを殺してくれたら私たちは蘇生できるのです。

yaikimatekka < yai(自身) kimatek(急ぐ) ka(他動詞化語尾)急ぐ。第II類動詞 okaipo-utari-ekimun-yaikimatekka-wa-inaw-ni-tuypa-an. 若者たちは山へ急いでイナウの木をたくさん切った。

yaikisannere < yai(自身) kisar(耳) nere(ならしむ)自分の耳を搔く。一人耳搔きをしている。第II類動詞 Wen-kamiash-rotta-yaikisannere-kor-a-wa-an. 魔神は上座で一人耳搔きをしながら座っていた。

yaikochupu < yai(自身) ko(に対して) chupu(閉じる)着物の中に自分の体を入れる。着物を引き合わす。第I類動詞 an-mi-koconde-oshimoisamne-ai-yaikochupu-oharikisamne-ai-yaikochupu. 私のいつも着ている小袖に右手の方から自分の体を入れ、左の方から体を入れる。小袖を右の方から引き合わせ、左の方から引き合わす。

yaikoeram < yai(自身) ko(否定接辞) eram(分かる)自分が分からぬ。分からない。第II類動詞 ainu-anakne-yaikoeram-an-yakka-chinita-ekota-nep-nakka-eraman. アイスというものは分からなくなると夢でなんでも分かる。

yaikoiomare < yai(自身) ko(に対し)i(それ『酒』)omare(入れる)独酌する。第I類動詞 kesh-ukuran-an-yaikoiomare-kor-iku-an. 每晩独酌で酒を飲む。

yaikoiomarepa < yaikoiomare(酒) pa(①目的物複数②主格複数③尊敬)①たくさん独酌する。anona-yaikoiomarepa-kor-iku-an. 父はたくさん独酌する。②an-utari-yaikoiomarepa-kor-iku-an. 仲間は独酌していた。③nea-kamui-ne-an-okkai-yaikoiomarepa-kor-iku-an. その神のような方が独酌されながら酒を召し上がってきた。

yaikoramtek < yai(自身) ko(に対し)i(それを)ram(思う)tek(軽微態語尾)ちょっと自身を忘れる。うっかりする。第II類動詞 yaikoram-an-kusu-e-ek-an-be-an-oira-kane-an. うっかりしていてあなたが来たのを忘れていました。

yaikokar < yai(自身) ko(に対し)kar(作る)自ら作り為す。第I類動詞 pirika-suke-nea-kamui-ekota-an-yaikokar-a. おいしい料理をその神に作った。

yaikonishnu < yai(自身) ko(に対し)nish(雲)nu(見る)寂しい。退屈である。第II類動詞 machi-ka-poho-ka-sakno-shinenne-neno-yaikonishnu

-kane-an-an. 妻も子もなくこのようにひとり寂しく暮らしている。shinenne-an-ike-yaikonishnu-an-kusu-neitaka-shinot-an-kushne-na. 一人でいると退屈なので何處かに遊びに行こう。

yaikoniwen < yai(自身) ko(に対し) niwen(威嚇する)ひどく怒る。怒髪冠を刺す。第I類動詞 ne-an-nu-ike-an-kor-totto-yaikoniwen-koro-neita-ashin-an. それを聞いて母はひどく怒りながらそこへ出掛けた。

yaikopekere < yai(自身) ko(に対し) peker(明るい) re(動詞化語尾)ふと考える。つと思う。第II類動詞 yaikopekere-an-ike-kamui-orowa-sonko-an-oira-an. ふと考えてみたら神からの伝言を忘れていた。

yaikoranke < yai(自身) ko(に対し) ranke(落とす)自ら落とす。落ちる。第II類動詞 tu-nupur-nupe-re-nupur-nupe-yaikoranke-an. 二つの熱き涙、三つの熱き涙が落ちるのでした。

yaikotachi < yai(自身) kotachi(付ける)自身に付ける。第II類動詞 Shir-wen-chacha-eshina-etoro-yaikotachi-an. 不格好なお爺さんはくしゃみの鼻汁を自身に付けた。

yaikotomka < yai(自身) kotom(相応しい) ka(動詞化語尾)似合いであると思う。いとしく思う。第II類動詞 Kanto-otta-inkar-an-korka-yaikotomka-an-menoko-shinep-ka-isam. 天界を見渡してみたが私に似合いの女性は一人もいなかった。

yaikurkatushtek < yai(自身) kur(陰:『知覚不可能なところ』) ka(添加の副助詞『も』) tush(震える) tek(状態を示す語尾)身体全体が震える。第II類動詞 kinra-ene-wa-yaikurkatushtek-kane-an. 気が狂つたのであろうか身体全体が震えていたのです。

yaineusarka < yai(自身) ne(で) u(互いに) sar(出る) ka(他動詞化語尾)自分で自分の得意な語り物を語りながら楽しむ。一人で楽しむ。第II類動詞 atui-samta-oina-an-rek-kor-yaineusarka-an. 海岸でオイナを一人語りながら楽しんでいる。

yainikoroshma < yai(自身) nikor(内) oshma(入る)恥ずかしく思う。恥じる。第II類動詞 ichatkere-itanki-oshke-omap-an-e-okere-wa-an-e-yainikoroshma. 汚い椀の中に入っていたものを食べたことを恥ずかしく思った。

yainu < yai(自身を) nu(見る)思う。考える。第II類動詞 neno-yainu-an-kor-an. そのように思っています。ku-yainu-neno-e-yainu-kushuko-shinot-anro. 私が思う通りあなたが思うので一緒に遊ぼう。男が女を誘う常套句。

yainupa < yainu(自)pa(①目的物複数②主格三人称)
①あれこれ考える。yainupa-kor-an. 私はいろいろ考えている。kamui-utar-yainupa-ene-anihi. 神々はこのように考えています。

yaiparoiki < yai(自身)paro(par『口』の所属形)i(それ)ki(為す)自分で食べる。自活する。第Ⅲ類動詞nen-nakka-yaiparoiki-eashikai-kunine-monrake-na. 誰でも自活できるように働くのです。kamui-utar-anakne-ainu-isam-yakka-yaiparoiki-eaikap. 神々は人間がいなければ自活できない。人間の供物があるから神々は労働から解放される。

yaipusu < yai(自身)pusu(出す)意識的に出て来る。第Ⅱ類動詞 tokor-kamui-matkoiwak-kusu-to-orowa-yaipusu-an-na. 湖の神様が奥さんを訪ねるために湖から出て来た。

yairaike < yai(自身を)raike(殺す)自殺する。第Ⅱ類動詞 tan-pa-pevre-yairaike-poronno-okai-yakane. 今年若い自殺者多かったということです。

yairamkikkar < yai(自身)ram(心)kik(叩く)kar(為す)諦める。第Ⅱ類動詞 an-poho-shiknu-somoki-sekor-yainu-an-wa-yairamkikkar-an. わが子は生き返ることはないと思い諦めた。

yaishiporore < yai(自身)shi(大きく)poro(大きくある)re(使役化語尾)我慢する。絶える。第Ⅱ類動詞 a-on-a-ka-unu-ka-hoshibi-somoki-koroka-shinenne-chish-an-somokino-an-chiseta-yaishiporore-an. 父も母も帰って来なかつたのですが一人、家で泣かずに我慢していました。

yaishiyuppare < yai(自身)shi(大きく)yupu(締める)pa(尊敬)re(使役化語尾)御自身を力ましむ。主格二・三人称動詞 onne-chip-kamui, esh-yaishiypare-wa-i-tura-sui-uimam-an-ro. お年を召された船神よ、御自身を力ませ今一度私と交易に参りましょう。

yaishitoma < yai(自身を)shitoma(恐れる)恥ずかしく思う。第Ⅱ類動詞 nea-kamui-menoko-aratusare-wa-eikosh-yaishitoma-an-kusu-mosem-shikkew-otta-chish-kor-an. その神なる女性は丸裸にされて恥ずかしく思う余り納屋の隅で泣いていた。

yaituitak < yai(自身)uitak(語る)自身のことを語る。自叙する。neno-to-pipa-yaituitak-an. そのように沼貝は自叙した。

yan < ya(陸)an(ある)上陸する。陸に上がる。第Ⅱ類動詞主格単数形 chip-yan-wa-ne-orowa-shine-okkai-isam-ta-ek-an. 船が上陸してそこから一人の男が私の側にやって来た。

yanke < yan(自)ke(他動詞化語尾)(船、魚、交易品等を)陸に上げる。陸の方に放り投げる。第Ⅰ類動詞 chip-an-yanke. 船を陸揚げする。urai-an-kar-a-wa-chep-an-yanke-kor-an. 梁を作つて魚を陸の方に放り投げていた。sake-usa-amam-usa-kamtachi-usa-chip-orowa-ai-yanke-kor-an. 酒やら、米やら、麹やらを私は船から陸揚げしていた。

yap < yan(自)の主格複数形 chip-orowa-ainu-utari-yap-an. 船からアイヌたちが上陸した。

yapte < yap(自)te(使役化語尾)①複数の人が陸揚げする。usa-an-be-an-yapte-kor-an. 色々な物を私達は陸揚げしていた。②陸の方に放り投げられる。kamui-menoko-an-rishitekka-ine-ekushukono-kenash-ekota-i-yapte-an. 神の娘を私が掴むと突然ケナン(湾曲した川沿いの木原)の方へ私を放り投げられた。

yash 裂く。引き裂く。第Ⅰ類動詞 okikurumi-an-chikiri-rishitekka-ine-i-yash-an. オキクルミは私の足を掴んで引き裂いた。

yashke¹ < i(顔や手)ashke(きれいにする)顔や手を洗う。第Ⅱ類動詞 kunnano-hopuni-an-wa-yashke-an. 朝起きて顔を洗う。

yashke² < yash(自)ke(自動詞化語尾)引き裂ける。第Ⅱ類動詞 shirimoimoike-wa-toi-yashke. 大地が搖れ動き土面が引き裂ける。

yashkosanu < yash(雷の音がする)kosanu(一回態語尾)ドカンと雷の音が一回鳴る。kanna-nish-sam-yashkosanu-an. 天の雲の側でドカンと雷の音が一回鳴った。

yattomochiw < ya(陸)tom(胴体)chiw(刺す)船などが陸地に着く。主格三人称動詞 an-o-chip-neitanemnya-ekushukono-e-yattomochiw-an. 私の乗った船は何処か見知らぬ処に突然岸に着いた。

yayaparu < yai(自身)aparu(責める)謝る。詫びる。第Ⅱ類動詞 an-ki-katu-wempe-ne-kusu-neno-yayaparu-an-kusu-i-shkttekawa-ikore-yan. 私の為したことが悪うございましたのでこのようにお詫び致しますのでお許し下さい。

yayeyam < yai(自身)eyam(大事にする)身体等に気をつける。第Ⅱ類動詞 e-shiee-ki-kusu-yayeyam-ya. あなたは病気なのですから身体に気をつけなさい。

yayisoitak < yai(自身)iso(猩々)itak(祈願する)猩運を祈願する。原義は狩猟に出掛ける前の祈りの言葉であったが、今では伝承(オイナ)の最後に主人公がその身を明かす常套句。かく語りき。shitumbe-kamui

— yayisoitak. 銀狐の神かく語りき。

yayosura < yai (自身を) osura (捨てる) 身を投げ出す。第Ⅱ類動詞 eikosh-irushika-an-kusu-amset-kata-yayosura-an-wa-ibeka-somokino-hotke-patek-an. 余りにも腹が立ったので寝床に身を投げ出し食事もとらずに寝てばかりいる。

yayuchashkuma < yai (自身を) uchashkuma (物語る) 自身を語る。第Ⅱ類動詞 nea-kamui-neno-yayuchashkuma-an. その神はそのように自分を語りました。

yayukao < yai (自身) ukao (隠す) 隠れる。第Ⅱ類動詞 an-nukan-rusui-somoki-kur-ek-kusu-apa-otta-yayukao-an. 会いたくない人がやって来たので小口のところに隠れた。

yukar < i (それを) u (互いに) kar (作る) 真似をする。第Ⅱ類動詞 kakkoku-hawe-yukar-an-kor-apkash-an-aike-ekushkono-kakkoku-hapo-i-uk-wa-rikin-an. カッコーの声を真似しながら歩いていたら突然カッコーが私を捕まえて飛び上がった。

yup < 擬態語 締める。ふんばる。第Ⅰ類動詞 合成語に現れる。 hoyup < ho (尻) yup (締める) 走る。

yupke < yup (匕) ke (第Ⅱ類動詞化語尾) 激しくなる。第Ⅱ類動詞 Ekushukono-apto-yupke-an-na. 突然雨が激しくなった。

Title	教育普及活動に関するアンケート(結果)
Authour(s)	向井 正幸, 岡本 達哉
Citation	旭川市博物館研究報告,3号,pp71-84
Issue Date	1997-3-31
URL	http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hakubutsukagaku/museum/tvosa/kenkyu/hak03/p71-84.pdf

教育普及活動に関するアンケート（結果）

向井 正幸・岡本 達哉

旭川市博物館

1はじめに

近年、生涯学習に対する意識が高揚し、博物館はその役割を担う施設として大いに期待され、積極的な教育普及活動が要求されている。しかし、市民が博物館施設に何を期待し、何を求めているのかについてはよく理解されていないのが現状ではなかろうか。

今回のアンケートは、そのような教育普及活動に対する市民の生の声を聞くことが重要であると考え、今後市民が望んでいく教育普及活動すなわち講座のあり方や博物館に対する認識、市民の能動的な博物館利用の可能性を探ることを目的として行われた。

2 アンケートの取り方

博物館講座終了後、約5～10分程度の時間を利用し、その場で記入をお願いした。

3 対象

平成7年度の講座参加者を対象とした。参加者は延1,212名で、その中から363名の回答を得た。ただし、複数回講座に参加している者については除いた。

4 アンケートの様式

図1のとおりである。1枚のA4の用紙の表と

裏を利用した。

5 アンケートの要旨

- 設問1～5は、導入部で、講座参加のことと、博物館に来館した回数等を聞いたものである。
- 設問6～9は、何故講座に参加したのか、その様々な動機について聞いたものである。
- 設問10～12は、今回の講座の内容と今まで参加した講座について聞いたものである。
- 設問13～17は、参加者がこれから希望している講座の在り方について聞いたものである。
- 設問18～22は、博物館に対する現在の認識と市民の能動的な博物館利用の可能性について聞いたものである。

以下に続くアンケートの解析結果は、基本的にこれらの設問に対し1つずつ考察していき、他に関連する内容があるものについてはその都度引用していくことにした。

6 アンケート結果報告

今回のアンケートの解析は、小中学生と一般（高校生以上）に分けた。これは、当館が行っている各種講座の対象者の違いを考慮したためである。これにより回答者数は、小中学生190名、一般（高校生以上）173名となった。

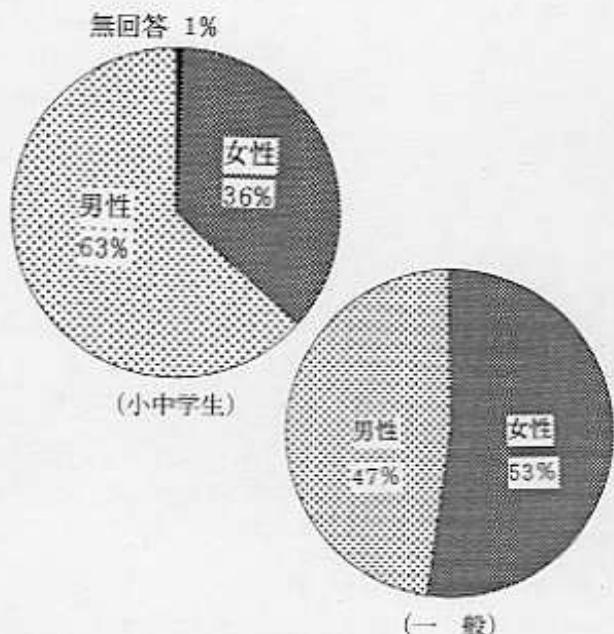
設問には、複数回答もある。

以下に各設問の結果を記載した他、グラフを用いて表わした。

～あなたの意見をお聞かせ下さい～	
(該当する項目に○をつけて下さい)	
1. あなたの性別は? (男性・女性)	
2. あなたの年齢は? (10歳未満・10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代)	
3. あなたのご職業は?	
①中学生・大学生・高校生・大学生・土曜・会社員・農業・公務員・自営業・無職・その他	
4. どちらにお住まいですか? ()	②実家
5. 今日を含めて博物館へいらっしゃった日数は何回ですか?	
(1回目(初めて)・2回目・3回目以上()回目)	
6. この講座は何で知りましたか? (複数選択可)	
新聞や地図報道、次郎「加川市民」、博物館発行の案内物、友人や知人、学校や職場、その他()	
7. 同意。この講座に参加することにしましたか?	
①内容に興味があったから・期間に余裕があったから	
②その他の()	
8. この講座には、グループで参加されましたか? それとも個人で参加されましたか? (複数選択可)	
①家族・友人・個人・その他()	
9. この講座に参加するため、博物館までの公共交通機関は何を利用しましたか? (複数選択可)	
①自家用車・バス・タクシー・自転車・徒歩・JR・その他()	
10. 今回の講座内容は、理解しやすかったですか?	
(わかりやすい・普通・わかりづらい・その他())	
11. 今回の講座を含め、今まで何回講座に参加されましたか?	
(1回目(初めて)・2回目・3回目以上()回目)	
12. 11で2回目未満が3回目とお答えした方にお聞きします。具体的にはどのような講座に参加されましたか?	
()	
裏面へ続きます()	

図1 アンケートの内容

なお、これらのデータは、全てFile Maker ProとMicrosoft Excelによってデータベース化されている。



設問1 あなたの性別は?

設問1 あなたの性別は?

一般ではほとんど講座参加者の男女差がないのに対し、小中学生では、男性(120名)に対し女性(69名)と約2倍の開きが出てしまった。特に女子中学生は2名と極端に低く、男子中学生の13名に比べても低かった。

設問2 あなたの年齢は?

設問3 あなたのご職業は?

一般の女性では、30~60代に79名(87%)が集中し、そのうち57名(72%)は、主婦であった。主婦は、女性全体でも59名(65%)を占めた。

一般の男性では、60代が25名(30%)と最も多く、そのうち21名(84%)が無職であった。無職の男性は、33名(40%)と最も多かった。

60~70代の男女では、『生き甲斐』(70代 無職・男性)、『身近な勉強の場』(70代 無職・男性)、『一緒に勉強したい』(60代 無職・男性)などという博物館利用の理由が述べられていたが、まさに生涯学習の場として利用されていることが分かっ

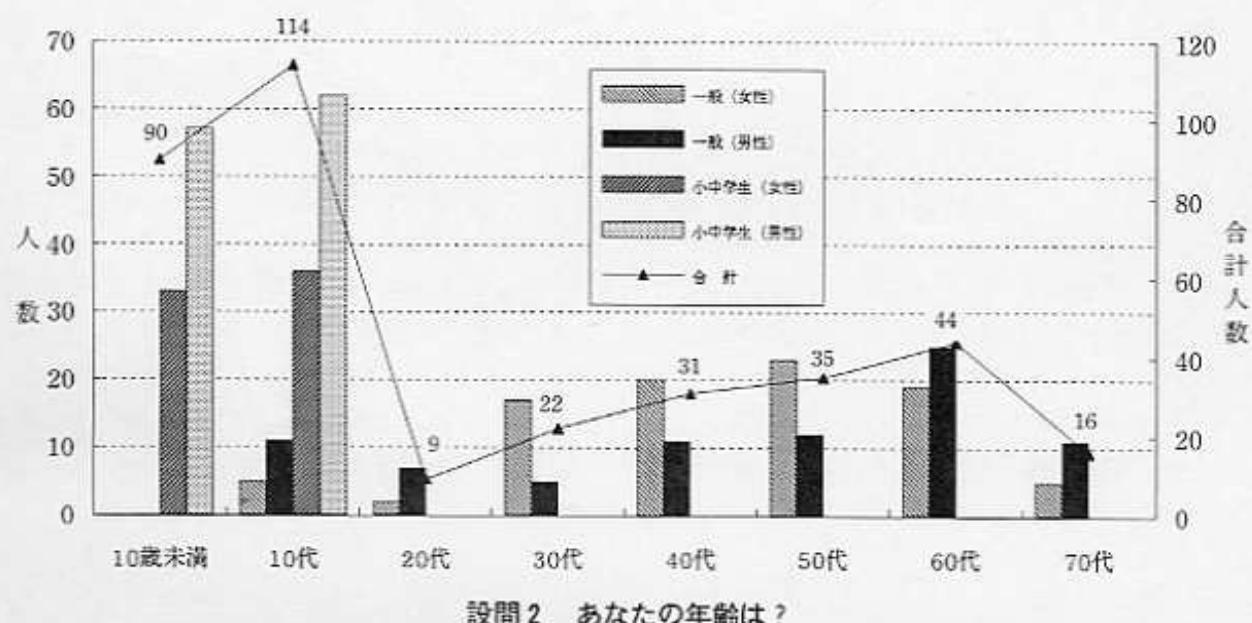
13. 再び全員の方にお聞きします。これからも講座に参加したいと思いますか?
(はい・いいえ・どちらでもない・その他())
14. これからどの程度の時間は何分くらいが適切ですか? また、講座の途中に休み時間はありますか?
講座の時間 () 分程度 休み時間 () はい () 分 いいえ () 分
15. これからどの程度頻度について希望する講座・回答ありますか? (複数選択可)
毎週 日 () 曜・月・火・水・木・金・土・祝になし ()
午前 () 時 ~ 午後 () 時までの間が好き () 時になし ()
16. これからは、どの分野の講座を望みますか? (複数選択可)
①考古・民族・歴史・洋文化・郷土関係・植物・動物・化学・気象
②その他 ()
17. 今後、どのようなタイプの講座内容を望みますか? (複数選択可)
①簡単による説明資料を中心とした講座内容
②講師による講義形式を中心とした講座内容
③講師による質疑応答形式を中心とした講座内容
④実験による操作練習を中心とした講座内容
⑤映像による視覚的要素を中心とした講座内容
18. 今回及び今までの講座に参加して、從来あなたが最初に持っていた博物館のイメージはありましたか? (はい・いいえ・どちらでもない)
19. いま現在あなたがお持ちの博物館に対するイメージを具体的にお聞かせください。
()
20. あなたは今後とも博物館と何かの形で関係を保つことをお考えですか?
(はい・いいえ・どちらでもない)
21. 20で、はいとお答えした方にお聞きします。具体的にはどのようなことですか?
()
22. 最後に博物館に対するご意見がありますら何でも結構ですからお聞かせください。
()

ご協力大変ありがとうございました。
この調査は、1回問を通過する者を対象に行われ、調査結果につきましては、博物館により「かみこむ」や研究会等を通じて各教育系組織や一般市民に提供することにて、今後の博物館の教育資源の充実資料となります。

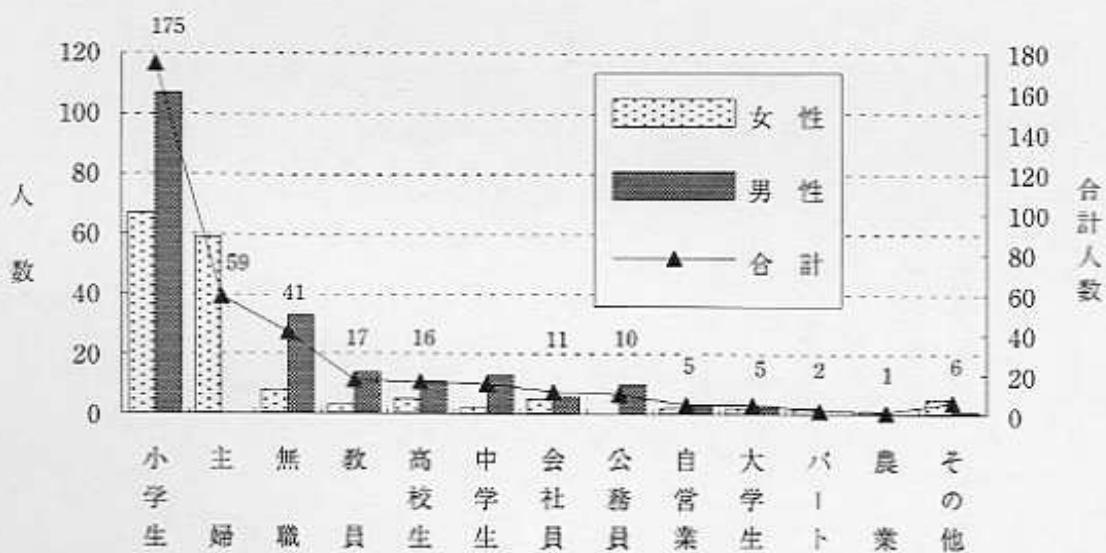
た。

10代後半から20代にかけての女性（学生又は会社員（OL））や、同じ年代の男性の利用はかなり低く、このような若い世代を対象とした講座や博物館利用方法を充分に考慮しなくてはならないだろう。例えば、『夜に行きたい』（20代 教員・男性）は、その一例であり夜間まで延長して開館し、博物館へ足を運ぶきっかけをつくるなど、利用者の便宜をはかってみることを実験的に行うことも必要ではなかろうか。

中学生は、15名（8%）と小中学生の中ではかなり低い。しかも、男子中学生に限れば部活動の一環として博物館へ訪れ講座に参加したことを考慮すると、自主的に参加した人は皆無である。女子中学生は2名であり、これも極端に低い参加者数である。『小学生・中学生・高校生を進んで参加できるように』（50代 パート・女性）と意見があったが、博物館としても充分に考慮する必要がある。図書館を例にとれば、小学生をはじめとして中高校生の利用が多いが、それは図書館という施



設問2 あなたの年齢は？



設問3 あなたのご職業は？

設の利用方法が、通常よく理解されているためではなかろうか。それに対し、博物館という施設は、『展示しているだけかと思った』(10歳未満、小学生・女性)に代表されるように、よく理解されていないのではなかろうか。従って、現在の“旭川市博物館”を少しでも理解してもらうために、例えば、比較的受け入れられやすい体験学習的な講座や、参加者が楽しむことができるイベント的な行事を開催するなどして、まずは博物館へ足を運んでもらうきっかけづくりが必要であるだろう。そして、博物館という施設が、「身近な場所である」ことや「こんな利用ができる場所である」ということを、小学生を含めた中高生に向けて、当館が積極的にPRしていくかなくてはならないであろう。

中学生～大学生の講座の参加形態は、『学校で行くことになったから』(10代、中学生・男性)というように部活動やサークルで参加したという人ばかりであり、このような参加形態が実態である。従って、博物館を理解してもらっていることを前提とし、中学生～大学生の利用を考えた場合、個人を対象とするより、むしろこのような部活動・サークル単位の利用にターゲットを絞った講座内容も1つの方法であろう。

設問4 どちらにお住まいですか？

設問5 今回を含めて博物館へいらっしゃった回数は何回ですか？

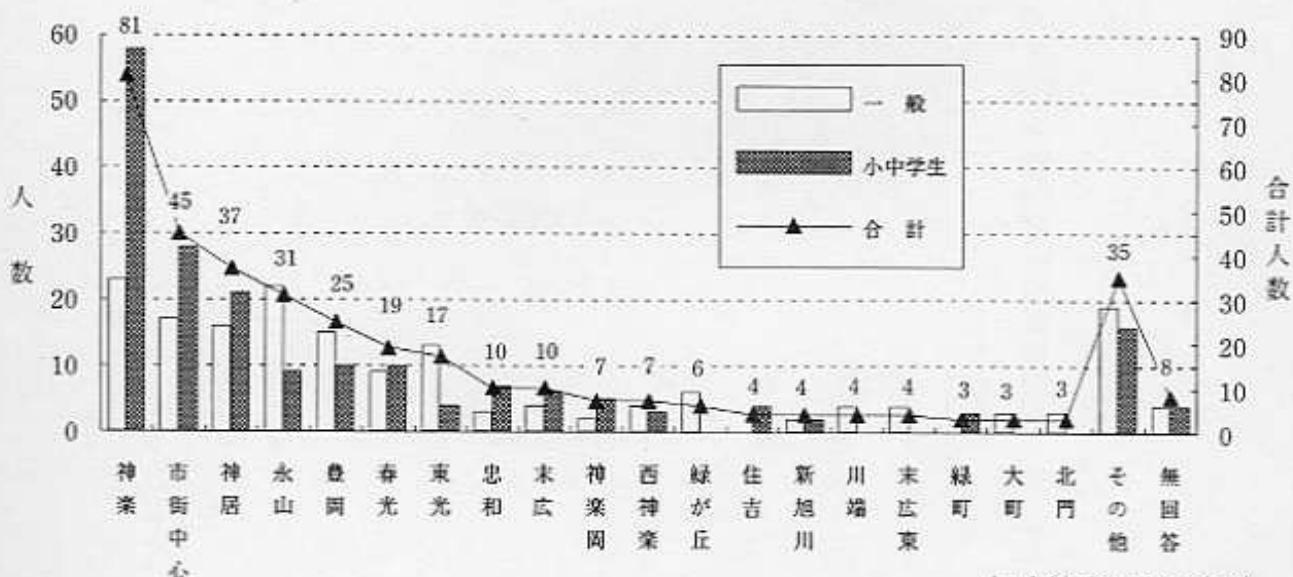
博物館へ訪れた回数が1～3回目という人は、小中学生で123名(65%)、一般が125名(72%)であり、大抵の人はこの中に含まれる。また、今回のように講座に参加した人でも、1回目(初めてに相当)という人がそれ146名(24%)、51名(29%)と講座参加者数の約4分の1以上にのぼることが分かった。

また、5回目と10回目にピークが小中学生と一般双方に見られるが、だいたいこの位来たという推定のもとで記載されたのである。いずれにせよ何回も積極的に博物館へ訪れていることが容易に想像できる。

ところで、小中学生では、神楽・神居・市街中心部3地区の人があわせて107名(56%)を占めた。全体的な傾向として、博物館へ来る回数が3回目以降は極端に減る中で、この3地区だけで48名(75%)の人が4回以上博物館へ来たと回答している(神楽は旭川市博物館の所在地である。神居・市街中心部は、その隣接地区である)。

このように、比較的近くの地区に住んでいる人程、博物館を数多く利用しているのが明確になった。

このことは一般でも、同じ傾向が見られた。小中学生の場合には見られなかった永山・豊岡・東



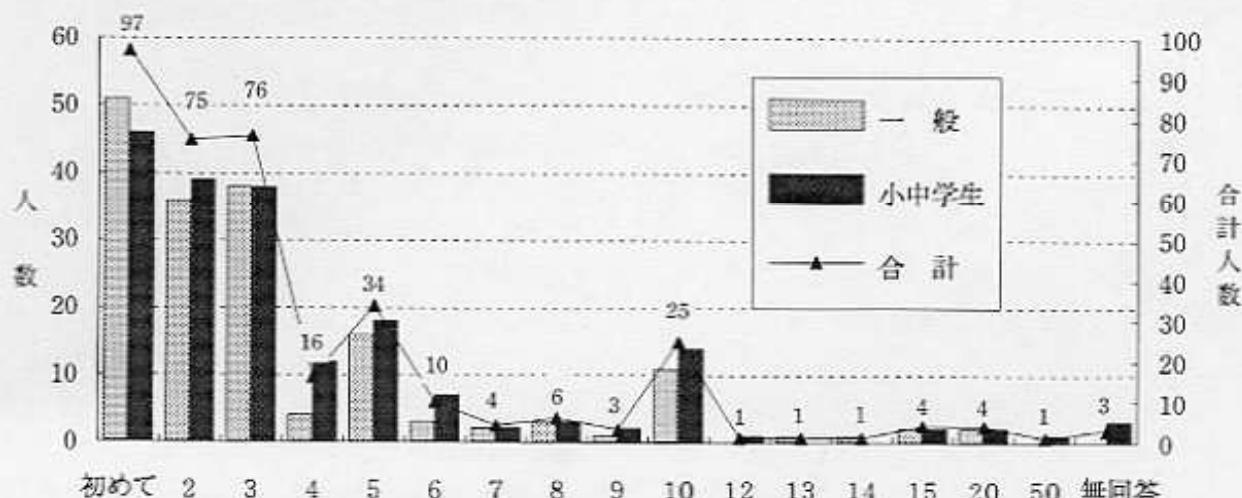
設問4 どちらにお住まいですか？

光地区など、博物館から比較的離れた地区の利用者に関しては、永山地区では友人同士で誘いあって訪れていること、豊岡地区・東光地区は、ほとんどの人が複数回博物館へ来ている人ばかりで、これらの3地区には、たまたま博物館を積極的に利用する人が多かったために、統計の上位に現われたことが分かった。一般の人の中で『豊岡から遠いので、バスの時間がかかる』(主婦 40代・女性)という回答があったが、それを考慮した場合、今後は各地区に分散する公民館や住民センター等を利用した“出前”の博物館講座も必要となってくるだろう。

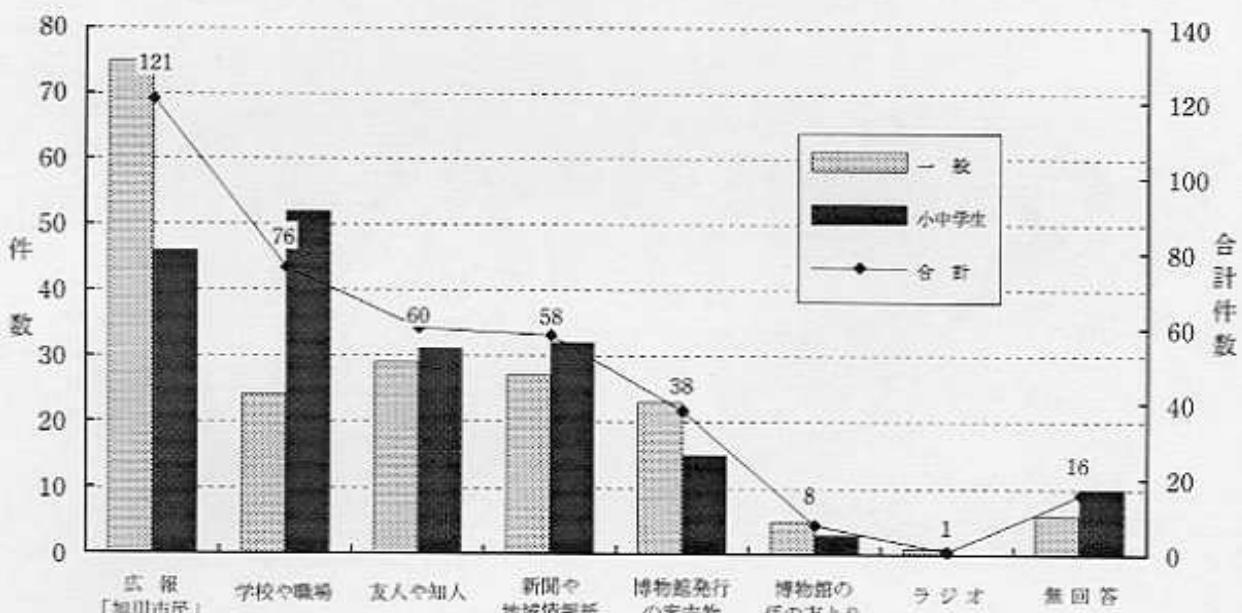
設問6 この講座は何で知りましたか？(複数回答)

小中学生では、“学校や職場”と答えた人が52件(27%)と最も多く、このうち48%は神楽在住で、大多数が神楽小学校の児童であることが考えられる。神楽小学校は、博物館から最も近い距離にある小学校であり、週休2日のモデル校でもあった(平成7年度)。

従って、学校の立地条件もあるが、学校単位での博物館利用への取り組みがそのままアンケートに反映された形で回答に現われていると言えよう。



設問5 今回を含めて博物館へいらっしゃった回数は何回ですか？



設問6 この講座は何で知りましたか？(複数回答)

現在、旭川市博物館では「学校教育との連携」を積極的に行うため、小中学校の先生と毎年意見交換会を行っているが、小中学生の博物館利用の促進をはかるためにも、今後その連携の強化が増々望まれる。

一般では、「広報『旭川市民』」と答えた人が75件(39%)(小中学生では、46件(24%)第2位)と多かった。これらの人々は市内24(小中学生:18)地区から分散して来ており、市の広報による報道の有効性がよく現われたと言えよう。

しかし、回答の中の博物館に対する意見で『PR不足』(複数名)という声がかなり見受けられた。従って、今後、講座の周知方法を見直し、更に強化することが必要である。

設問7 何故、この講座に参加することにしましたか?

この設問の回答としては、小中学生・一般とも“内容に興味があったから”(それぞれ68%、84%)というごく当り前の結果になってしまった。今後のアンケートの取り方に一考を要するところである。

また、“時間に余裕があったから”と答えた人もそれぞれ18%、7%であった。設問14、15で、講座の開催曜日や時間等についての結果を報告するが、これらのこととも受講する側の大きな要因でもあることがわかった。

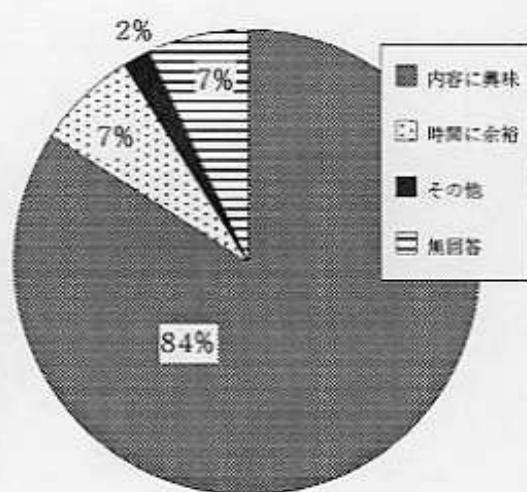
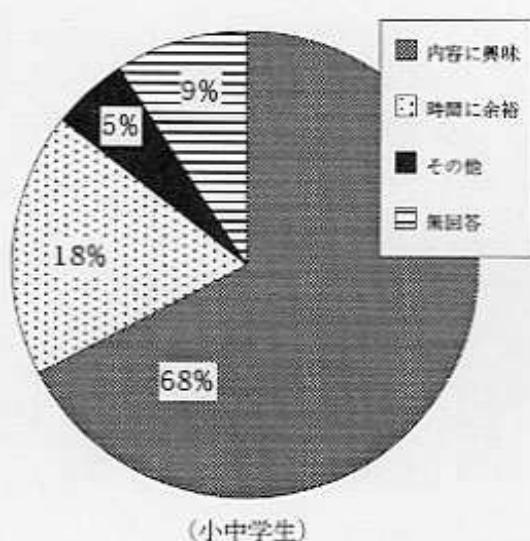
興味深いこととして、『今後とも安い参加費をお願いします』(10歳未満 小学生・男性)という意見があった。当館では、野外で行われる体験学習の時に、傷害保険料として50円程度を徴収するほかは、ほとんどの講座が基本的に無料で行われる。他の部署では、材料費や交通費を徴収するところが多い中で、当館は無料で行い、受講者に金銭的な負担をさせないことも、参加しようとする動機の要因であることが分かった。この参加費が無料であることは、旭川市博物館の講座の特徴でもあり、個人的には自慢でもあると思っている。

設問8 この講座には、グループで参加されましたか? それとも個人で参加されましたか?

(複数回答)

小中学生では、半数以上の人々が“友人”であった。講座参加の動機の1つとして『友達が行くと言ったから』(10代 小学生・男性)、『友達に誘われて』(10代 小学生・女性)などがあったように、学校授業の延長のつもりで参加しているようである。このことより、友人と一緒に参加して楽しむことができるような講座が喜ばれるようである。

また、“家族”で参加している人は、市内全域(20地区)にわたって参加している。回答の中で『遠いので親と一緒に参加することになるので家族で楽しめる講座がよい。』(10歳未満 小学生・男性)という意見があったが、親子で参加できる講座を、



設問7 何故、この講座に参加することにしましたか?

今後多く開催することが望まれる。

“個人”と回答した人の中で初めて博物館へ来たという人は、28名中3名しかおらず、単独で参加する人は積極的なリピーターであることが分かった。

一般では、“個人”(73件)が多く、その中で4分の3以上の人人がリピーターであった。

“家族”での参加も50件(28%)と多く、小中学生と同様、親子で参加できるような講座に要望があるようだ。実際、自家用車で来ることも多いのが現状(設問9)であり、親子対象の講座は必要である。

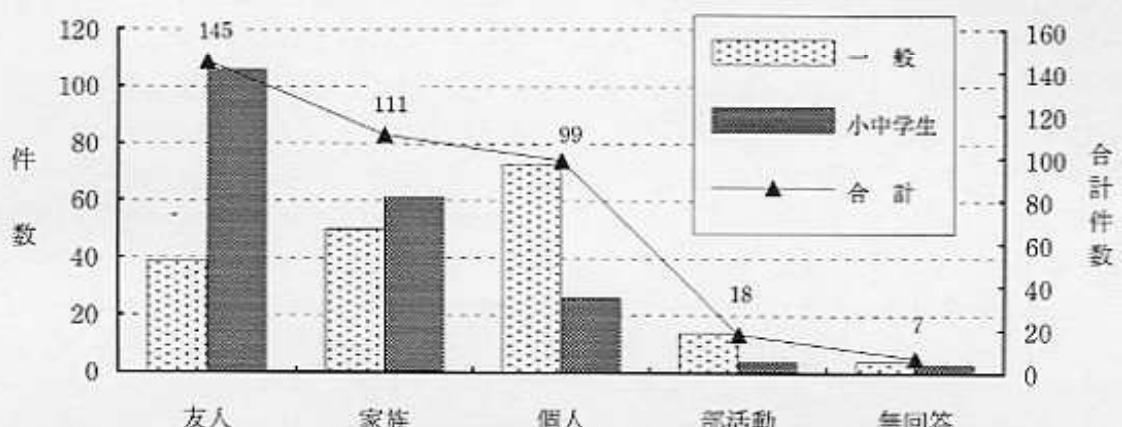
また、“友人”は39件(22%)で、その4分の3は女性であった。親しい友人同士で気軽に参加できる講座内容、例えば体験学習的な内容が好まれる

ようである。

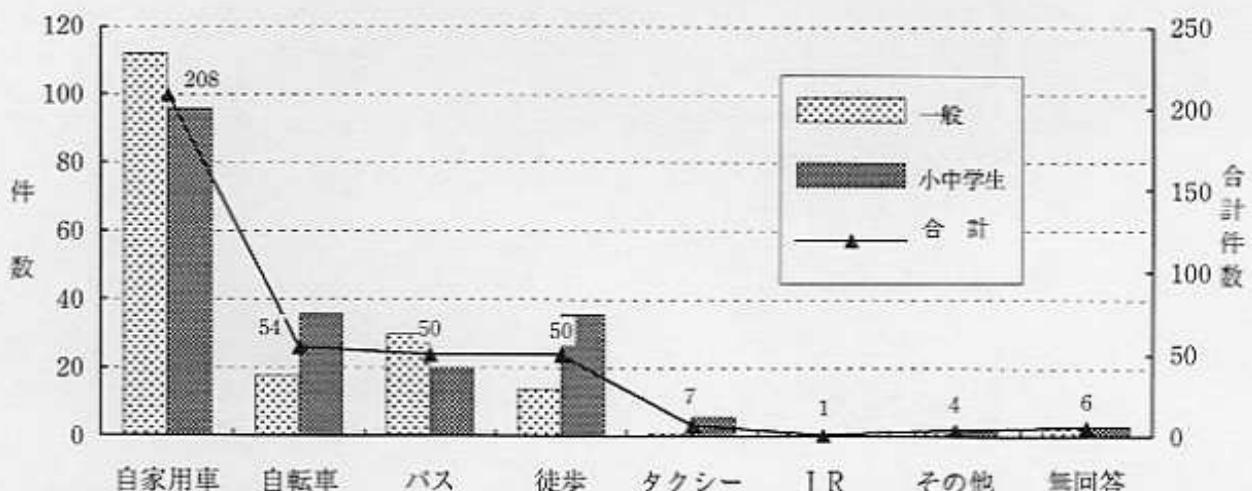
設問9 この講座に参加するため、博物館までの交通機関は何を利用しましたか？(複数回答)

小中学生も一般もだいたい同じ傾向であり、特に、冬の有効な交通手段でもある自家用車は、それぞれ48%、62%と利用者数が多く、小中学生では25地区より、一般では29地区よりと市内全域に参加者が分散していた。

また、神居・神楽・市街中心部地区の比較的近いとされる地区の人の多くは自転車や徒歩であるが、冬場の講座では徒歩の他に自家用車を利用していた人が多かった。



設問8 この講座には、グループで参加されましたか？
それとも個人で参加されましたか？(複数回答)



設問9 この講座に参加するため、博物館までの交通機関は何を利用しましたか？(複数回答)

設問10 今回の講座内容は、理解しやすかったですか？

小中学生と一般、ともに“わかりやすい”、“普通”と回答した人が90%以上にのぼり、おおむね満足しているようである。しかし、“わかりづらい”、“難しい”も4%と2%含まれていた。『当日より前に資料等を渡していただければ』(40代 主婦・女性)という意見もあり、講座の内容だけではなく、そのやり方についても改善の余地は充分にあると思われる。

設問11 今回の講座を含め、今まで何回講座に参加されましたか？

小中学生では、初めてという人が135名(71%)占めた。また、1~3回目の人が93%以上を占めた。

初めて講座に参加した人の28%は“学校で講座を知った”と回答した。“広報「旭川市民」”では26%、“新聞や地域情報紙”では18%、“友人や知人”では15%であり、これらは小中学生全体の傾向とほぼ変わらなかった。また、この人達の79名(59%)は、“講座がわかりやすかった”と答え、“これからも参加する”と回答した人は99名(73%)であった。住所は、21地区に分散していたが、その中でも特に、市街中心部・神居・神楽が目立った。参加形態は、友人(54%)、家族(34%)であり、最初は、学校で講座の話を聞き友人と一緒に参加する

ことが多いようだ。

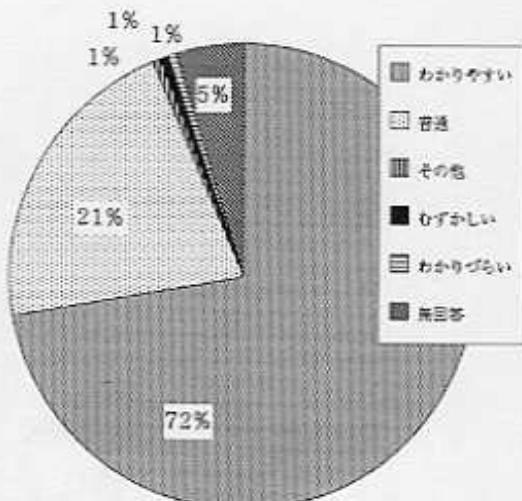
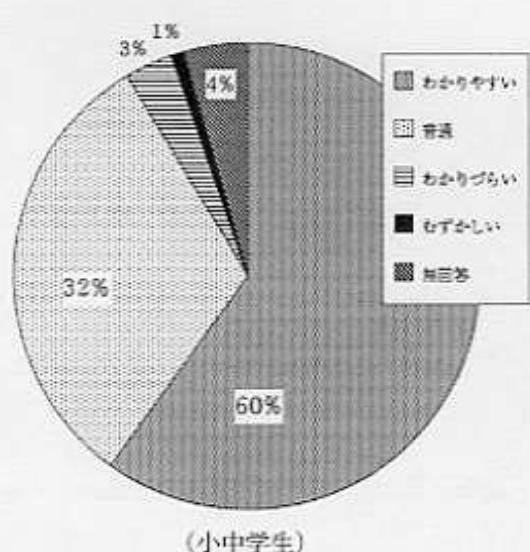
一般では、初めてという人が94名(54%)で半数以上占めた。また、1~3回目の人が90%以上を占めた。

初めて講座に参加した人の45%は“広報「旭川市民」”で講座を知った。“新聞や地域情報紙”では22%であったが、それ一般全体の平均(39%、14%)を上回った。この人達の37名(73%)は“講座がわかりやすかった”と答え、“これからも参加する”と回答した人は40名(78%)であった。また、市内22地区に分散し、参加形態は、個人(33%)・家族(31%)・友人(24%)であった。

現在のところ、3回目以降の参加者は極端に減る傾向にある。『テーマを決めた取り組みを時々計画して欲しい』(50代 教員・男性)というように、講座のリピーターを獲得するためにも、シリーズで行われる講座内容や参加者の要望に沿った講座内容が充実されるべきと思われる。

ところで、4回以上講座に参加しているリピーターの傾向は、次の様な特徴が現われた。

小中学生(8名該当、うち男性7名)では、比較的博物館に近い所に住んでいる人、特に神楽地区が5名と目立った。今後望む講座のタイプとしては、全員が“体験的な内容”と回答した。また、参加した理由の一つに『絶対勉強になるから』(10代小学生・男性)があり、自らが学習の場として積極的に活用していることもわかった。



設問10 講座の内容

一般(12名該当)では、1名が札幌に住んでいる人を除き、やはり比較的博物館に近い所に住んでいる人が多く、神楽・神居地区が3分の2を占めた。今後望む講座のタイプとしては、これも“体験的な内容”が目立った。

設問12 11で2回目及び3回目とお答えした方に
お聞きします。具体的にはどのような講座
に参加されましたか？

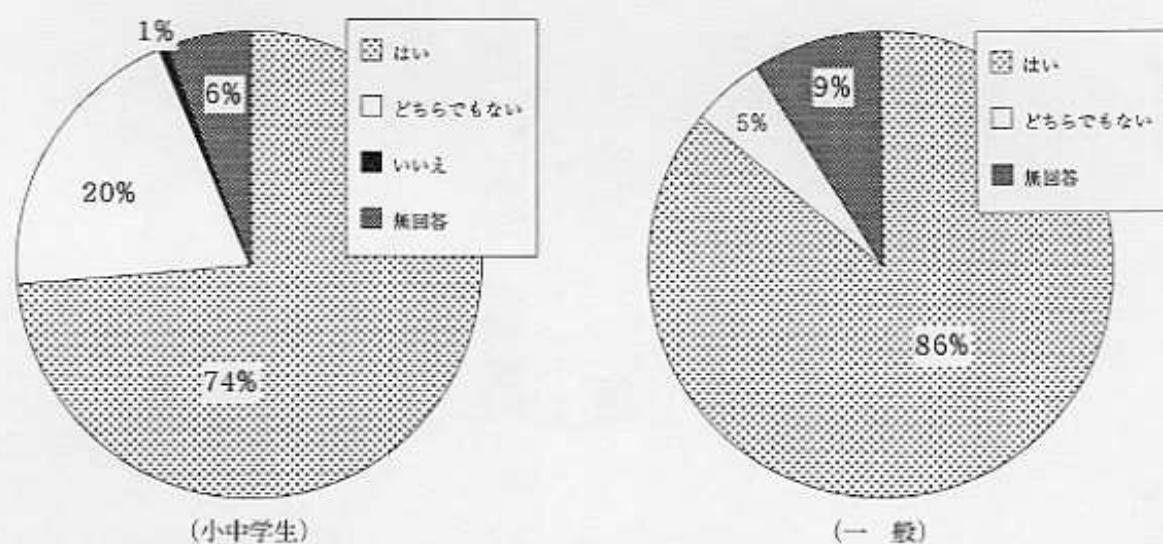
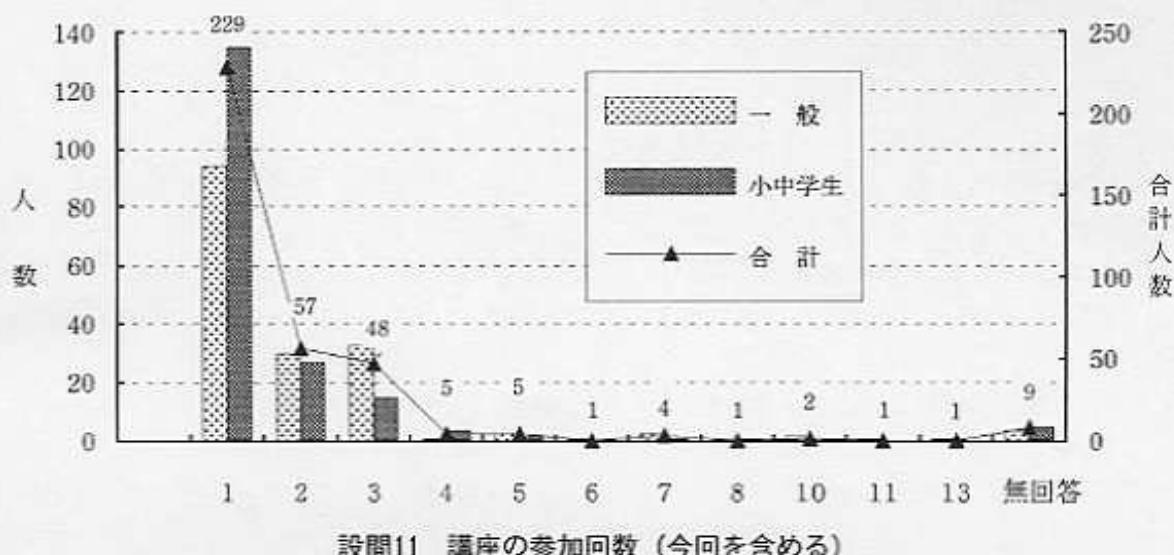
(省 略)

設問13 これからも講座に参加したいと思いま
すか？

小中学生では、140名(73%)が、“はい”と回答
した。“どちらでもない”と回答した38名のうち初
めて博物館へ来た人は10名、他の人は何回も博物
館へ来ている割には講座に初めて参加する人が20
名にものぼり、初めて参加してみて戸惑っている
のではなかろうか。

一般では、149名(86%)が、“はい”と回答した。
また、“どちらでもない”と回答した人の9名中6
名は、やはり講座に初めて参加した人であった。

初めて講座に参加する人が多い中(設問11)で、
これからも参加するかどうか分からず人が多か
った。初めて講座に参加する人にとって、その時
受けた講座の印象が次回の参加動機への重要な要



因になるようである。

設問14 これからの講座の時間は何分ぐらいが適当ですか？また講座の途中に休み時間はあったほうがよいですか？

小中学生では、60分間(38名・20%)と120分間(29名・15%)の回答が目立ち、休み時間はそれぞれ10分間(38名中17名)、10分間(29名中14名)であった。

一般では、120分間(61名・35%)と90分間(22名・13%)の回答が目立ち、休み時間はそれぞれ10分間(61名中21名)、無し(22名中6名)であった。

どちらの時間も、郷土学習室で講座を受けるという前提であると解釈して良く、野外での講座を受けた人の回答では、180分以上という要望もあった。

設問15 これから講座開催について希望する曜日・時間帯はありますか？(複数回答)

小中学生では、日曜日が76件(34%)、土曜日が54件(24%)の回答が目立ち、その曜日の時間帯は、両方とも10時から(それぞれ25件33%、16件30%)であった。

一般では、日曜日が65件(27%)、土曜日が54件(23%)の回答が目立ち、時間帯はそれぞれ10時から(24件37%、15件28%)であった。

このように土日曜日に集中し、午前10時からが

最も多かった。その他、多かったものとして、小中学生では、土曜日の午後1時から、一般では土曜日の午後2時からであった。

ところで、一般で平日を希望する人の時間帯は、10時からという人が23名(43%)と多かった。職業的には、“主婦”と“無職”が合わせて10名(43%)、“高校生”が10名(43%)であった。高校生の希望する曜日は、部活動の曜日と同じと考えられる曜日に集中していたが、その他の人には目立った曜日はなかった。

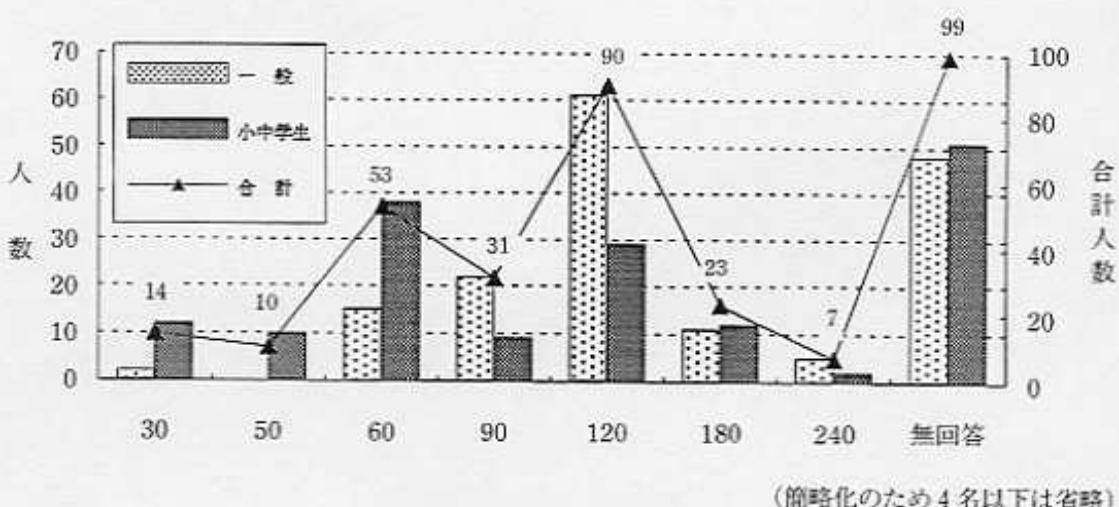
また、このような土日を一切希望しないで平日のみ希望する人は、小中学生では、17名(9%)、一般では16名(9%)おり、このような人達への措置も考慮し、実験的に講座を行ってみる必要があるだろう。

設問16 これからは、どの分野の講座を希望しますか？(複数回答)

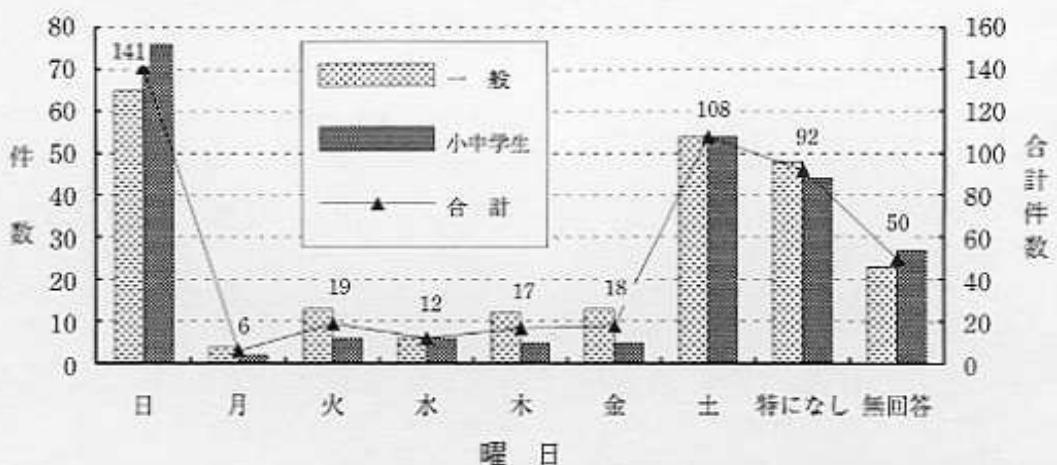
小中学生では、“動物”が100件(29%)と圧倒的に多く、“歴史”・“植物”と続いた。一般では、“植物”が81件(20%)と多かった。また“郷土関係”と回答した人が多く、小中学生との違いが現われた。

設問17 今後、どのようなタイプの講座内容を希望しますか？(複数回答)

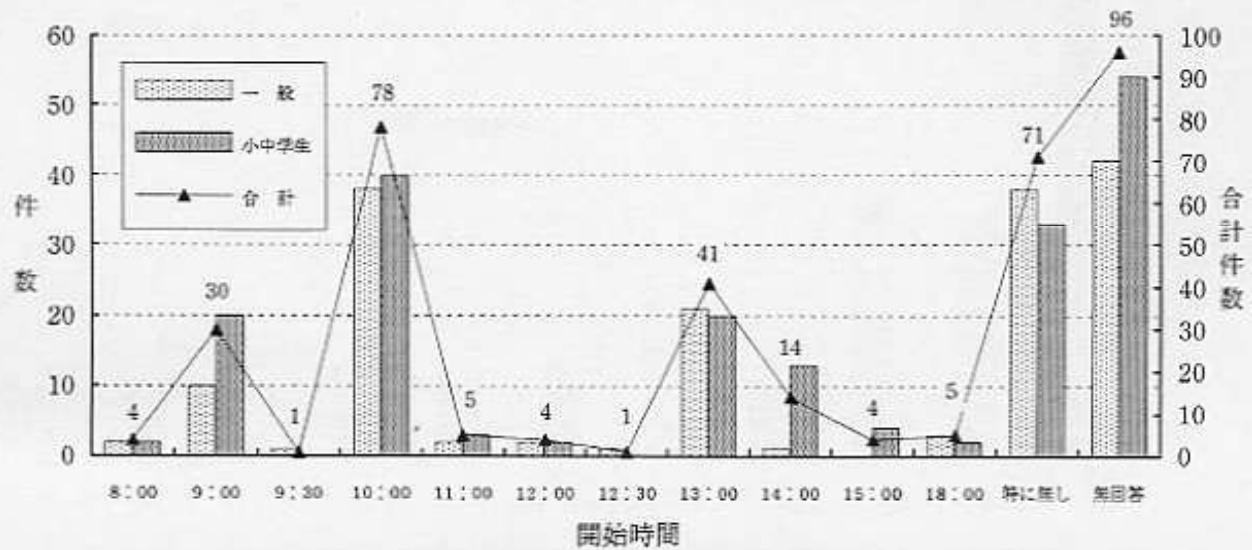
小中学生では、“講師と一緒に何か調べたり作り上げたりする体験的な内容”が58件(30%)、



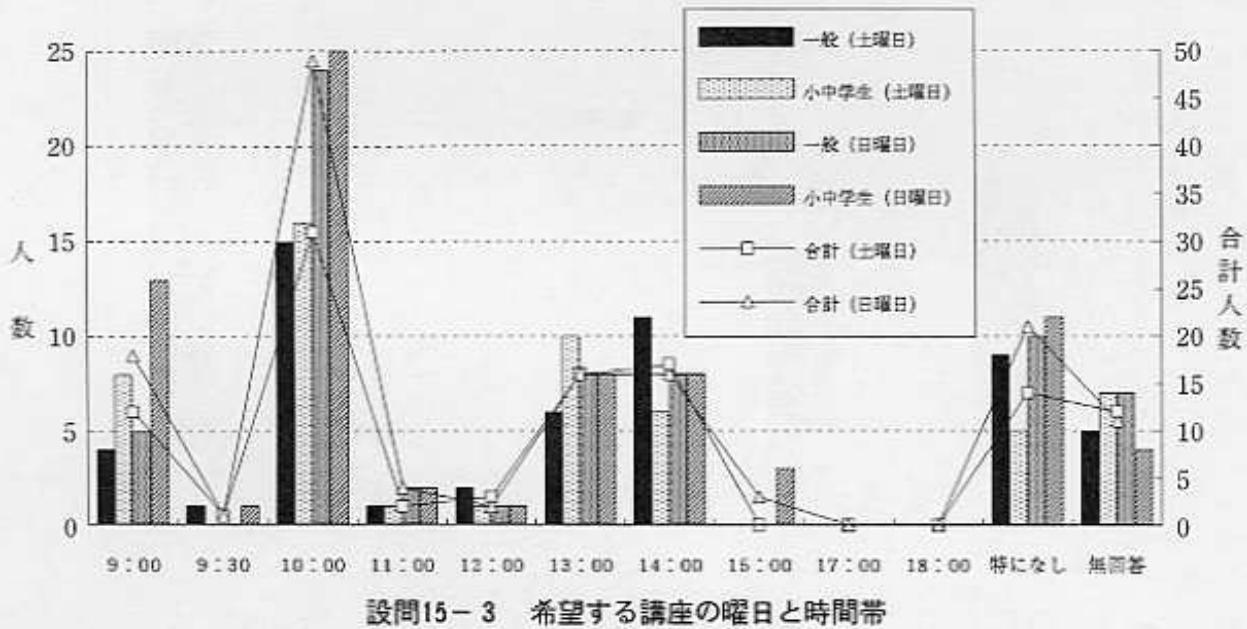
設問14 希望する講座の時間 (分)



設問15-1 これからの講座開催について希望する曜日はありますか？(複数回答)



設問15-2 これからの講座開催について希望する時間帯はありますか？(複数回答)



設問15-3 希望する講座の曜日と時間帯

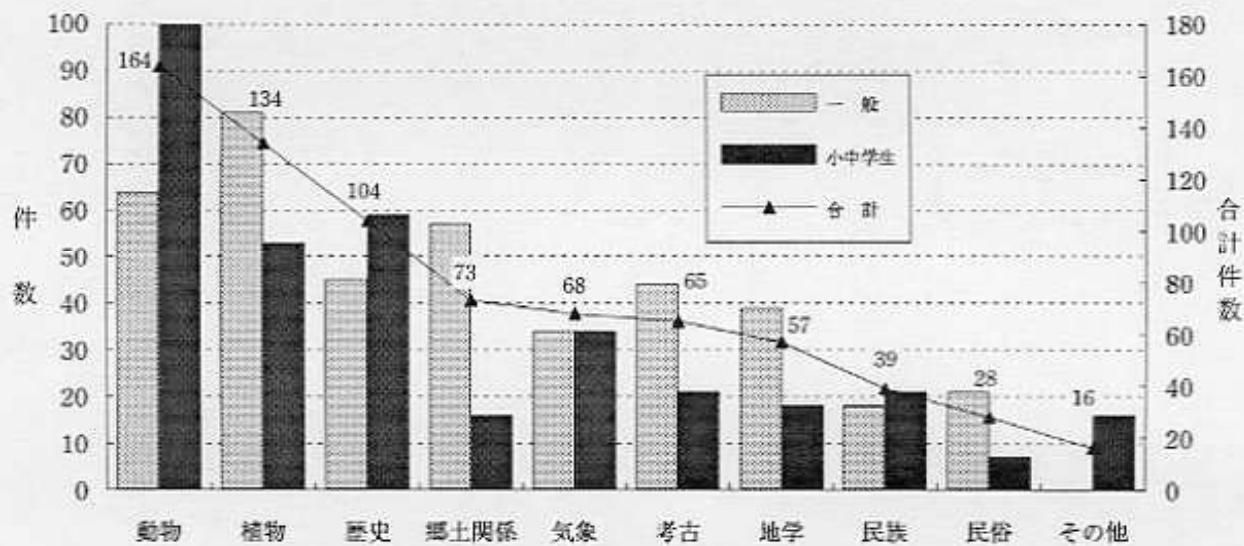
“スライドやビデオなどを中心とした内容”が43件(22%)と目立ち、“講師による話題提供を中心とした講座内容”や“講師と受講者の対話を中心とした内容”は、ほとんど無かった。

講座の希望する具体例としては、『石狩川の河口から源まで探る』(10歳未満 小学生・男性)、『高齢者と昔のものをつくる』(10代 小学生・女性)、『戦争について』(10歳未満 小学生・男性)、『学年別に合わせた講座』(10代 小学生・男性)、『アイスの人が食べていた食料』(10代 中学生・女性)といった内容で、当館としても講座を計画

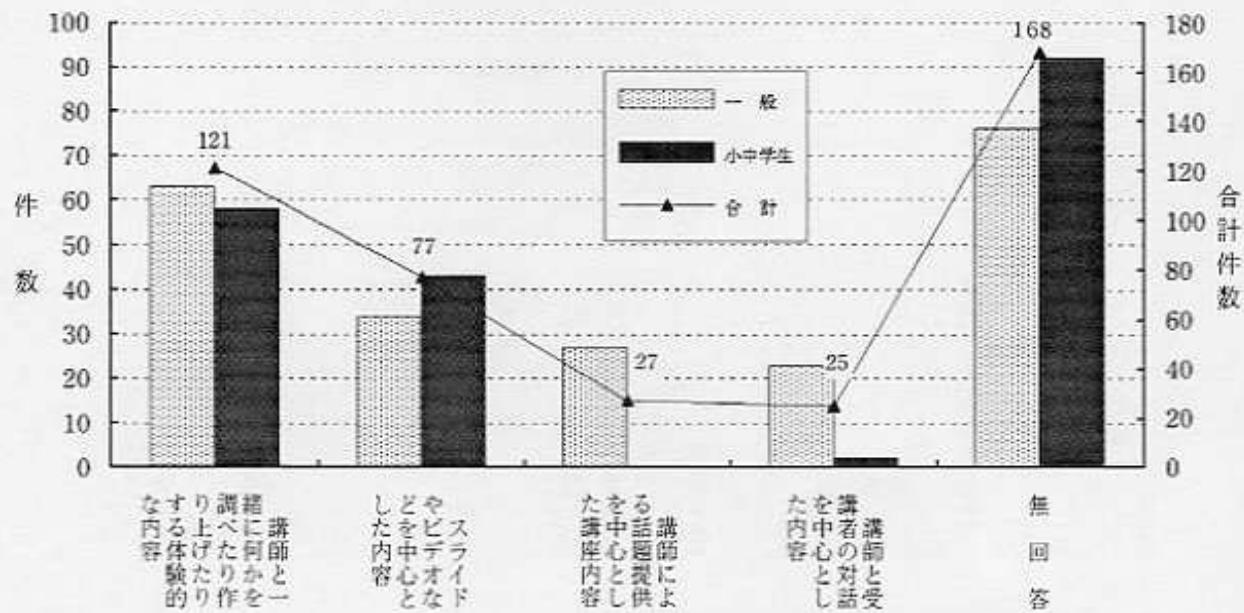
し実施する上で、考えさせられる内容である。

一般では、“講師と一緒に何かを調べたり作り上げたりする体験的な内容”が62件(28%)と多く、具体例として『地域の素材を取り上げた内容』(40代 教員・男性)、『実際に現地を見ながら学ぶ』(50代 主婦・女性)、『普段体験できないことを子ども達と一緒に体験したい』(40代 主婦・女性)などがあった。

双方ともに体験学習的な内容やスライドやビデオといった内容に希望が目立った。



設問16 これからは、どの分野の講座を希望しますか？(複数回答)



設問17 今後、どのようなタイプの講座を希望しますか？(複数回答)

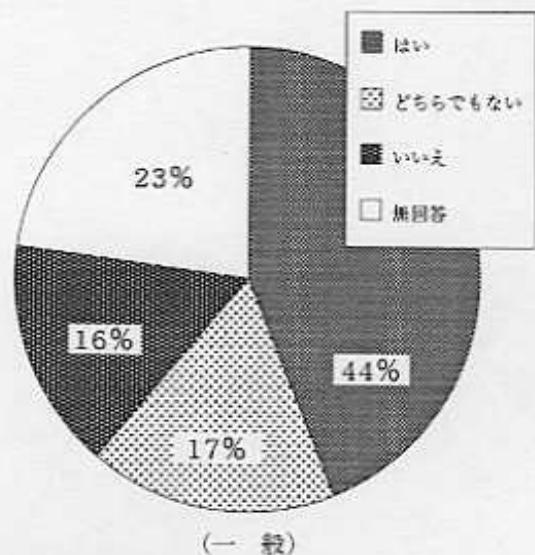
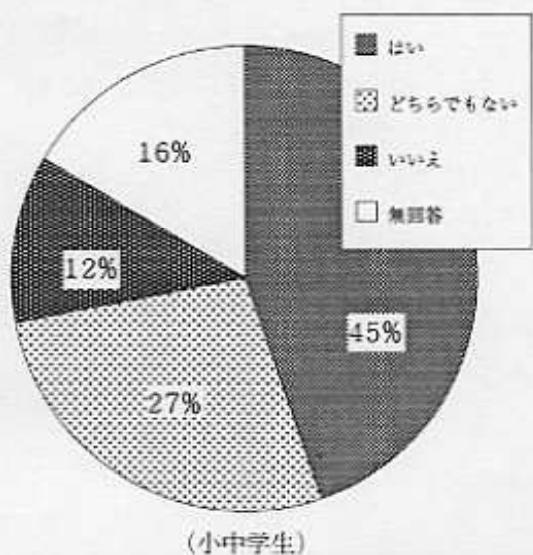
設問18 今回及び今までの講座に参加して、從来あなたが最初に抱いていた博物館のイメージは変りましたか？

設問19 いま現在あなたがお持ちの博物館に対するイメージを具体的にお聞かせ下さい。

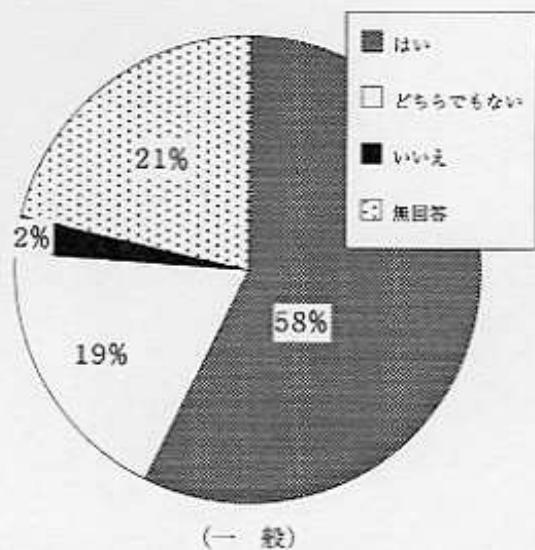
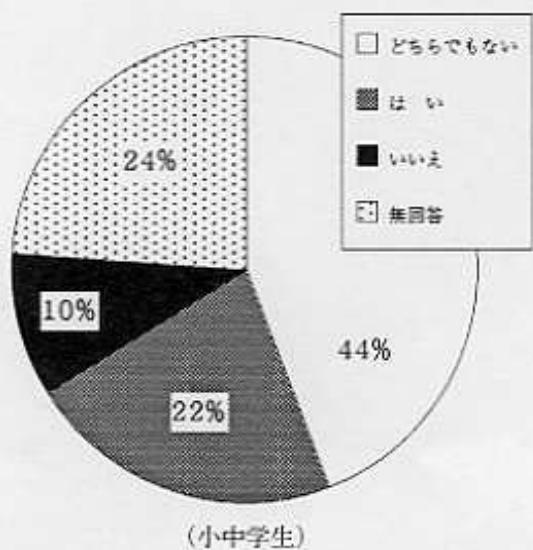
この設問は、“以前に比べてイメージは良いほうへ変わったか”を聞いたかったが、元から良いと思っている人にとっては、“いいえ”という回答になり、必ずしもこちらの趣旨に合うような回答は得られなかった。しかし、具体的なイメージから察するところでは、現在の旭川市博物館は全般的

に良いイメージで見られていることが分かった。ところが、小中学生で少数はあるが、当館にとってマイナスのイメージと思われる具体例があった。『さらにつまらなくなった』、『博物館自体よくわからない』、『堅苦しい』、『入りにくいイメージがある』。これらは全て男子中学生であった。普段利用しない博物館へ、部活動の一環として初めて来て受講したために、博物館をよく理解することができなかつたことが、マイナスの要因になったのだと推測される。

一般では、『(今まで)古い道具等をただ展示



設問18 博物館のイメージは変わりましたか？



設問20 博物館との関係を保ちますか？

してあるだけかと思っていた』(40代 主婦・女性)という従来持っていた博物館のイメージを脱却し、『体验学習などに参加しているので博物館とは楽しさが違う』(20代 会社員・男性)、『実際に実践して活動している』(10代 高校生・男性)という言葉で代表されるように、講座等を積極的に行う博物館というイメージが、講座に参加した人の間で浸透していることが分かった。

このようなことから、博物館へ一度も訪れたことのない人が持っている従来のイメージを払拭し、現在の旭川市博物館を少しでも理解してもらうためにも、こちらから積極的に働きかけ、まずは博物館へ足を運んでみたくなるような講座等が必要である。

設問20 あなたは今後とも博物館と何らかの形で関係を保つことをお考えですか？

設問21 20で、はいとお答えした方にお聞きします。具体的にはどのようなことですか？

小中学生では、“どちらでもない”が84名(44%)であって、“今後の関係は”という設問が抽象的すぎて、理解されていない部分があったように思える。また、“いいえ”と答えた人で、今後も講座に参加しないと回答したのは、今回初めて講座を受けた1名のみであった。

一般でも設問を理解されていない人がおり、“いいえ”と回答した4名(2%)は、全員これからも講座に参加すると回答していた。

設問のし方に問題があり、次回は考慮すべきであろう。

以上より、講座を利用した大多数の人は、今後とも何らかの形で博物館を利用していくと考えていることが分かった。その中で『生涯学習の一手段に』(50代 男性・会社員)という回答は、今後、旭川市博物館が講座をはじめとする事業を推進していく重要な目標となるものである。

設問22 最後に博物館に対するご意見がありまし
たら何でも結構ですからお聞かせください。

意見は、各設問の中に引用したが、その他で特に気付いた意見として、『もっと詳しい資料があ

ったら良い』(30代 主婦・女性)というのがあった。これは、文献資料のデータベース化に伴う文献閲覧について的一般への周知不足があるようだ。今後、講座参加者には周知徹底を計り、サービス向上に努めたい。

7 おわりに

今回のアンケート調査は、新しい博物館が開館してから、講座参加者の博物館利用実態を探る初めてのアンケートであった。内容は、今後アンケートを継続する場合、何箇所か設問を改善しなくてはいけない部分があったが、ある程度の講座参加者の様々な傾向が分かったと感じている。

今回の結果は、博物館の教育普及活動のあるべき方向と博物館に対する認識、そして市民の能動的な博物館利用の可能性を考える一つの資料となり得るだろう。